

(案)

第3次木更津市農業振興計画

～活かそう、つながろう、農業で^{けんこう}健幸なきさらづ!～

令和6年3月

木更津市

目次

第1章 計画の策定にあたって	4
1. 第3次木更津市農業振興計画策定の背景・趣旨	4
2. 計画の期間	4
3. 計画の構成	5
4. 計画の位置づけ	5
第2章 農業を取り巻く現状	6
1 近年の農業を取り巻く社会経済情勢や国・県の動向について	6
第3章 木更津市農業の現状と課題	8
1. 木更津市農業の特性	8
(1)生産力	8
(2)販売力	14
(3)地域力	16
2. 木更津市における取組	17
(1)持続可能な地域農業・有機農業の推進:木更津市第3次基本計画	17
(2)木更津市農業振興における土地利用の明確化:木更津市農業振興地域整備計画	18
(3)鳥獣被害への対応方策の明確化:木更津市鳥獣被害防止計画	19
(4)地産地消や生産者と消費者の交流による食育の推進:木更津市食育推進計画	19
(5)市場経営の方向性を定めた戦略:木更津市公設地方卸売市場経営展望	20
3. 第2次木更津市農業振興計画での取組状況	21
(1)目標達成状況	21
4. 農業や食に関する動向	23
(1)市民(消費者)アンケートでの意向	23
(2)農業者(生産者)アンケートでの意向	24
(3)小売業や食に関する事業者ヒアリングでの意向	26
5. 取組成果・課題	27
(1)前計画で得られた取組成果	27
(2)本計画で取り組むべき課題	27
第4章 木更津市農業の振興目標	29
1. 目指す将来像	29
2. 持続可能な農業の推進	29
3. 基本方針	31
(1)地域の特性を活かした安全で多彩な農業生産の推進	31
(2)多様な人材の確保・育成	31
(3)農地の保全と担い手への集積	31
第5章 施策の展開	33
1. 施策の展開	33
(1)地域の特性を活かした安全で多彩な農業生産の推進	33
(2)多様な人材の確保・育成	33
(3)農地の保全と担い手への集積	33
2. 施策の取組	34
(1)地域の特性を活かした安全で多彩な農業生産の推進	34

(2)多様な人材の確保・育成	37
(3)農地の保全と担い手への集積	39
第6章 計画の推進	41
1. 計画推進における各主体の役割	41
2. 計画の進行管理	42
資料編	43
1. 木更津市農業振興計画策定に関するアンケート調査結果	43
① 市民(消費者)アンケート調査	43
② 農業者(生産者)アンケート調査	80
2. 木更津市農業振興推進委員会名簿	114
3. 木更津市農業振興推進委員会部会名簿	115
4. 用語説明	116

第1章 計画の策定にあたって

1. 第3次木更津市農業振興計画策定の背景・趣旨

本市では、平成5年度に第1次となる木更津市農業振興総合計画を策定し、平成24年度に第2次となる木更津市農業振興総合計画を策定しました。第2次木更津市農業振興総合計画では、「農の絆で笑顔あふれる地域農業」を将来像に掲げ、農業に関連する多様な主体が持続可能な農業に向けて連携していくことを目指し各種施策を実施してまいりました。

第2次計画の策定から令和4年で10年を迎え、前計画の実施状況・効果の総点検を行う時期を迎えていること、また、計画策定時から木更津市の農業を取り巻く環境は大きく変化してきています。

また、令和5年3月に「きさらづ学校給食米」の取り組みを基軸に、生産関連、加工・流通関連、消費関連の各方面から様々な取り組みを行い、本市の有機農業推進の方針等を示した「木更津市有機農業実施計画」を作成し、令和5年3月に千葉県初となる「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。さらに令和5年5月には本市が、SDGs未来都市に選定されたことから、農業振興計画の実施に当たっては、経済、社会、環境の三側面を調和させる持続可能な開発目標(SDGs)を意識して取り組む必要があります。

令和5年度末をもって、現行の第2次木更津市農業振興総合計画の計画期間が満了することを受け、活力ある農業の振興に向け令和6年度を初年度とする「第3次木更津市農業振興計画」を策定し、引き続き農業の振興に取り組めます。

2. 計画の期間

令和6年度から令和10年度の5年間の計画期間とします。

なお、計画の進捗状況や外部環境の変化などに応じて、随時必要な計画の見直しを図っていきます。

「第3次木更津市農業振興計画」 計画期間				
令和6年度 2024年度	令和7年度 2025年度	令和8年度 2026年度	令和9年度 2027年度	令和10年度 2028年度
必要に応じて随時見直しを実施する 				

3. 計画の構成

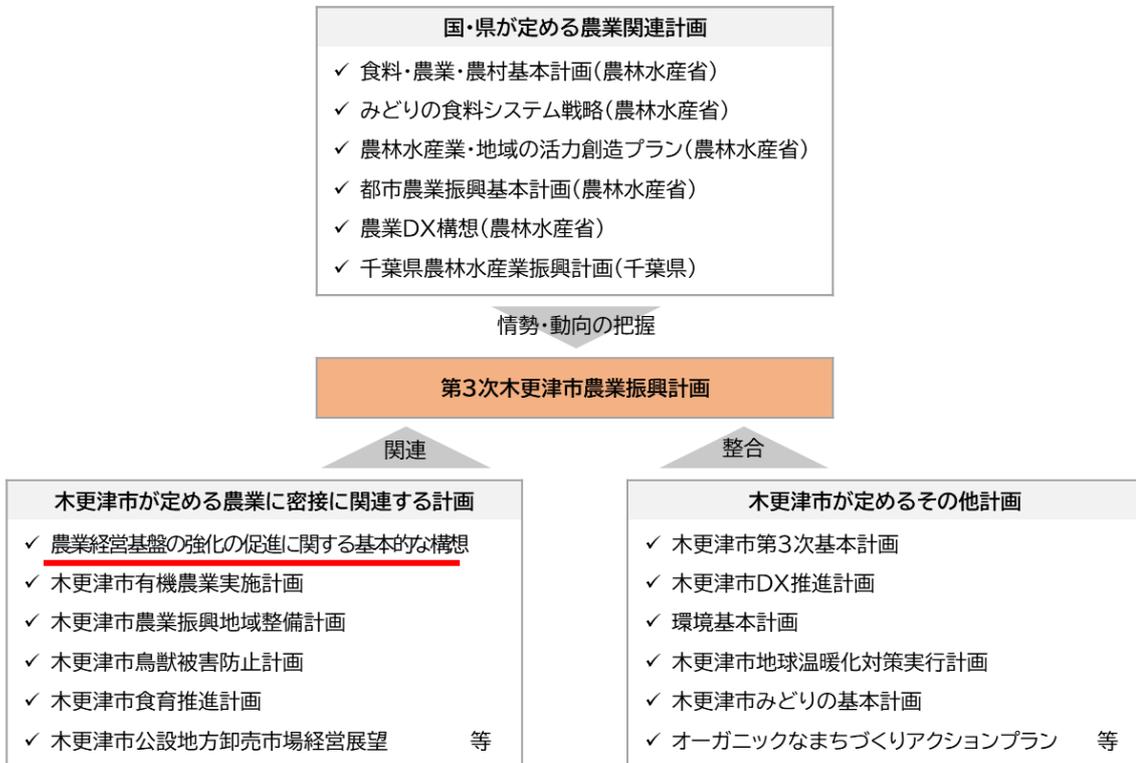
本計画は、計画の基本的情報を記載する第1章、木更津市の農業を取り巻く環境や前計画の総点検結果を整理する第2・3章、本計画の方針・施策展開・実施方法等を記載する第4・5・6章、各種調査結果や用語説明を整理した資料編から構成されます。

第1章 計画の策定にあたって	計画策定の背景・趣旨、計画期間、計画の構成、計画の位置付けを記載
第2章 農業を取り巻く現状	農業を取り巻く現状(国・県の動向や情勢)や、木更津市農業の現状と課題(木更津市農業の特性、前計画の取組状況、市民・農業者アンケート調査結果、関係者ヒアリング結果)を記載
第3章 木更津市農業の現状と課題	
第4章 木更津市農業の振興目標	
第5章 施策の展開	木更津市農業の目指す将来像・基本方針や実施していく個別施策の詳細、計画推進体制・検証方法を記載
第6章 計画の推進	
資料編	市民・農家アンケート調査結果、木更津市農業振興推進委員会・部会名簿、用語説明を記載

4. 計画の位置づけ

本計画は、市政の基本方針である「木更津市第3次基本計画」を上位計画に、国・県の関連計画を踏まえ、本市の農業振興を総合的かつ計画的に推進するための指針を示すものです。

また、その他本市における各種関連計画などとの整合を図ります。



第2章 農業を取り巻く現状

1 近年の農業を取り巻く社会経済情勢や国・県の動向について

(1)食料・農業・農村基本計画

国は、将来にわたって国民生活に不可欠な食料を安定的に供給し、食料自給率の向上と食料安全保障を確立させることを基本的な方針とする「食料・農業・農村基本計画」を、令和2年3月に策定しました。

「食料・農業・農村基本計画」では、施策推進の基本的な視点として、消費者や実需者のニーズに即した施策やスマート農業の加速化と農業のデジタルトランスフォーメーションの推進、SDGsを契機とした持続可能な取組を後押しする施策等を掲げ、農業の持続的な発展のため担い手の育成・確保や多様な人材や主体の活躍等の施策を講じるとともに、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新たな感染症への対応等を行っていく旨が示されています。

本市の農業振興を推進する上でも、「食料・農業・農村基本計画」に示された基本的な視点や講ずべき施策等に沿って、施策展開を行っていく必要があります。

(2)みどりの食料システム戦略

平成27年(2015年)に、温室効果ガス削減に関する国際的な協定である「パリ協定」が採択されたほか、平成30年(2018年)には、我が国において、気候変動の影響による被害の回避・軽減対策(適応策)の推進のために、国、地方公共団体、事業者、国民が担うべき役割を明確にするため、「気候変動適応法」が施行されました。さらに、令和元年(2020年)には、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「2050年カーボンニュートラル」への挑戦を「経済と環境の好循環」につなげるための産業政策として、「グリーン成長戦略」が策定されました。

農林水産分野においても、令和3年5月、国は「みどりの食料システム戦略」を新たに策定し、持続可能な食料システムの構築に向けて、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進することを示しました。

「みどりの食料システム戦略」では、2050年までに目指す姿として、農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現や化学農薬の使用量の50%低減、有機農業の取組面積の割合を25%(100万 ha)に拡大するなど、これまでの国の計画にはない新たな取組が提示されています。

また、戦略的な取組方向として、今後、「政策手法のグリーン化」を推進することが示されました。「政策手法のグリーン化」とは、2030年をめどに施策の支援対象を持続可能な取組を行う者に集中させ、その後、2040年を目途に国の補助事業については、カーボンニュートラルを目指し、環境負荷軽減メニューを行うことを要件とするものであり、本市の生産現場においても、現時点から環境負荷低減等の取組に向けて動き出すことにより、国の農政関連の支援を効果的に活用することが必要です。

(3)千葉県農林水産業振興計画

令和4年3月、千葉県は農林水産業が魅力ある産業に成長することを目指し、農林漁業者の所得向上と農林山村の活性化に向け、「千葉県農林水産業振興計画(令和4年～令和7年度〔2022年～2025年度〕)」を策定しました。

この計画は、千葉県総合計画を上位計画とし、「力強く、未来につなぐ 千葉の農林水産業」を目標に掲げ、千葉県の農林水産業における10年後の目指す姿を示すとともに、その実現に向けた様々な施策が定められています。

具体的な政策の柱としては、以下のとおりです。

「Ⅰ 次世代を担う人材の育成・確保」

「Ⅱ 農林水産業の成長力の強化」

「Ⅲ 市場動向を捉えた販売力の強化」

「Ⅳ 地域の特色を生かした農山漁村の活性化」

「Ⅴ 災害等へ危機管理の強化」

(4)法改正等の動向について

ア 都市農業振興基本法

平成27年(2015年)に「都市農業振興基本法」が施行され、それを受け、国は「都市農業振興基本計画」を策定しました。これにより、市街化区域内農地の位置付けが「宅地化すべきもの」から、都市環境を形成する上で「あるべき農地」へと大きく見直され、その多様な機能(農産物の供給、防災、景観形成、国土・環境保全、農作業体験・学習・交流の場の提供、農業に対する理解醸成)を発揮することが求められています。

イ 都市農地の貸借の円滑化に関する法律

街中の農地は、新鮮な地元産野菜の供給だけではなく、農作業体験の場や災害時の一時避難場所となる等の多様な機能を有しており、農業従事者の減少・高齢化が進展する中であっても、これらの機能を引き続き発揮させていくため、農地の貸借を円滑化させるための制度が創設されました。

ウ 働き方改革関連法(労働基準法)

労働者がそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会を実現する働き方改革を総合的に推進するため、長時間労働の是正、多様で柔軟な働き方の実現等を目的とする「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」が順次施行されています。

この中で、労働時間に関する制度の見直しが行われており、自動車運転業務については、令和6年(2024年)4月から、時間外労働の上限規制が導入されることとなっています。

これにより、遠方から運ばれてくる農産物は、今後、首都圏では手に入りにくくなることも予想されており、今まで以上に、本市を含む首都圏での農産物の生産が重要となります。

エ 農業経営基盤強化促進法

令和5年(2023年)4月に農業経営基盤強化促進法の一部を改正する法律が施行され、農業経営基盤強化促進法の基本要綱(農林水産省)および農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針(千葉県)が見直されたことから、本市においても、令和5年(2023年)9月に農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想を見直しました。

地域の農業者等による話し合いを踏まえ、将来の農業の在り方等を定めた地域計画の策定や、地域計画の達成に向けた農地の集約化等の推進、農用地の保全等の取組への支援等の措置を講ずるものであり、農地の集約化等を進め、生産の効率化等を通じて農業振興を図っていくこととなります。

第3章 木更津市農業の現状と課題

1. 木更津市農業の特性

(1)生産力

➤ 担い手の状況

① 農業経営体

本市の農業経営体数は平成17年(2005年)の1,352戸から令和2年(2020年)724戸と15年間で628戸の農業経営体が減少(減少率46.4%)しています。減少割合は高くなっていますが、千葉県全体の減少率55.1%と比較すると農業経営体の減少率は低く抑えられています。

地区別では東京湾アクアラインの着岸地であり、都市化が進む金田地区の減少率が最も高く55.8%となっており、減少率の最も低い地区は中郷地区の38.8%となっています。



(出典:農林水産省「農林業センサス」)

	木更津地区	金田地区	中郷地区	鎌足地区	馬來田地区	富岡地区
2005年	446	104	312	140	205	145
2020年	227	46	191	73	113	74
減少数	219	58	121	67	92	71
減少率	49.1%	55.8%	38.8%	47.9%	44.9%	49.0%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

② 認定農業者

本市の認定農業者(経営体)数は平成27年(2015年)から令和2年(2020年)の5年間で71件から79件と8件増加しています。

5年間で農業経営体数225経営体が減少している中で、認定農業者数は増加しており、農業経営改善計画に基づき、認定農業者は持続的な農業経営を実現しています。

<認定農業者数と農業経営体に占める割合>

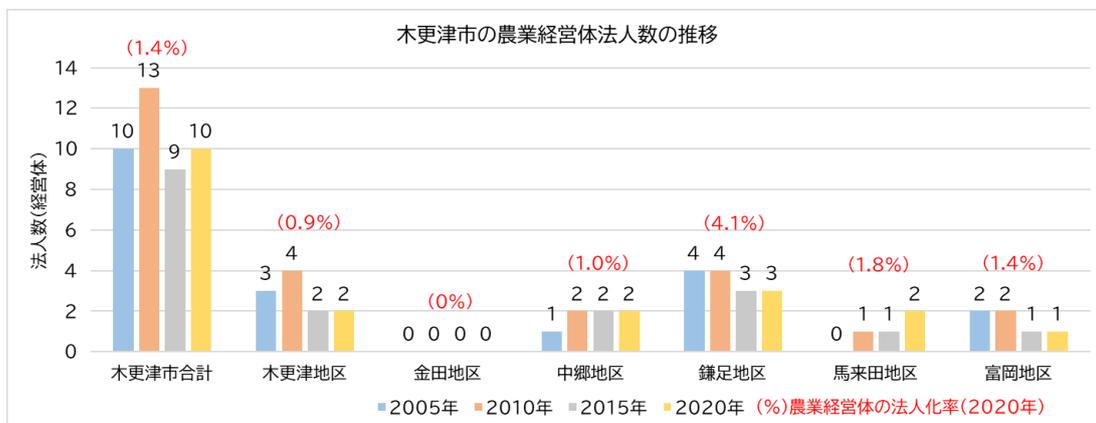
年	認定農業者数	農業経営体に占める割合
平成27年(2015年)	71件(95人)	7.5%
令和2年(2020年)	79件(116人)	10.8%

(出典:木更津市調べ)

③ 法人化数

本市全体では法人化数は10件前後で推移しており、令和2年(2020年)の全経営体に占める法人経営体の割合(法人化率)は1.4%となっています。千葉県内の法人化率は2.5%となっており、本市の農業経営体の法人化率は低くなっています。

地区別では鎌足地区の法人化率が4.1%と高くなっていますが、金田地区0%、木更津地区0.9%と低くなっています。

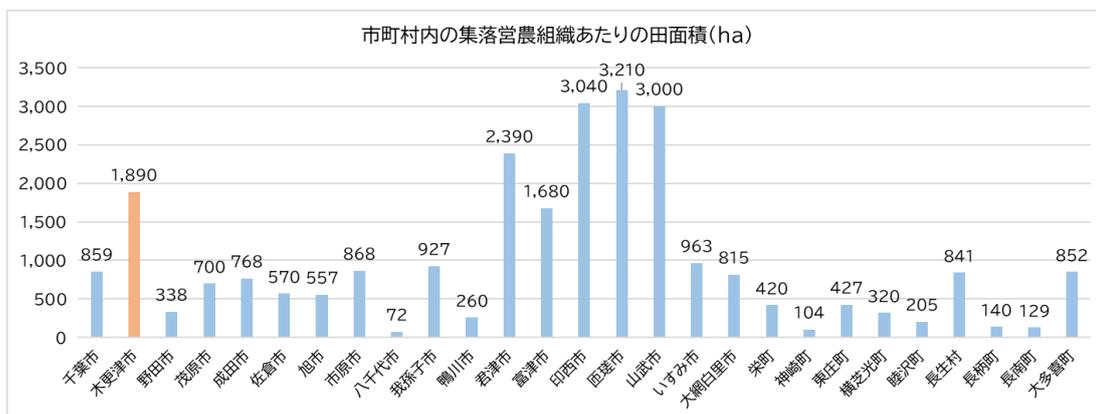


(出典:農林水産省「農林業センサス」)

④ 集落営農組織数

本市の集落営農組織数は令和4年度時点で1組織のみとなっています。市内の田面積は1,890haとなっており、集落営農組織あたりの田面積は1,890haとなっています。

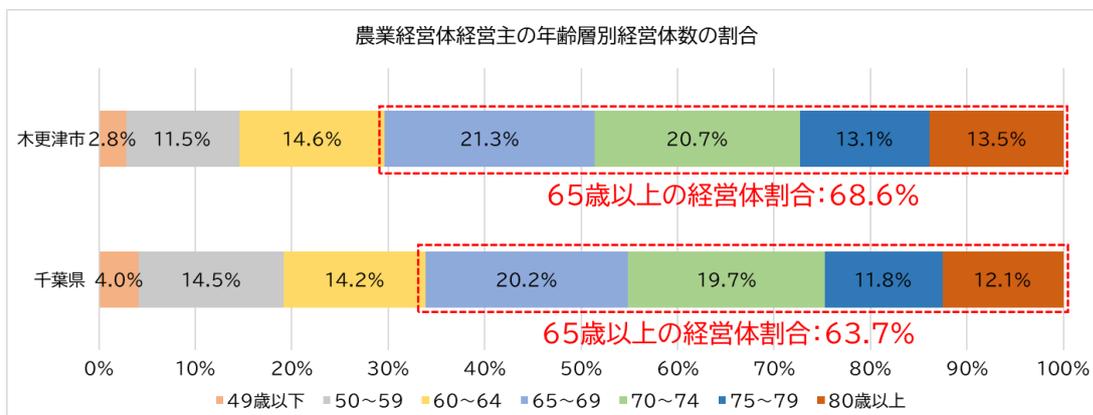
千葉県内市町村と1組織に対する田面積を比較すると、本市の集落営農組織数は少ない部類に入る。



(出典:農林水産省「集落営農実態調査」)

⑤ 農業経営体主の年齢構成

農業経営体主の年齢構成は65～69歳が21.3%と最も多く、次いで70～74歳20.7%となっています。千葉県全体も同様に、65～69歳、70～74歳がボリュームゾーンになっていますが、65歳以上の農業経営体主の割合は、本市が68.6%、千葉県全体が63.7%となっており、本市の農業経営体主の高齢化率が約5%高くなっています。



(出典:農林水産省「農林業センサス」)

⑥ 後継者の有無

後継者の有無について、本市は「5年以内に農業を引き継ぐ後継者を確保している」は18.1%となっており、千葉県全体より若干低い割合となっています。

地区別では、後継者を確保していない経営体割合が多い地区は、中郷地区87.4%、木更津地区80.2%となっており、平成17年(2015年)から令和2年(2020年)にかけて農業経営体の減少割合が低かった地区においても、今後の農業経営体の減少が課題となっています。

<農業経営体の5年以内の後継者の確保状況(令和2年(2020年))>

	木更津市	千葉県
5年以内に農業を引き継ぐ後継者を確保している	18.1%	19.9%
5年以内に農業経営を引き継がない	3.3%	4.1%
確保していない	78.6%	76.0%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

<地区別の農業経営体の5年以内の後継者の確保状況(令和2年(2020年))※確保していないのみ>

	木更津地区	金田地区	中郷地区	鎌足地区	馬來田地区	富岡地区
確保していない	80.2%	60.9%	87.4%	65.8%	78.8%	74.3%
農業経営体	182 経営体	28 経営体	167 経営体	48 経営体	89 経営体	55 経営体

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

⑦ 新規就農者

本市の新規就農者数は近年2～8件で推移しており、毎年1件以上の新規就農者を確保している状況にあります。

<木更津市の新規就農者数の推移>

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
新規就農者数	4	7	2	10

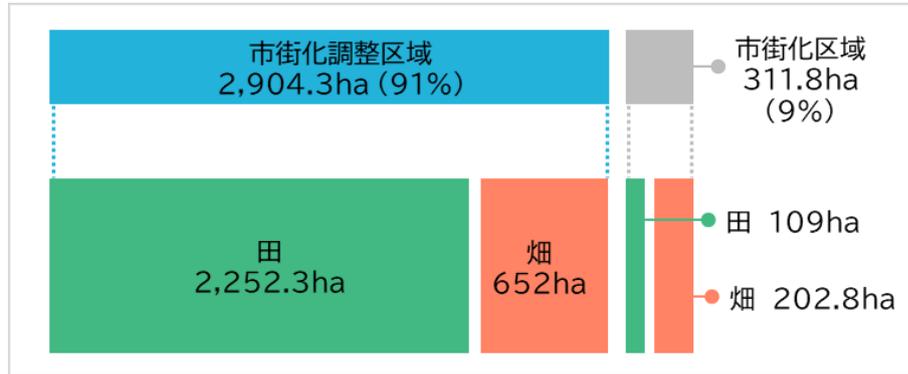
(出典:木更津市農業委員会調査)

➤ 農地・生産基盤の状況

① 土地利用状況

本市の農地の大部分である 2,904.3ha が市街化調整区域に存在しており、その 77.6%にあたる 2,252.3ha が田となっています。一方で市街化区域にも 1 割弱の農地が存在しており、田が 109ha(35.0%)、畑が 202.8ha(65.0%)となっており、市街化区域においては、畑の割合が多くなっています。

<土地利用状況>

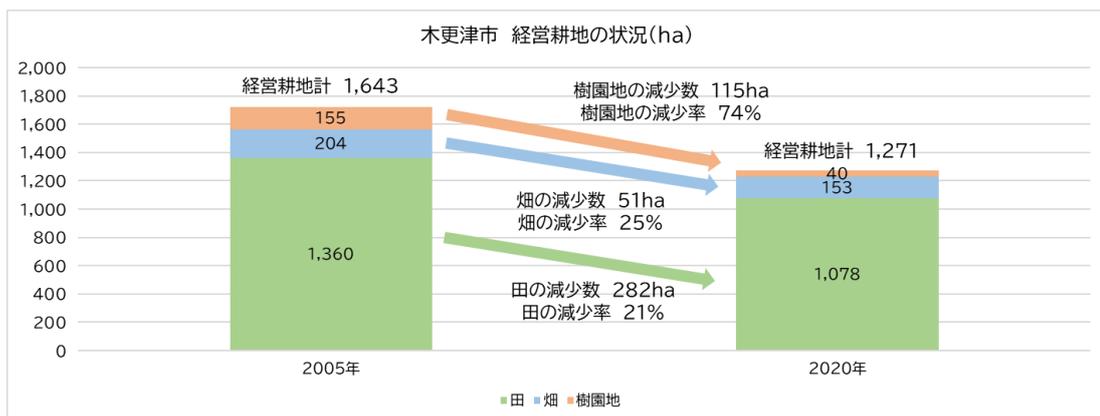


(出典:木更津市農業委員会調査)

② 経営耕地面積

経営耕地の状況は市全体で 1,271ha となっており、平成17年(2005年)から令和2年(2020年)の15年で田は 282ha、畑は 51ha、樹園地は 115ha 減少しています。減少面積は田が多くなっていますが、減少率にすると樹園地の減少率が 74%と極めて高くなっています。

地区ごとでは、中郷地区 371ha、木更津地区 330ha の経営耕地面積が多くなっています。鎌足地区は畑の割合が多くなっていますが、その他の地区は田中心の耕地状況となっています。



(出典:農林水産省「農林業センサス」)

<地区ごとの経営耕地の状況>

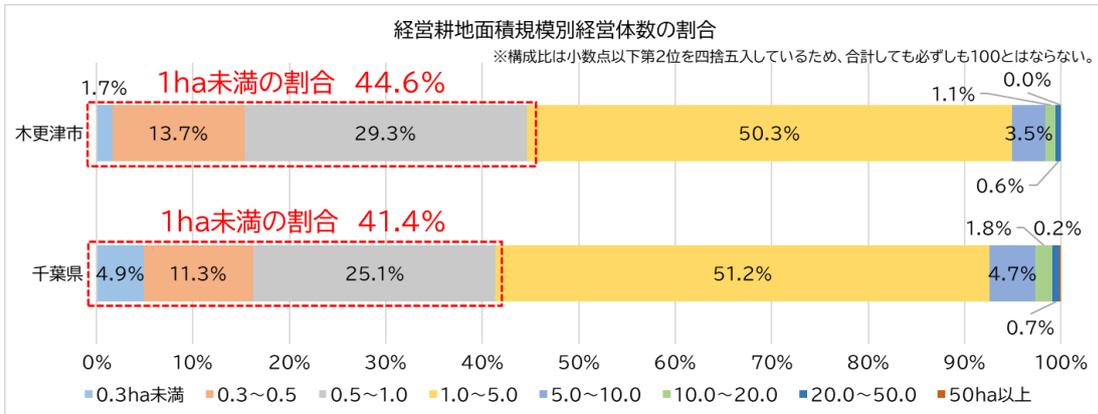
	木更津地区	金田地区	中郷地区	鎌足地区	馬來田地区	富岡地区
田	296ha	99ha	338ha	54ha	148ha	143ha
畑	29ha	1ha	22ha	70ha	10ha	21ha
樹園地	5ha	0ha	12ha	13ha	8ha	2ha
合計	330ha	100ha	372ha	137ha	166ha	166ha

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

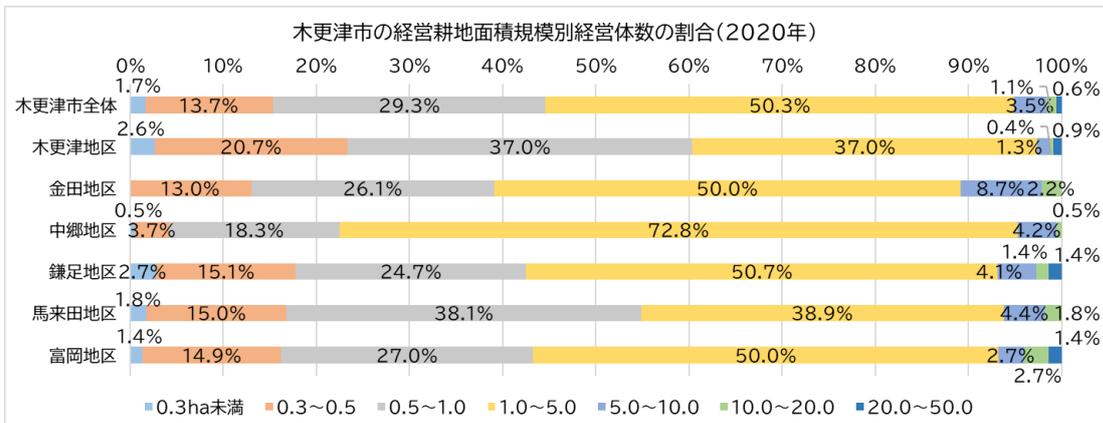
③ 経営耕地面積規模別経営体数

経営耕地が1ha未満の経営体は本市では44.6%となっており、千葉県全体より若干高い割合となっています。

地区別では、中郷地区は比較的経営耕地面積の規模が大きい経営体の割合が高く、木更津地区や馬来田地区は経営耕地面積の規模が小さい経営体の割合が多くなっています。



(出典:農林水産省「農林業センサス」)



(出典:農林水産省「農林業センサス」)

④ 作業受託の状況

水稲作の作業受託面積は、本市においては128ha(9.4%)となっていますが、千葉県全体では、33,245ha(55.3%)となっており、本市の水稲作における受託作業面積は低くなっています。

<田の受託作業面積と田の経営耕地面積に占める割合>

	木更津市	千葉県
受託作業面積	128ha	33,245ha
田の経営耕地面積に占める割合	9.4%	55.3%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

⑤ 遊休農地

令和4年度(2022年度)の木更津市農業委員会調査(利用状況調査)によると、121.3haが本市の遊休農地となっています。

主要品目の動向

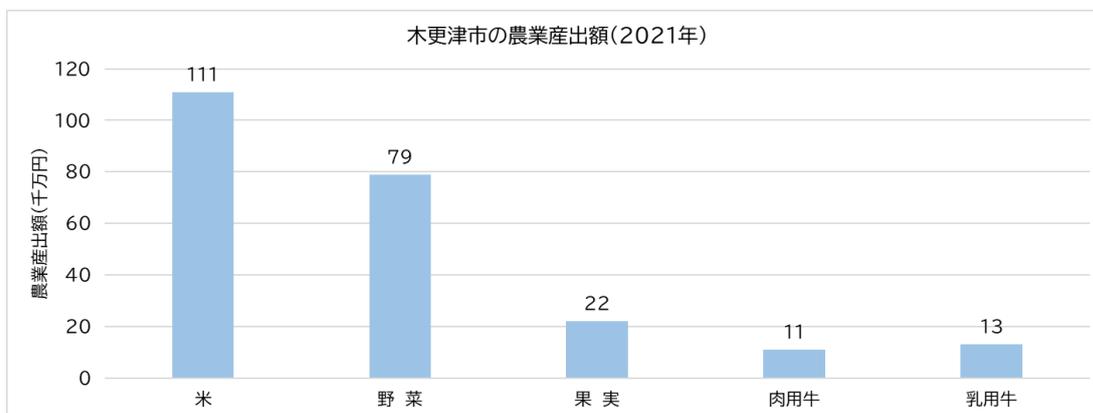
- ① 主要品目の動向
ヒアリング後に整理予定

(2)販売力

➤ 販売規模

① 農業産出額

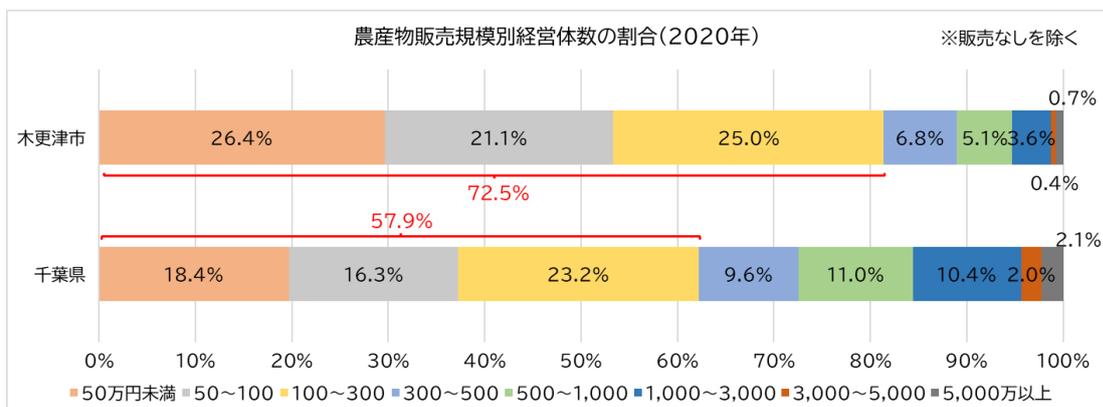
本市の農業産出額は、263 千万円(合計:グラフに記載した類別以外の品目も含まれる)となっており、米が 111 千万円(42.2%)と最も高く、次いで、野菜 79 千万円(30.0%)、果実 22 千万円(8.4%)、乳用牛 13 千万円(4.9%)、肉用牛 11 千万円(4.2%)となっています。



(出典:農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」)

② 農産物販売規模別経営体割合

農産物販売規模別経営体割合は、千葉県全体と比較して販売規模の小さい経営体が多くなっています。本市は販売規模 300 万円未満の農業経営体が 72.5%となっており、千葉県全体の 57.9%と比較して、15%弱高くなっています。

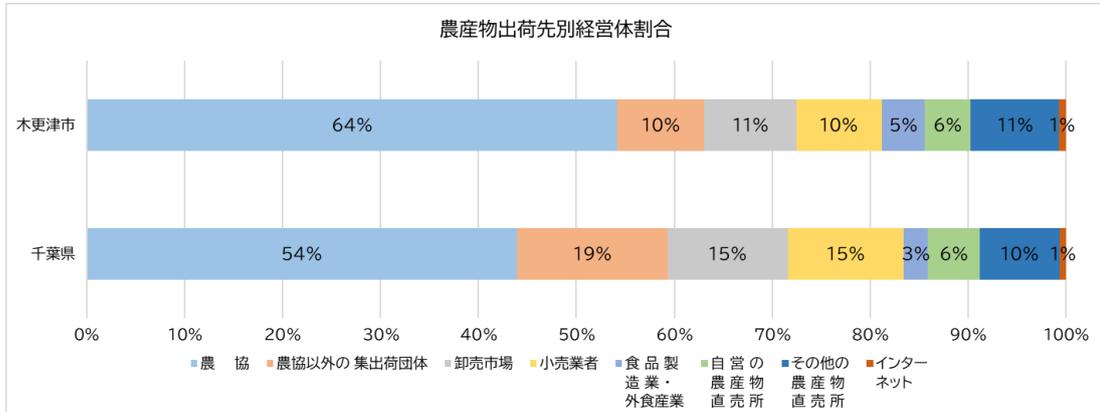


(出典:農林水産省「農林業センサス」)

➤ 流通状況

① 農産物出荷先別経営体数の割合

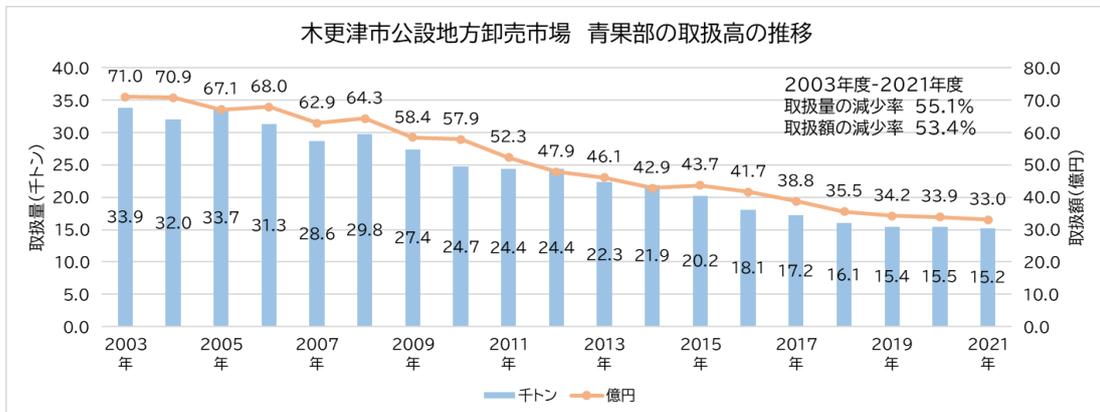
本市の農産物出荷先別経営体数は、農協が64%と最も高く、次いで、卸売市場、その他の農産物直売所11%、農協以外の集出荷団体、小売業者10%となっています。千葉県全体では、農協が54%となっており、本市と比較して10%低く、農協以外の集出荷団体、卸売市場、小売業者の出荷先別経営体数が多くなっています。



(出典:農林水産省「農林業センサス」)

② 木更津市公設地方卸売市場の状況

木更津市公設地方卸売市場の青果の取扱高は、令和3年度(2021年度)で15.2千トン、33.0億円となっています。平成15年度(2003年度)から令和3年度(2021年度)の19年間で取扱量は55.1%、取扱額は53.4%減少していますが、2018年度以降の取扱高の減少は低くなっており、横ばい傾向となっています。



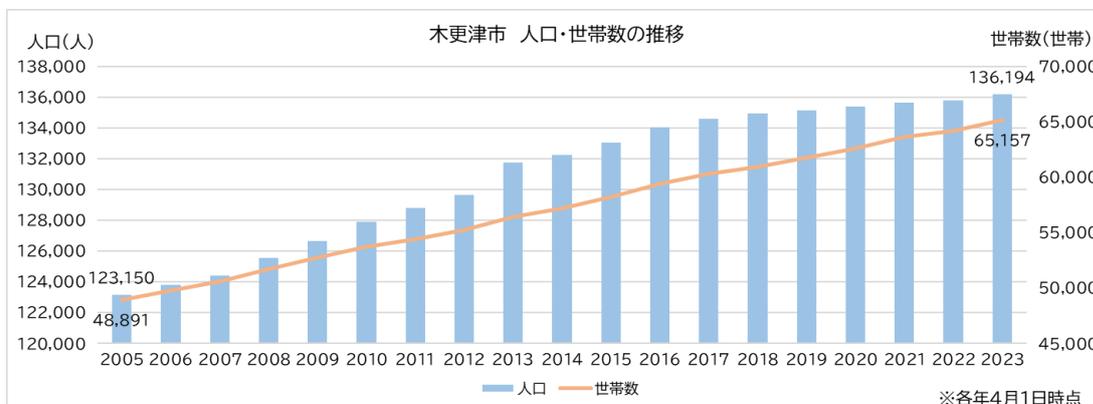
(出典:木更津市「木更津市公設卸売市場 年報」)

(3)地域力

➤ 市場規模

① 消費者数(人口・世帯数)

人口・世帯数は一貫して増加傾向にあり、令和5年(2023年)4月1日時点の人口は136,194人、世帯数は65,157世帯となっています。



(出典:木更津市「住民基本台帳」)

② 農産物支出額

総務省が公表している家計調査によると、関東地方の年間品目別消費額は下記表のとおりとなっており、米 14,113 円、生鮮野菜 58,680 円となっています。品目別支出額に本市の世帯数を掛けて市場規模を推定した結果、米 9.2 億円、生鮮野菜 38.2 億円、生鮮果物 20.6 億円、牛肉 8.5 億円、牛乳 7.6 億円となっています。米については、本市の需要を満たす生産額を確保できていますが、野菜、果物、牛乳については需要に見合う生産額とは遠く、供給拡大の余地があるといえます。

<1 世帯当たりの年間品目別支出金額>

食料	米	生鮮野菜	生鮮果実	牛肉	牛乳
851,910 円	14,113 円	58,680 円	31,593 円	13,108 円	11,630 円

<木更津市内の推計市場規模>

米	生鮮野菜	生鮮果実	牛肉	牛乳
9.2 億円	38.2 億円	20.6 億円	8.5 億円	7.6 億円

(出典: 支出金額:総務省「家計調査」)

③ 直売所・地産地消推進店

本市には JA 木更津市生活館、JA 木更津市生活館うまきた店、高倉農産物直売センター、道の駅「木更津うまきたの里」などの農産物直売施設があり、市内農業者が出荷しており、地場産農産物を購入することができます。

また、市内等で生産された地場産農林水産物等を積極的に取り扱う小売店・飲食店を「木更津市地産地消推進店」として認定しており、令和5年(2023年)8月現在、21店舗が認定されています。認定した店には、認定証とのぼり旗、ステッカーを交付し、地産地消を推進するお店を応援しています。

2. 木更津市における取組

(1) 持続可能な地域農業・有機農業の推進：木更津市第3次基本計画

➤ 計画の概要

本市のまちづくりを総合的かつ計画的に進めていく指針となる計画。

魅力あふれる 創造都市 きさらづ ～東京湾岸の人とまちを結ぶ 躍動するまち～を将来像として、令和8年度(2026年度)までを期間に各種施策に取り組むとされています。

農業に関しては、持続可能な地域農業の発展と安定をめざし、農業を支える“ひとづくり”を基本とし、農地集約化を図ることとしています。

➤ 目指す方向性・目標

令和8年度において、地産地消推進店認定数 50 件、学校給食における有機米の提供割合 100% を目標とする。

以下の5点を主な取組として定めています。

1. 農村環境の整備
2. 地域農業経営体の育成
3. 高品質高付加価値農産物の生産拡大
4. 都市と農村の交流促進
5. 有機農業の推進

千葉県木更津市



オーガニックビレッジ宣言

木更津市では、令和元年度から「学校給食提供に向けた有機米プロジェクト」を開始しました。

学校給食米100%オーガニック化を基軸とした有機農業を推進するため、「みどりの食料システム戦略推進交付金」を活用し、生産、加工・流通、消費の各段階における様々な取組を行っております。

今後、農業をはじめとした人との有機的なつながりや自然環境を大切に、持続可能なまちとして次世代に継承していきます。

木更津市は、有機農業を推進し、「オーガニックシティ」の確立を目指すことをここに宣言します。

令和5年3月23日

木更津市長

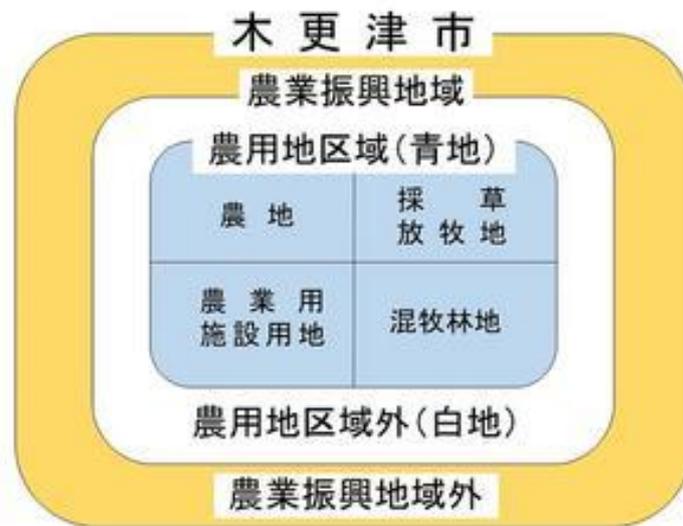
(2)木更津市農業振興における土地利用の明確化:木更津市農業振興地域整備計画

➤ 計画の概要

「農業振興地域の整備に関する法律(農振法)」に基づき、農業を振興する地域を明らかにし、その地域の近代的な農業の確立、基盤整備、農地保有の合理化、農業施設の整備などの施策を総合的かつ計画的に進めるために定められた計画です。

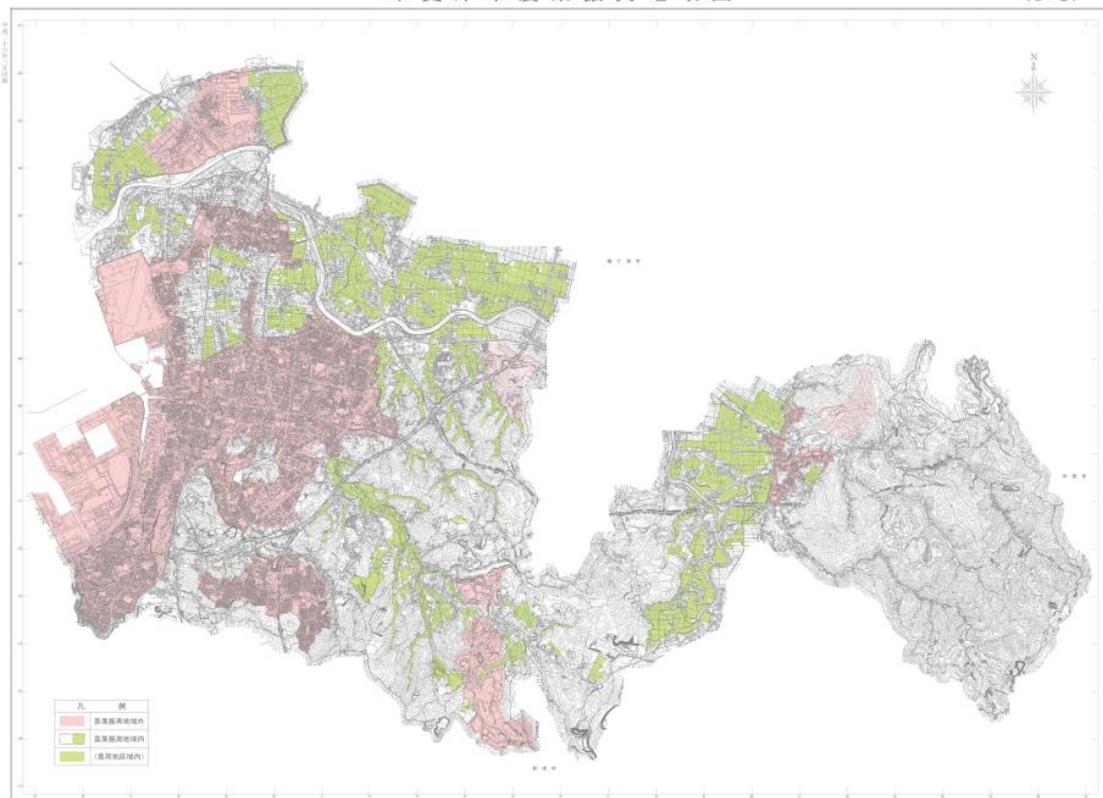
➤ 目指す方向性・目標

木更津市内において農業振興を重点的に進めていくエリアを農業振興地域として定めています。下地図の緑色の部分が木更津市の農業振興地域になります。



木更津市農業振興地域図

(参考)



(3)鳥獣被害への対応方策の明確化:木更津市鳥獣被害防止計画

➤ 計画の概要

「鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律」第4条第1項に基づき策定される計画で、鳥獣被害の防止を目的に被害軽減目標や各鳥獣に対する対策方針等を整理した計画です。

➤ 目指す方向性・目標

イノシシを中心とした農作物被害に対して、捕獲や防護柵の設置、放任果樹の除去、緩衝帯の整備等を実施できる体制を地元や関係機関と連携し取り組んでいきます。

(4)地産地消や生産者と消費者の交流による食育の推進:木更津市食育推進計画

➤ 計画の概要

食育基本法第18条第1項に規定する市町村食育推進計画として位置づけ、策定された計画で、家庭、学校、地域、企業、行政がそれぞれの役割に応じて連携・協力しながら食育に取り組むための基本方針を定めています。

➤ 目指す方向性・目標

以下の4つの基本目標を掲げています。

- (1)心身の健康のための食生活を確立し、実践する。
- (2)食品の品質や安全性を理解し、自ら適切な食を選択することができる。
- (3)「食」を大切に作る心を身につける。
- (4)地域の農林水産物やその加工品を日々の食生活に取り入れる。

また、農業に深く関連する施策として以下を定めています。

- 地産地消の推進

生産者と消費者の協働により、地域内で生産された安全で新鮮な農林水産物を地域内で消費する地産地消を推進します。

- 生産者と消費者の交流促進

消費者が食品の生産についての理解を深めたり、生産者が消費者のニーズを把握したりするなど相互理解を深め、また、「食」に対する感謝の気持ちを育むことができるよう、生産者と消費者の交流や農林水産業の体験活動等を推進します。

(5)市場経営の方向性を定めた戦略:木更津市公設地方卸売市場経営展望

➤ 計画の概要

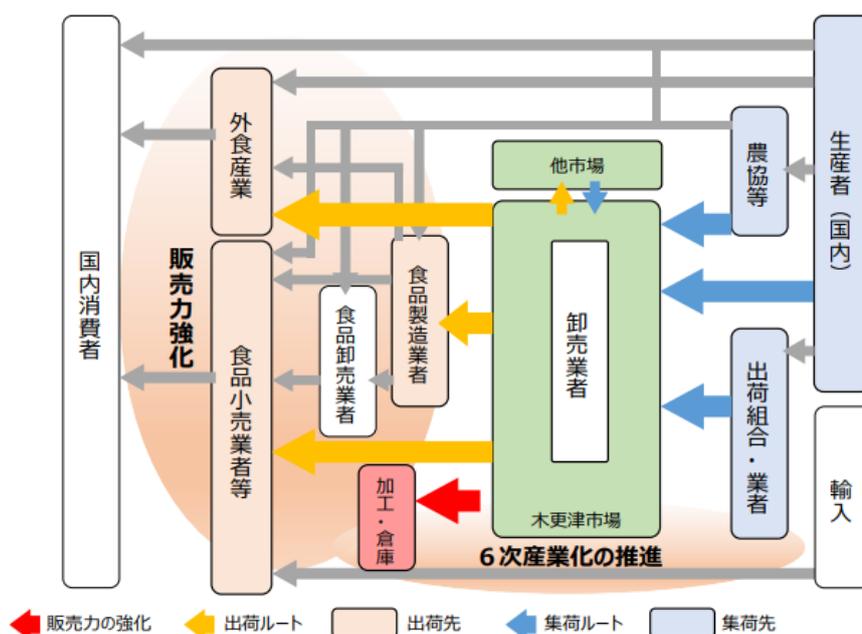
昭和44年に青果部門、昭和46年に水産部門が開設した木更津市公設地方卸売市場は、木更津市・君津市・袖ヶ浦市・富津市周辺の台所を預かる拠点市場として、地域住民に新鮮な食料品を適正価格で供給するとともに、生産出荷者の利益を守り市民生活の安定に寄与することを目的に、生鮮食料品の生産から消費に至る流通の要として基幹的な役割を担ってきました。

経営展望は、本市場が開設後45年以上経過し、施設・設備の老朽化が進んできたこと、さらには耐震性能の不足、社会情勢の変化に起因した市場外流通の増加等による取扱高の減少等の課題に対応していくため、卸売市場のあり方、位置付け、役割、機能強化等の方向、将来の需要・供給予測を踏まえた市場施設整備の考え方、コスト管理も含めた市場運営の経営戦略を定めたものです。

➤ 目指す方向性・目標

「販売力強化により消費者及び生産者にとって魅力ある市場として競争力を高める」を目標として掲げ、東京湾アクアラインを通じて大消費地の首都圏に最も近接する地の利を活かし、市場としての販売力強化に重点的に取り組む(出口戦略)とともに、物流機能を合理化し消費者及び生産者にとって魅力ある市場となることを目指します。

また、出口戦略のひとつとして、加工工場や倉庫業と連携することで、新たな産品を集荷し、販売ルートに乗せにくい産品の活用を広げ、取扱量を増加させます。



(木更津市場の戦略イメージ 出典:木更津市公設地方卸売市場経営展望)

3. 第2次木更津市農業振興計画での取組状況

(1) 目標達成状況

1. 担い手の育成

成果指標	平成 24 年度 時点	令和 4 年度 目標値	令和 4 年度 実績値
認定農業者数 (50 歳以下の認定農業者数)	93 人 (22 人)	125 人 (30 人)	112 人 (32 人)
家族経営協定数	19 件	25 件	19 件
農業生産法人数	5 法人	10 法人	11 法人
集落営農組織数	12 団体	17 団体	1 団体
新規就農者数	1 人	8 人	10 人

【評価】

農業生産法人数は目標を上回ったものの、認定農業者数、家族経営協定数、集落営農組織数、新規就農者数は目標には届きませんでした。

引き続き認定農業者制度の周知・制度活用支援や法人経営体の育成、新規就農者確保に取り組んでいき、持続可能な地域農業を推進していきます。

2. 持続可能な農業経営の確立

成果指標	平成 24 年度 時点	令和 4 年度 目標値	令和 4 年度 実績値
農地利用集積面積 (利用権設定率)	153ha (4.8%)	250ha (7.8%)	187ha (12.3%)
遊休農地面積 (割合)	471ha (15.5%)	450ha (14.8%)	121ha (4.1%)

【評価】

農地利用集積面積は目標面積には達しませんが、利用権設定率は目標値を上回りました。また、遊休農地面積は目標を大きく上回り減少しています。

今後は地域計画の策定等を通して、地域の実態に即した土地利用や担い手への集積を検討・推進していきます。

3. 安全・安心な農産物の販売・加工

成果指標	平成 24 年度 時点	令和 4 年度 目標値	令和 4 年度 実績値
6 次産業事業者数	1 件	8 件	35 件
食育イベント回数	3 回	10 回	3 回

【評価】

6次産業事業者数は目標を大きく上回りましたが、食育イベント回数は新型コロナウイルス感染症等の影響もあり目標値には届きませんでした。

引き続き農業所得の向上につながる6次産業化等への取組みを推進していくほか、令和4年度からスタートした食育推進計画により食育を進めていきます。

4. 都市と農村の交流促進

成果指標	平成 24 年度 時点	令和 4 年度 目標値	令和 4 年度 実績値
交流イベント件数	0 件	5 件	1 件
市民農園開設数	2 箇所	4 箇所	3 箇所
観光農園開設数	24 箇所	35 箇所	23 箇所
農産物直売所利用者数	416 千人	600 千人	1,383 千人

【評価】

道の駅の開業もあり、農産物直売所利用者数は目標値を大きく上回りました。一方で、交流イベント件数、市民農園開設数、観光農園開設数は目標値には届きませんでした。

引き続き木更津市の都市住民を対象に、道の駅や市内直売所を拠点とした交流促進に取り組んでいきます。

5. 環境の保全

成果指標	平成 24 年度 時点	令和 4 年度 目標値	令和 4 年度 実績値
エコファーマー数	63 人	90 人	22 人※
農地・水保全管理取組面積	860ha	900ha	1,059ha

※みどりの食料システム法の施行(令和 4 年 7 月 1 日)によりエコファーマーは廃止されました。

【評価】

農地・水保全管理取組面積は目標値を達成しましたが、エコファーマー数は目標値に届きませんでした。

引き続き、関係機関と連携しながら、有機農業の推進を含めた環境に配慮した農業経営の推進を図ってまいります。

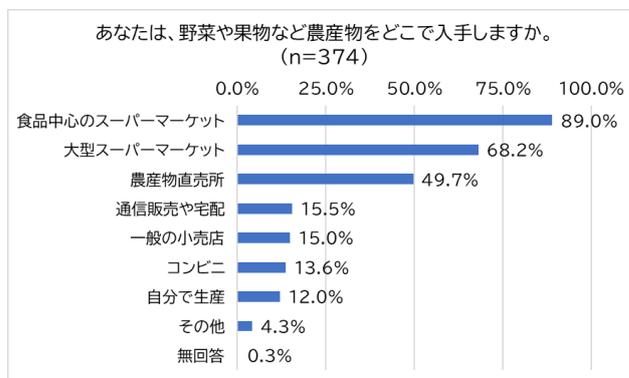
4. 農業や食に関する動向

(1) 市民(消費者)アンケートでの意向

1. 量販店を中心とした農産物の購入・消費

主な農産物の購入先としてスーパーマーケットと答える市民が圧倒的に多く、食品中品のスーパーマーケット 89.0%、大型スーパーマーケット 68.2%となっています。

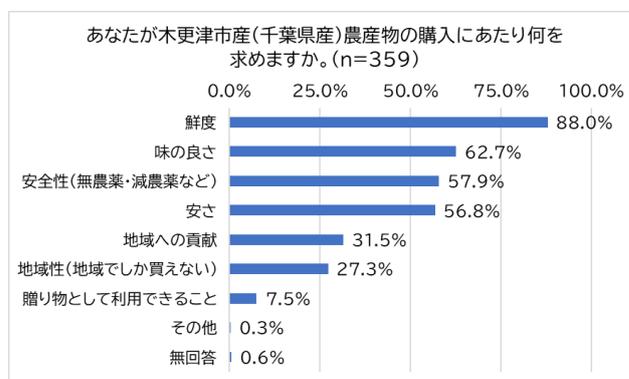
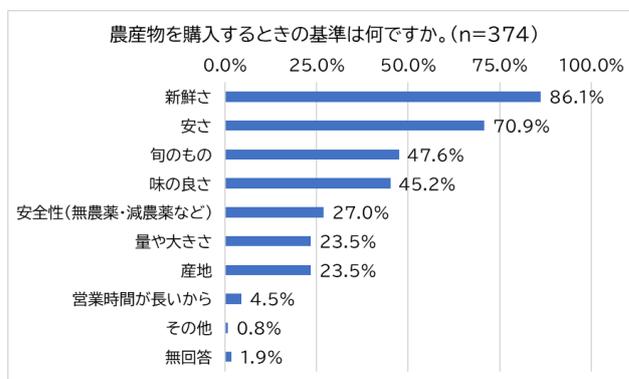
地産地消を推進する上で、スーパーマーケットで、いかに地場産農産物の売場を構築していくかが課題となります。



2. 農産物に新鮮さ・鮮度を求める市民が多い

農産物を購入する基準は、新鮮さが 86.1%と最も高く、安さ 70.9%となっており、木更津市産農産物に求めることは、新鮮が 88.0%と最も多く、次いで、味の良さ 62.7%、安全性 57.9%となっています。

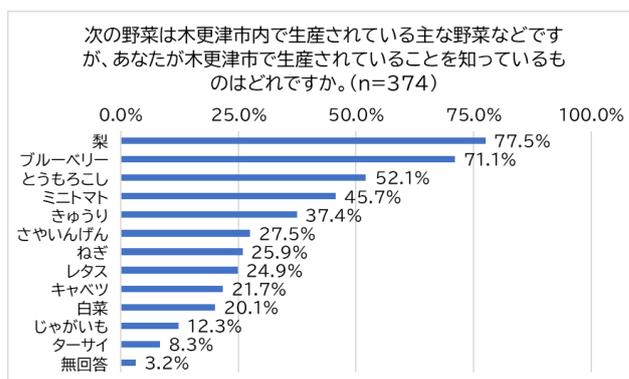
農産物と木更津市産農産物の購入基準を比較すると、鮮度は共通して求められています。地場産の場合は、安さの割合が減少し、品質に係る味の良さや安全性が重視される傾向にあります。



3. 梨・ブルーベリーの認知度は高いが野菜類の認知度は低い

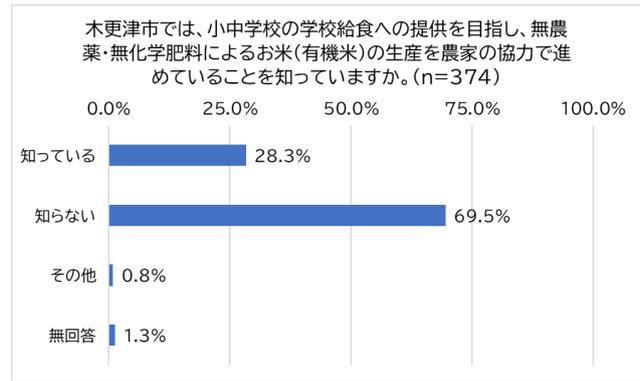
本市で生産されている農産物の認知度について、梨 77.5%、ブルーベリー 71.1%、とうもろこし 52.1%と認知度が高くなっています。

とうもろこしを除く野菜類については、50.0%を下回っており、市民からの認知度は低くなっています。



4. 有機米の取組みの認知度は28%とまだ低い

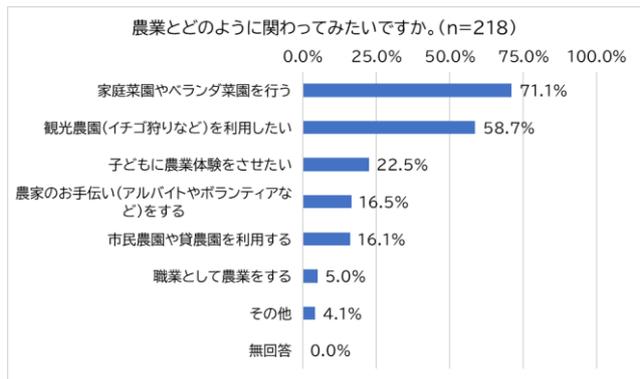
本市では、市内小中学校の学校給食へ農家との連携により有機米(無農薬・無化学肥料)を供給しています。市内学校給食への有機米の供給について知っている28.3%、知らない69.5%となっており、取組みの認知度が低くなっています。



5. 体験・観光農園を接点とした農業とのつながりにニーズがある

市民が希望する農業とのかかわり方について、家庭菜園やベランダ菜園を行う71.1%と最も高く、次いで、観光農園を利用したい58.7%となっています。

実際に農作業を体験したい意向が高く、特に観光農園については、市民をはじめ、観光客等にもニーズがあると考えられ、さらなる推進が期待されます。

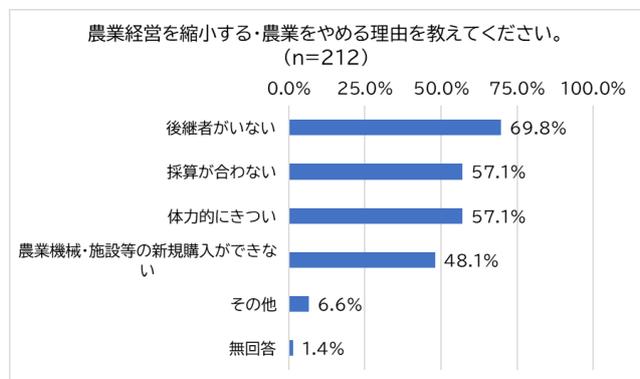
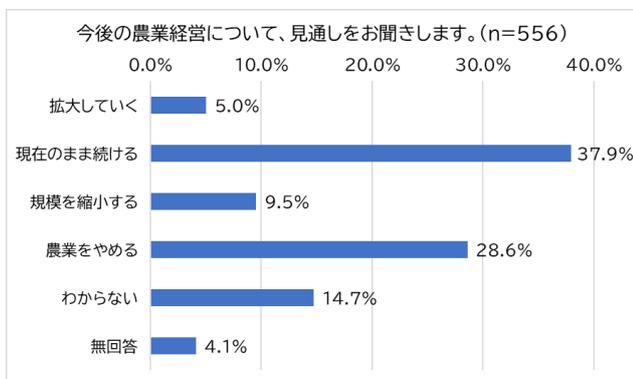


(2) 農業者(生産者)アンケートでの意向

1. 後継者不足が顕在化

今後の農業経営の見通しについて、拡大していく5.0%、現在のまま続ける37.9%となっており、現状維持以上を回答する農業者が42.9%となっています。規模縮小する9.5%、農業をやめる28.6%となっており、現状より規模縮小する農業者が38.1%となっています。

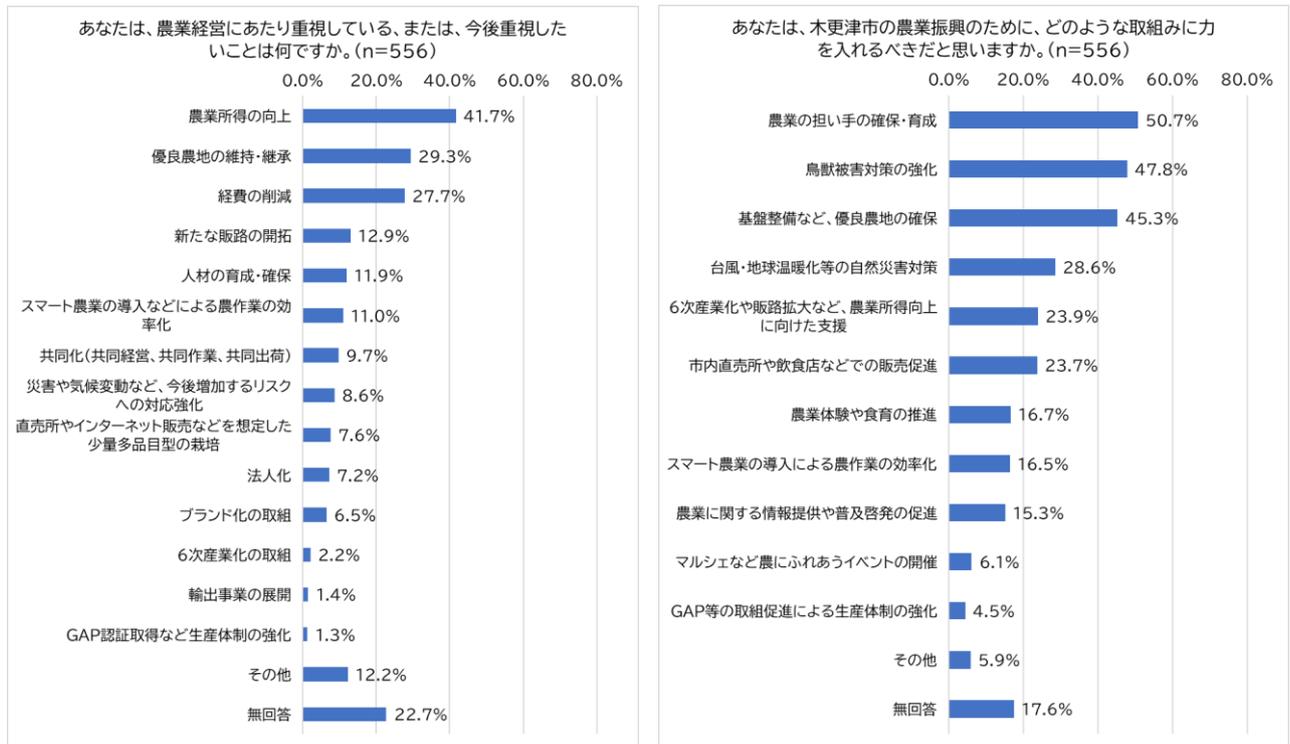
農業経営を縮小する・農業をやめると回答した農業者に理由を聞いた結果、後継者がいない69.8%と最も高く、次いで、採算が合わない、体力的にきつい57.1%となっており、後継者がいないことが規模縮小・離農の主な要因となっています。



2. 農業所得の向上への取組意向が強く、担い手確保と鳥獣被害対策への要望が強い

農業経営にあたり重視している・今後重視したいことは、農業所得の向上が41.7%と最も高く、次いで、優良農地の維持・継承29.3%、経費の削減27.7%となっており、農業所得の向上を重視する経営体が多くなっています。

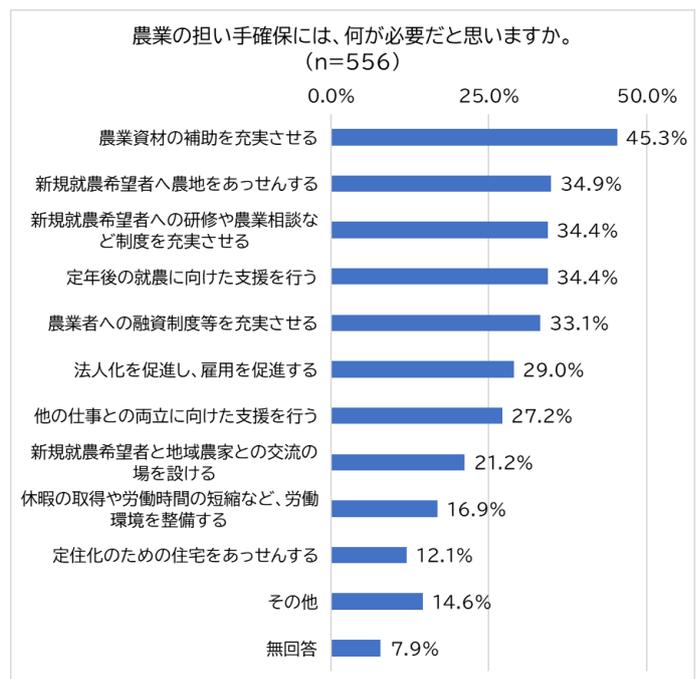
また、本市の農業振興のために力を入れるべき取組については、農業の担い手の確保・育成が50.7%と最も高く、次いで、鳥獣被害対策の強化47.8%、基盤整備など、優良農地の確保45.3%となっています。



3. 担い手の確保には、資材補助を行うことへの要望が強い

農業の担い手の確保・育成について、担い手の確保に必要な取組みを設問した結果、農業資材の補助を充実させる45.3%と最も高く、次いで、新規就農者へ農地をあっせんする34.9%、新規就農者への研修や農業相談など制度を充実させる34.4%、定年後の就農に向けた支援を行う34.4%、農業者への融資制度等を充実させる33.1%となっています。

農業の担い手確保に必要なことは、農業資材の補助を充実させるという回答が多くなっています。



(3)小売業や食に関する事業者ヒアリングでの意向

関連事業者ヒアリングを実施後に整理予定

5. 取組成果・課題

(1) 前計画で得られた取組成果

現計画評価後に整理

(2) 本計画で取り組むべき課題

統計・アンケート等から抽出し、再度、記載

【生産力】

① 生産者の確保・育成

平成17年から令和2年の15年間で総農家数727戸(▲39%)が減少し、農業経営主の高齢化も進んでおり、後継者を確保していない農業者も多いことから、今後も、生産者は減少していくものと推測されます。そのため、市内の就農者を確保し、農地を耕作する生産者の確保・育成をしていく必要があります。

② 法人化の推進

安定した持続的な農業経営を実現するため農業者の法人化が推進されている。本市の農業経営体の法人化率は1.4%となっており、県と比較して、約1%低くなっており、農業経営体の法人化を推進する必要があります。

③ 農地の維持

本市の経営耕地面積は平成17年1,643haから令和2年1,271haと372haが減少しています。減少面積が多いのは田の282haになりますが、樹園地は115haが減少し、74%の減少率となっています。今後も、生産者の高齢化や減少に伴い、農地が減少することが推測されるため、農地を維持していく必要があります。

④ 農地集約と大規模化の推進

今後、生産者の減少や農地の減少が推測される中で、1経営体あたりの耕地面積を増やす大規模化の推進が望まれます。また、農地の集約化等に向け、地域で将来の農地利用の姿を明確にする地域計画の作成に取り組み、農地集約と大規模化を推進する必要があります。

⑤ 作業受託の推進

農業者が高齢化していく中で、農作業が負担となり規模縮小・離農につながっていくことが懸念されます。木更津市の田の経営耕地面積に占める農作業の受託作業面積割合は9.4%(令和2年)となっており、県の55.3%(令和2年)と比較して受託作業面積の割合が少なくなっています。農業者の農作業負担の軽減を目的に、作業受託組織の設立と運営に取り組む必要があります。

⑥ スマート農業の推進

データを活用した農業を行っている経営体割合(2020年)は、本市9.9%となっており、千葉県15.1%と比較して低くなっています。農業者の高齢化や減少が進む中、スマート農業技術を導入することで、農作業の省力化・効率化を図り、1経営体あたりの経営規模を拡大し、市の農地面積を維持していく必要があります。

⑦ 環境にやさしい農業の推進

資源の枯渇や地球温暖化、自然災害の大規模化が世界的な問題となっており、SDGsや環境を重視する国内外の動きが加速していく中、食料・農林水産業においても、持続可能な食料システ

ムを構築することが急務となっています。本市においても、環境にやさしい農業を推進し、持続可能な農業を推進していく必要があります。

【販売力】

① 農産物販売規模の拡大

本市の農業産出額(令和2年)は26.3億円となっていますが、県と比較した1経営体あたりの農業産出額は、米▲3万円、野菜▲414万円、果実▲161万円、肉用牛195▲万円、乳用牛▲2,395万円となっています。また、農産物販売規模別経営体割合(令和2年)について、300万円未満の農業経営体は市が72.5%、県は57.9%となっており、本市は小規模な農業経営が主となっているため、販売規模を拡大による農業経営の安定化を図る必要があります。

② 木更津市公設地方卸売市場の有効活用

木更津市公設地方卸売市場の取扱量は減少傾向にあり、令和3年15,225トン、33億円となっています。卸売市場は、市内外への出荷拠点であるため、卸売市場を有効活用し、農業振興を図ることが期待されます。

③ 戦略作物の選定と農産物のブランド化

農業者アンケート調査において農業経営にあたり今後重視したいことについては、農業所得の向上が41.7%となっている中、農業生産資材費や人件費が増加しており、より利益率の高い農業経営が求められている。高単価で農産物が取引できるよう戦略作物を選定し、農産物のブランド化に取り組んでいくことが期待されます。

【地域力】

① 地産地消の推進

家計調査(令和4年)から推計した木更津市の生鮮農産物の市場規模は、生鮮野菜38.2億円、生鮮果物20.6億円となっており、生産すれば域内で消費できる余地が残されています。市内に小規模農家が多いことから、地産地消を推進し、小規模農家の販売先の確保と市民が市内産品を食べる機会の創出が望まれます。

② 観光農園やグリーンツーリズムの推進

本市の観光入込客数(令和3年)は、1,455.9万人と多くの観光客が本市を訪れています。観光客を対象に観光農園やグリーン・ツーリズムを推進し、農業を通じた関係人口の創出や市民が農業に触れ合う機会の創出が望まれています。

第4章 木更津市農業の振興目標

1. 目指す将来像

活かそう、つながろう、農業で^{けんこう}健康なきさらづ！

都心に近接し、豊かな自然環境に恵まれた地域特性を活かし、共生と循環により、様々な分野とつながり、木更津の農業を次世代につなげていくとともに農業を通じて、健やかで幸せに過ごせるまちづくりを目指します。

- 都心への好立地性、大規模集客施設等の強みと豊富な地域資源を活かした木更津市ならではの農業振興に地域一体となって取り組んでいます。
- 農業者だけではなく、市民や多様な産業従事者がつながり合うことで、協働体制を構築し、互いに助け合いながら持続可能な農業生産に取り組んでいます。
- 新規就農希望者の受入れや農福連携等の取組について関係者が理解を深め、多様な担い手の確保・育成に向けて取り組んでいます。
- 農業体験学習、学校農園などの食育活動を通じて、子どもたちの「生きる力」を育み、遊休農地を生きがい農業や市民農園の開設などで多面的に活用し、農地を保全しながら市民が幸せで健やかな暮らしを実現します。

2. 持続可能な農業の推進

本市では、持続可能な未来を創るため、地域、社会、環境等に配慮し、主体的に行動しようとする考え方＝「オーガニック」に基づき、この「オーガニック」をまちづくりの視点として地域社会を構成する多様な主体が一体となり、人と自然が調和した持続可能なまちとして次世代に継承しようと平成 28 年に「木更津市人と自然が調和した持続可能なまちづくりの推進に関する条例」（通称：オーガニックなまちづくり条例）を施行しました。

オーガニックなまちづくりの基本理念は、持続可能な世界の実現を目指すため、世界的に関心が高まっている SDGs と同じ方向性となっています。

令和 5 年からの第 3 期オーガニックなまちづくりアクションプランの 1 つに、経済循環を高める食×農プロジェクトとして、学校給食の地産地消を推進などの食育の推進、有機米の生産促進などの環境型農業の推進、電子地域通貨「アクアコイン」の普及などの域内消費の拡大などに取り組んでいます。

この持続可能なまちを目指す「オーガニックなまちづくり」を進めることで、持続可能な世界を目指す「SDGs」の達成につながります。



持続可能な開発目標（SDGs）について

SDGs は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015 年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中で掲げられました。2030 年を達成年限とし、17 のゴールと 169 のターゲットから構成されています。本農業振興計画でも 17 のゴールに向け、取組みの方向を明示しています。

	<p>目標1（貧困） あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる</p>		<p>目標2（飢餓） 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する</p>		<p>目標3（保健） あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p>
	<p>目標4（教育） 全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する</p>		<p>目標5（ジェンダー） ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う</p>		<p>目標6（水・衛生） すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する</p>
	<p>目標7（エネルギー） 全ての人々の安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへ</p>		<p>目標8（経済成長と雇用） 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する</p>		<p>目標9（インフラ、産業化、イノベーション） 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進、及びイノベーションの推進を図る</p>
	<p>目標10（不平等） 国内及び各国家間の不平等を是正する</p>		<p>目標11（持続可能な都市） 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する</p>		<p>目標12（持続可能な消費と生産） 持続可能な消費生活形態を確保する</p>
	<p>目標13（気候変動） 気候変動及びその形態を軽減するための緊急対策を講じる</p>		<p>目標14（海洋資源） 持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する</p>		<p>目標15（陸上資源） 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処並びに土地の劣化の防止・回復及び生産物多様性の損失を阻止する</p>
	<p>目標16（平和） 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、全ての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する</p>		<p>目標17（実施手段） 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化</p>		

3. 基本方針

(1)地域の特性を活かした安全で多彩な農業生産の推進

本市は温暖な気候により、水稻のほか、園芸作物であるキャベツ、レタス、ねぎ、にんじん等の野菜や梨、いちご、くり等の果実のほか、花き、畜産物など、多様な農畜産物が生産されています。自然環境にも恵まれた地域であり、広大な農地のほか、海や山など四季折々の自然を楽しむことができる地域となっています。また、東京湾アクアラインにより、首都圏からのアクセス性がよい地域であり、アウトレットモール、ゴルフ、寺社参拝、潮干狩りなど、多くの観光客が訪れる地域となっています。

これらの地域特性を活かし、安全で多彩な農業生産を推進していきます。



(2)多様な人材の確保・育成

他都市と同様に農業者の高齢化や減少が進んでおり、本市の農地面積は減少傾向にあります。遊休農地の増加は、病害虫の発生につながるほか、景観の悪化など、農地の多面的機能を享受できなくなってしまう。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、アウトドア・アクティビティへの関心が高まっており、グリーンツーリズムや半農半Xのようなライフスタイルにも注目が集まっています。

そのため、農業者だけではなく、市民や観光客など、多様な人材を確保し、農業に関わる人材を育成していきます。



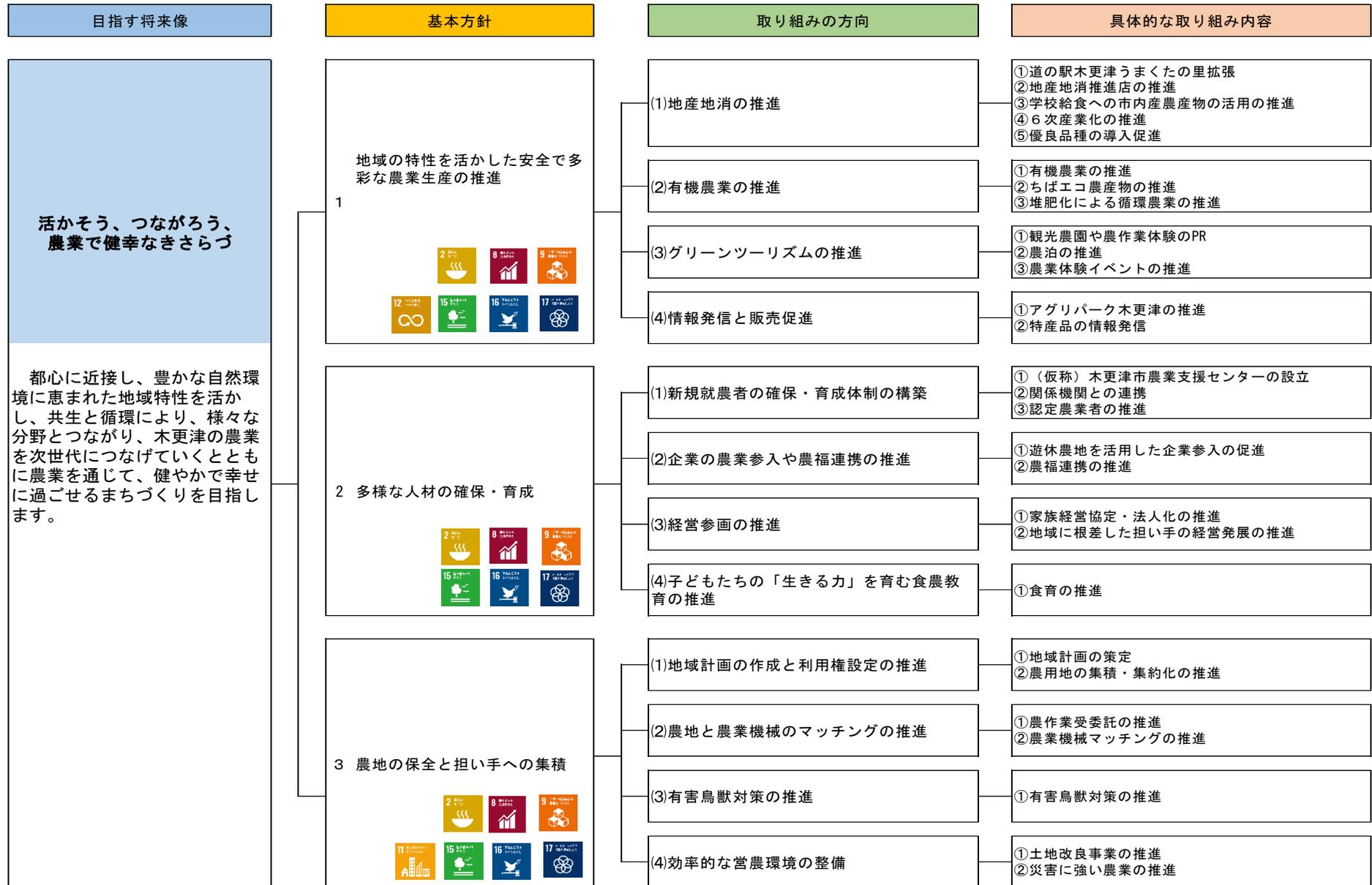
(3)農地の保全と担い手への集積

国では、今後、本格的に農業者の減少や耕作放棄地が拡大し、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念される中で、農地が利用されやすくなるよう、農地の集約化等に向けた取組を加速化することを課題としています。そのため、人・農地プランを法定化し、地域での話し合いにより目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する地域計画を定め、それを実現すべく、地域内外から農地の受け手を幅広く確保しつつ、農地バンクを活用した農地の集約化等を進めています。

本市においても、農地の保全と担い手への集積を進めるため、地区ごとに話し合いの場を設け、農地利用の姿を明確化する地域計画の作成を進めていき、農地を次世代に引き継ぐための管理手法を確立します。



4 施策体系図



第5章 施策の展開

1. 施策の展開

(1) 地域の特性を活かした安全で多彩な農業生産の推進

- ① 地産地消の推進
- ② 有機農業の推進
- ③ グリーンツーリズムの推進
- ④ 情報発信と販売促進

(2) 多様な人材の確保・育成

- ① 新規就農者の確保・育成体制の構築
- ② 企業の農業参入や農福連携の推進
- ③ 経営参画の推進
- ④ 子どもたちの「生きる力」を育む食農活動の推進

(3) 農地の保全と担い手への集積

- ① 地域計画の作成と利用権設定の推進
- ② 農地と農業機械のマッチングの推進
- ③ 有害鳥獣対策の推進
- ④ 効率的な営農環境の整備

2. 施策の取組

(1) 地域の特性を活かした安全で多彩な農業生産の推進

① 地産地消の推進

ア 道の駅木更津うまいたの里の拡張

平成 29 年に開業した道の駅木更津うまいたの里は、市内外から多くのお客様が来場し、本市の農林水産物の販売拠点となっていますが、道の駅が手狭となっており規模拡大が望まれています。市内産農産物の販売機会を拡大するとともに利便性の向上が図られるよう道の駅木更津うまいたの里の拡張を検討していきます。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
拡充	施設の拡張	—	供用済み	関係機関と拡張に向けた協議を行います。

イ 地産地消推進店の推進

地域で生産された農林水産物等を積極的に取り扱う小売店・飲食店を「木更津市地産地消推進店」として認定(令和5年8月現在 21 店)し、地産地消の推進に取り組んできました。

引き続き、情報発信による地産地消推進店の拡大に取り組むほか、地産地消推進店と生産者とのマッチングに取り組み地産地消を推進していきます。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
拡充	地産地消推進店の認定数	16 店	76 店 (累計)	小売店飲食店に制度を周知し年間 10 店の認定を目指します。
新規	推進店と生産者のマッチング	—	5 店 (累計)	毎年1店のマッチングを目指します。

ウ 学校給食への市内産農産物の活用の推進

市立公立小中学校の給食の食材として、地元で生産された有機栽培米、野菜等農産物やその加工品、水産物の優先使用に努めるとともに給食用に全量賄えるよう有機栽培米の生産拡大を促進します。

また、地産地消給食のさらなる推進を図るため、学校給食施設の整備を進めます。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
拡充	地元産食材使用率	81.3%	85%以上	市場等関係者等と協力し、使用率向上を目指します。

エ 6次産業化の推進

農業者の経営多角化による所得向上を図るため、農業者が農産物の生産だけでなく、加工、販売までを一体的に行う6次産業化の取り組みを関係機関等と連携しながら支援します。

また、農業者の雇用や地域の活性化につながる農業施設の設置について、支援を行います。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
拡充	6次産業化取組者支援	実施	実施	関係機関と連携し、情報提供等の支援を行います。

オ 優良品種の導入促進

高温でも品質が安定している温暖化対応の品種を広く啓発します。

- ・ 気候変動に適応した栽培方法や有望品種の検討や調査・研究の普及に努めます。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
継続	情報提供	実施	実施	関係機関と連携し、情報提供等の支援を行います。

② 有機農業の推進

温室効果ガスを削減し地球温暖化の防止に努めることは、農産物の安定確保と品質維持のために重要です。本市は、令和3年2月に2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」をし、環境に優しい農業を推進し、カーボンニュートラルに向けた取り組みを行います。

ア 有機農業の推進

木更津市有機農業推進協議会と連携し、市内公立小中学校の学校給食に提供されるお米をはじめとする農産物の有機化を推進します。

有機栽培に関する研修会の開催や、有機栽培管理マニュアルを作成し有機農業を推進するとともに、有機農産物の販路確保に取り組みます。

また、有機 JAS 認証の取得を推進するため、有機 JAS 認証の費用補助や認証支援に取り組んでいきます。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
拡充	有機農業の取組面積	36.1ha	70ha	関係機関と連携し、毎年5haの拡大に取り組みます。

イ ちばエコ農産物の推進

農薬や化学肥料を1/2以下に減らし、環境に与える負荷を軽減するため、特別栽培農産物の生産など環境にやさしい農業を推進します。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
拡充	ちばエコ農産物認証件数	22件	34件	関係機関と連携し、毎年2件の認証を目指します。

ウ 堆肥化による循環農業の推進

焼却処分している下水汚泥や剪定枝などの堆肥化を関係機関と連携し、家庭菜園など農業に親しむ市民に配布し、環境に優しい農業、カーボンニュートラルに向けた取り組みを研究し実用化を目指します。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
新規	下水汚泥の堆肥の市内循環率	—	30%	令和8年度の実用化を目指します。

③ グリーンツーリズムの推進

ア 観光農園や農作業体験のPR

市民が気軽に農業・水産業に触れられる機会として、市内にはイチゴ、ブルーベリーや潮干狩りなどの収穫体験を楽しむことができる観光農園、海岸があり、自ら生産する充実感を体験できる市民農園もあります。これら施設のPR・利用を促進します。

また、収穫等の体験農業を実施する農業者(事業者)が行う観光用施設の整備を支援します。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
新規	観光農園施設の整備	—	3施設 (累計)	農業者(事業者)の意向を確認し、支援を行います。

イ 農泊の推進

地域の農業振興と活性化を図るため、市内外の都市住民を対象に、農山漁村滞在型旅行(農泊)を実施し、都市と農村の交流を促進します。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
継続	農泊の実施	0回	1回以上/年	観光協会等と連携し、実施に取り組みます。

ウ 農業体験イベントの推進

本市農業を身近に感じることができる収穫等の体験を通じ、消費者である市民が本市農業への理解を深めることができる農業体験の充実を図ります。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
新規	農業体験イベントの実施	—	1回以上/年	観光協会等と連携し、実施に取り組みます。

④ 情報発信と販売促進

ア アグリパーク木更津の推進

市内の農林水産業関連施設のPRサイトである「アグリパーク木更津」では、都心から60分圏内という交通利便性を生かし、「都心から一番近い田舎」というキャッチフレーズのもと、市内全域のバーチャル農業公園化を目指したものとなっています。

都市住民を主な対象とした観光客の誘致を実現するため、本市の体験型農林水産業施設を広くPRすることを目的としています。

食への関心が近年ますます高まっていることもあり、農業・漁業体験を通して本市の食への理解が今まで以上に進むよう内容の充実を図ります。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
継続	PRサイトの定期的な更新	0回	年6回以上	観光協会等と連携し、内容の充実に取り組みます。

イ 特産品の情報発信

農業者や食品関連事業者の販売力向上及び経営の持続性を確保するため、木更津市産農産物や加工品の高付加価値化及び農業者や食品関連事業者の競争力を高めるとともに、多様な販路の開拓や確保に取組み、本市産品が、本市のみならず首都圏から積極的に選ばれ、購入されるよう情報発信します。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
継続	定期的な情報発信	0回	年6回以上	アグリパーク木更津を活用し、定期的な情報発信に取り組みます。

(2)多様な人材の確保・育成

① 新規就農者の確保・育成体制の構築

ア (仮称)木更津市農業支援センターの設立

近年の農業を取り巻く環境が、生産者の高齢化や後継者不足、有害鳥獣による、農作物被害の深刻化に加え、主食用米の需要減による米価の下落など、一層厳しさを増している状況から、JA木更津市と持続的な農業の推進に繋がる(仮称)木更津市農業支援センターの設立に向けた取り組みを行います。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
新規	センターの設立	—	設置済み	JA木更津市と設立に向けた協議を行います

イ 関係機関との連携

千葉県をはじめとする関係機関との連携により、就農準備や受け入れ体制を充実させ、新規就農者の確保を目指します。

また、新規就農者が農業を継続することの困難さを踏まえ、きめ細かな支援を行い、就農定着を図るとともに女性農業者が、能力を十分に発揮し、活躍できる環境づくりを進めます。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
拡充	新規就農者数	23人	33人	関係機関と連携し、毎年2人の就農を目指します。

※令和4年度末の23経営体は令和元年度から4年度の累計数

ウ 認定農業者の推進

農業経営改善に取り組む「認定農業者制度」の活用を推進し、農業経営に関する指導や様々な相談の対応を行うとともに、農産物の生産拡大や効率的な営農に向けた支援を行います。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
拡充	認定農業者数	112人	124人	認定新規就農者(7人)と毎年1人の認定を目指します。

② 企業の農業参入や農福連携の推進

ア 遊休農地を活用した企業参入の促進

本市は、地元はもとより、首都圏や近隣の大消費地へ農畜産物を出荷しやすい環境にあり、気候にも恵まれています。

しかしながら、農業従事者が減少し、離農による遊休農地が増加しています。

この遊休農地を活用し、地域に定着し調和する可能性が高い法人等を中心に、農業法人の参入促進につながる取組を行います。

農業法人が地域に定着することにより、将来の地域を牽引する経営体となり、雇用も創出されるとともに、農地の集積が進むことで有効活用が図られ、本市農業の活性化に繋がります。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
継続	情報提供	実施	実施	関係課、関係機関との連携による情報の提供等を行います。

イ 農福連携の推進

障がいのある人をはじめ、高齢者や生活困窮者、引きこもりの状態にある人等の農業分野での活動を通じて、障がいのある人等の新たな活動の場や生きがいが創出され、地域共生社会の実現に寄与できるとともに、農業経営の発展においても期待できる「農福連携」を推進します。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
継続	情報提供	実施	実施	関係機関と連携し、実施します。

③ 経営参画の推進

ア 家族経営協定・法人化の推進

地域に根差した次代の担い手となる既存の有望若手農業者等の法人化等、更なる経営発展を支援します。

さらに、農業者の高齢化と減少が急速に進行しているため、家族農業経営における後継者支援が急務となっていることから、農業経営の継承に必要な取組みを支援します。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
拡充	法人化、家族経営協定締結支援	実施	実施	関係機関と連携し、支援します。

イ 地域に根差した担い手の経営発展の推進

市内で尽力し、地域に根差した担い手として活躍する中小規模の農業者がさらに経営発展するために必要な機械・施設等の導入などニーズに合わせた個別支援や、農業者の収益の確保と作業負担の軽減に向け、スマート農業の導入支援を行い、生産性の向上により安定した農業経営を推進します。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
新規	補助事業の創設検討	—	実施	事業内容等の検討を行います。
新規	補助の件数 (スマート農業関係)	—	25件 (5件)	毎年5件の補助を目指します。

④ 子どもたちの「生きる力」を育む食農教育の推進

ア 食育の推進

小学校3年生から6年生の総合的な学習の時間において、地域の特色を生かした栽培・収穫体験活動計画を体系的に整備し、保護者、地域の生産者等との連携を図りながら、自ら栽培したものを調理、食すことにより、「食」に対する意識を高め、「食」に関する正しい知識の習得を図ります。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
拡充	農業体験実施小学校数	6校	18校	出前授業での実施を検討し、市内小学校全校の実施を目指します。

(3) 農地の保全と担い手への集積

① 地域計画の作成と利用権設定の推進

ア 地域計画の策定

令和4年の農業経営基盤強化促進法等の改正により、「人・農地プラン」が法定化され、地域での話し合いにより地域で目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」を策定することとなりました。

「地域計画」を実現すべく、地域内外から農地の受け手を幅広く確保しつつ、地域農業の維持・発展に向け、認定農業者や認定新規就農者を地域の中心となる経営体へと位置づけ、地域の担い手として農地を集積・集約します。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
拡充	全地域での計画策定	—	策定済み	地域での話し合いを行い、令和6年度末までの策定を目指します。

イ 農用地の集積・集約化の推進

地域計画の実現に向けて、効率的かつ安定的な農業経営を営む者に対する農用地の集約化を進めるため、農地中間管理機構を軸としながら、関係機関と連携し農用地の利用調整につとめ、農地の集積・集約化を進めます。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
拡充	利用集積面積	214ha	777ha	地域計画の策定作業を通じ、毎年112.6haの集積を目指します。

② 農地と農業機械のマッチングの推進

ア 農作業受委託の推進

本市の田の経営耕地面積に占める農作業の受託作業面積割合は、県平均と比較し受託作業面積の割合が少なくなっていることから、農業者の農作業負担の軽減を目的に、作業受託組織の設立支援に取り組みます。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
継続	作業受託組織設立支援	—	実施	JA等の関係機関と連携し支援します

イ 農業機械のマッチングの推進

農業者の高齢化による離農が拡大する中、利用可能な農業機械を有効活用するため、農業機械のマッチングについて、検討します。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
新規	実施方法の検討	—	検討済み	JA等の関係機関と連携し検討します

③ 有害鳥獣対策の推進

ア 有害鳥獣対策の推進

有害鳥獣による農作物被害を軽減するため、関係機関で組織する木更津市有害鳥獣対策協議会により捕獲や侵入防止等の対策に取り組むとともに、わな通知システム等のIoT技術など、捕獲活動に係る負担軽減の取組みを推進します。

また、専門家と連携し、地域の実情に応じた効果的な被害防止体制の構築や研修会の開催等を通じて地域の新たな捕獲活動の担い手の確保に取り組みます。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
拡充	農作物被害額	15,926 千円	9,740 千円	対策の推進により年 1,031 千円の減少を目指します。

④ 効率的な営農環境の整備

ア 土地改良事業の推進

地域の意向を踏まえながら未整備地域のほ場整備事業を推進するとともに、基幹的な用水施設や排水施設については、長期的な視点に立って、効率的かつ計画的な保全更新対策を推進します。

・農作業の効率化を図るため、農業関連施設の整備を支援するとともに、老朽化している施設の改修等について対策を進めます。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
継続	地区土地改良事業への支援	実施	実施	国・県補助の対象とならない小規模な土地改良事業への支援に取り組みます。

イ 災害に強い農業の推進

台風をはじめとする暴風雨や洪水、地震などの災害への対策に取り組み、災害に強い農業の実現を目指します。

自然災害による収量減少や価格低下をはじめ、農業者の経営努力では避けられない収入減少を広く補償する収入保険への加入や農業共済への加入を促進します。

暴風雨に伴う倒木による交通の遮断や送電線の破損の未然防止及び被災した森林の復旧について、森林環境譲与税を活用し、森林の適切な整備を推進します。

新・拡・継	取組・目標	令和4年度末	令和10年度末	備考
継続	森林等の安全対策	実施	実施	東京電力、地元自治会等関係機関と調整し取り組みます。

第6章 計画の推進

1. 計画推進における各主体の役割

本市の農業を振興していくためには、行政や農業者はもちろんのこと、市民や関係機関等、農業に関わる多様な主体の理解と協力・連携が重要となります。

各主体に期待される役割は次のとおりです。

(1) 市民

市民には、市内産農畜産物を購入し、消費する地産地消の推進や、都市と農村の交流を通じて、農業への理解を深める等、本市農業を支えていく役割が期待されます。

(2) 農業者

農業者には、自らの農業生産活動を更に発展させ、消費者へ新鮮で安全安心な農畜産物を安定的に供給するとともに、農と森林が持つ多様な機能を活用し、都市住民との交流により、農業・農村が持つ重要な役割を市民に伝えていく役割が期待されます。

(3) 農地所有者

農地所有者には、農地の適正な管理・保全に努め、特に市街化区域内の農地所有者については、農産物の供給だけではなく、農業体験・学習の場、交流の場、景観形成、環境保全等の多様な機能の発揮に取り組む役割が期待されます。

(4) 農業団体

農業団体には、担い手に対する技術・経営指導、農業者の安定的な農業経営を支援するとともに、農業者の所得の向上を図るため、農畜産物の加工・販売など、多様な側面から農業者をサポートする役割が期待されます。

(5) 農業委員・農地利用最適化推進委員

農業委員・農地利用最適化推進委員には、担い手への農地等の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進など、農地等の利用の最適化を積極的に推進する役割が期待されます。

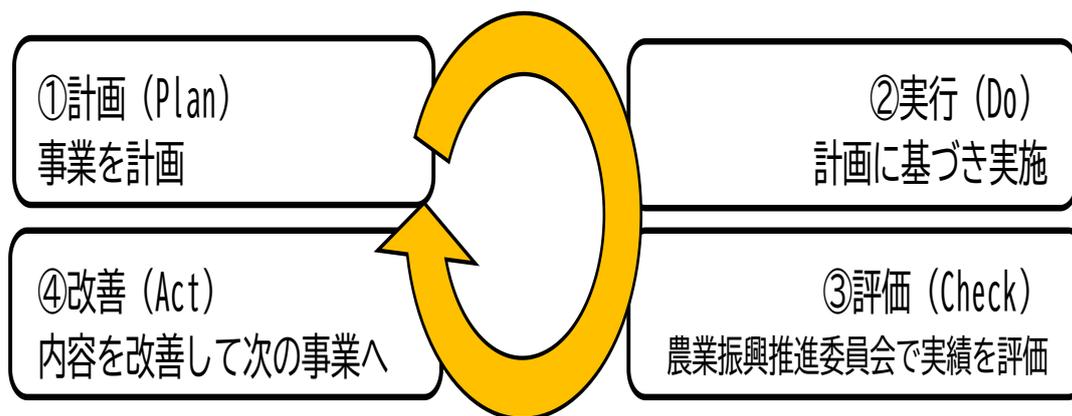
(6) 市

市は、市民の農業に対する理解醸成を促進するとともに、農業者の経営発展の支援はもとより、関係機関や農業団体との連携を強化し、農業の振興施策を展開することで、本市農業の持続性の確保し、さらなる発展に努めます。

2.計画の進行管理

第3次木更津市農業振興計画を着実に推進していくためには、計画の進行管理の体制を構築することが重要となります。このため、市民や農業団体を代表する者、農業者等で構成する「木更津市農業振興推進委員会」を中心に計画の進行管理を行います。

また、進行管理にあたっては、各年度における事業の具体的な計画として、「木更津市農業振興アクションプラン」を別途策定し、本計画の進行状況の点検・評価を行う等、PDCAサイクルを活用し、効果的かつ継続的な計画の推進を図ります。



資料編

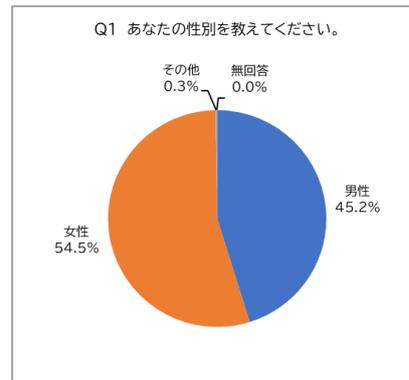
1.木更津市農業振興計画策定に関するアンケート調査結果

① 市民(消費者)アンケート調査

実施期間 令和4年12月10日～令和5年1月10日
実施方法 無作為抽出した木更津市民1,000人の方を対象に調査票を郵送
郵送もしくはインターネットで回答
回答者 374名(回答率 37.4%)

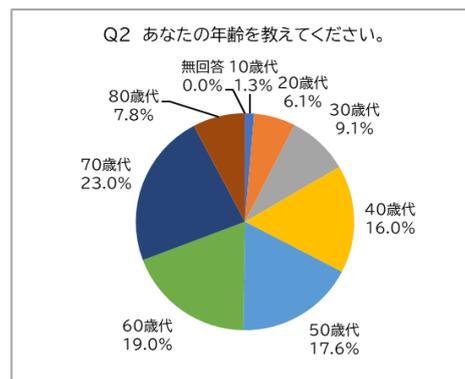
Q1 あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	比率
男性	169	45.2%
女性	204	54.5%
その他	1	0.3%
無回答	0	0.0%
合計	374	100.0%



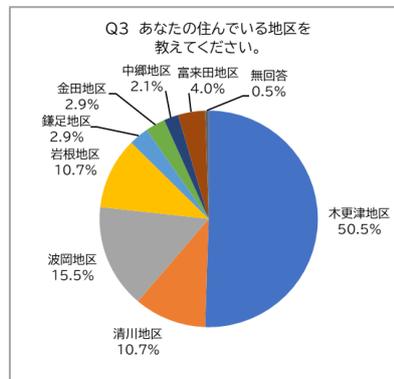
Q2 あなたの年齢を教えてください。

選択肢	回答数	比率
10歳代	5	1.3%
20歳代	23	6.1%
30歳代	34	9.1%
40歳代	60	16.0%
50歳代	66	17.6%
60歳代	71	19.0%
70歳代	86	23.0%
80歳代	29	7.8%
無回答	0	0.0%
合計	374	100.0%



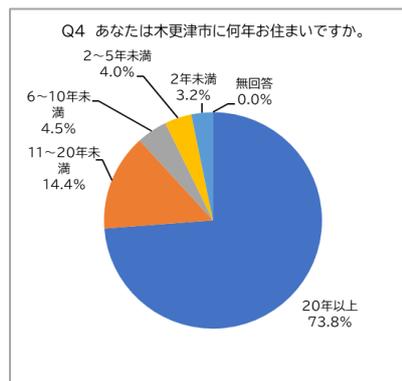
Q3 あなたの住んでいる地区を教えてください。

選択肢	回答数	比率
木更津地区	189	50.5%
清川地区	40	10.7%
波岡地区	58	15.5%
岩根地区	40	10.7%
鎌足地区	11	2.9%
金田地区	11	2.9%
中郷地区	8	2.1%
富来田地区	15	4.0%
無回答	2	0.5%
合計	374	100.0%



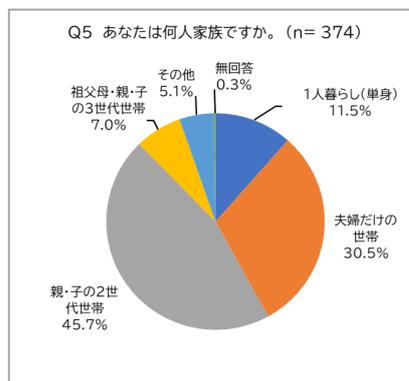
Q4 あなたは木更津市に何年お住まいですか。

選択肢	回答数	比率
20年以上	276	73.8%
11～20年未満	54	14.4%
6～10年未満	17	4.5%
2～5年未満	15	4.0%
2年未満	12	3.2%
無回答	0	0.0%
合計	374	100.0%



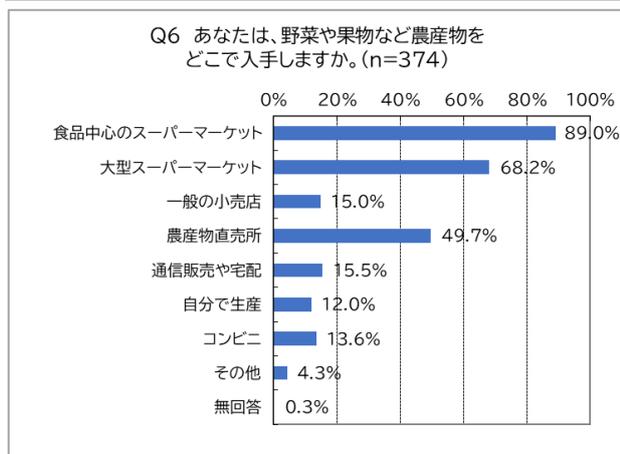
Q5 あなたは何人家族ですか。

選択肢	回答数	比率
1人暮らし(单身)	43	11.5%
夫婦だけの世帯	114	30.5%
親・子の2世代世帯	171	45.7%
祖父母・親・子の3世代世帯	26	7.0%
その他	19	5.1%
無回答	1	0.3%
合計	374	100.0%



Q6 あなたは、野菜や果物など農産物をどこで入手しますか。

選択肢	回答数	比率
食品中心のスーパーマーケット	333	89.0%
大型スーパーマーケット	255	68.2%
一般の小売店	56	15.0%
農産物直売所	186	49.7%
通信販売や宅配	58	15.5%
自分で生産	45	12.0%
コンビニ	51	13.6%
その他	16	4.3%
無回答	1	0.3%
合計	1001	-

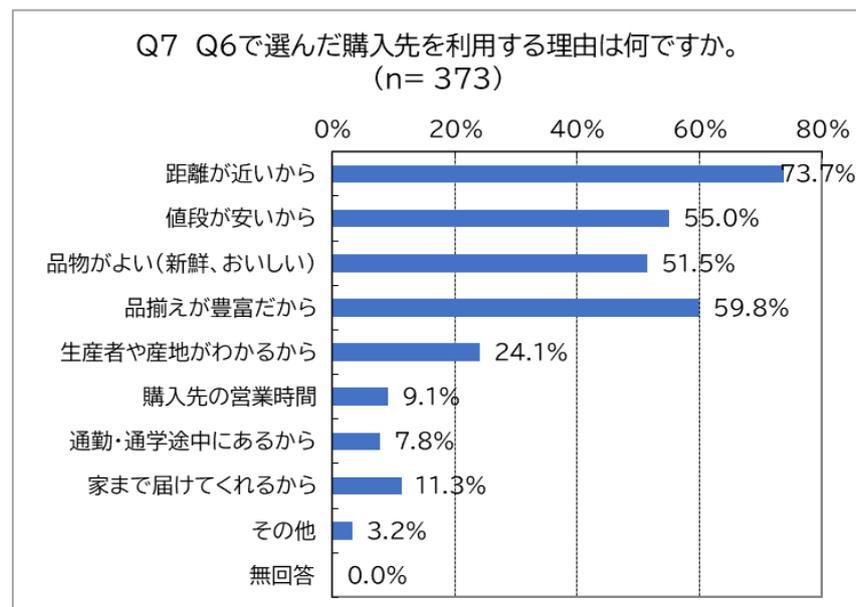


Q6×Q3 居住地区別の主な農産物の購入先

	n	合計	食品中心のスーパーマーケット	大型スーパーマーケット	一般の小売店	農産物直売所	通信販売や宅配	自分で生産	コンビニ	その他	無回答
全体	374	1,001	333	255	56	186	58	45	51	16	1
		267.6%	89.0%	68.2%	15.0%	49.7%	15.5%	12.0%	13.6%	4.3%	0.3%
木更津地区	189	491	168	132	26	90	30	13	31	1	0
		259.8%	88.9%	69.8%	13.8%	47.6%	15.9%	6.9%	16.4%	0.5%	0.0%
清川地区	40	114	35	25	8	29	5	6	4	2	0
		285.0%	87.5%	62.5%	20.0%	72.5%	12.5%	15.0%	10.0%	5.0%	0.0%
波岡地区	58	165	56	42	13	25	9	11	5	4	0
		284.5%	96.6%	72.4%	22.4%	43.1%	15.5%	19.0%	8.6%	6.9%	0.0%
岩根地区	40	104	36	24	3	19	5	6	7	4	0
		260.0%	90.0%	60.0%	7.5%	47.5%	12.5%	15.0%	17.5%	10.0%	0.0%
鎌足地区	11	35	8	7	1	9	2	5	2	1	0
		318.2%	72.7%	63.6%	9.1%	81.8%	18.2%	45.5%	18.2%	9.1%	0.0%
金田地区	11	29	9	10	1	5	1	0	1	2	0
		263.6%	81.8%	90.9%	9.1%	45.5%	9.1%	0.0%	9.1%	18.2%	0.0%
中郷地区	8	20	8	4	1	2	2	3	0	0	0
		250.0%	100.0%	50.0%	12.5%	25.0%	25.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%
富来田地区	15	38	12	10	2	6	4	1	1	1	1
		253.3%	80.0%	66.7%	13.3%	40.0%	26.7%	6.7%	6.7%	6.7%	6.7%
無回答	2	5	1	1	1	1	0	0	0	1	0
		250.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%

Q7 Q6で選んだ購入先を利用する理由は何ですか。(Q6で1~8を選んだ方)

選択肢	回答数	比率
距離が近いから	275	73.7%
値段が安いから	205	55.0%
品物がよい(新鮮、おいしい)	192	51.5%
品揃えが豊富だから	223	59.8%
生産者や産地がわかるから	90	24.1%
購入先の営業時間	34	9.1%
通勤・通学途中にあるから	29	7.8%
家まで届けてくれるから	42	11.3%
その他	12	3.2%
無回答	0	0.0%
合計	1102	-

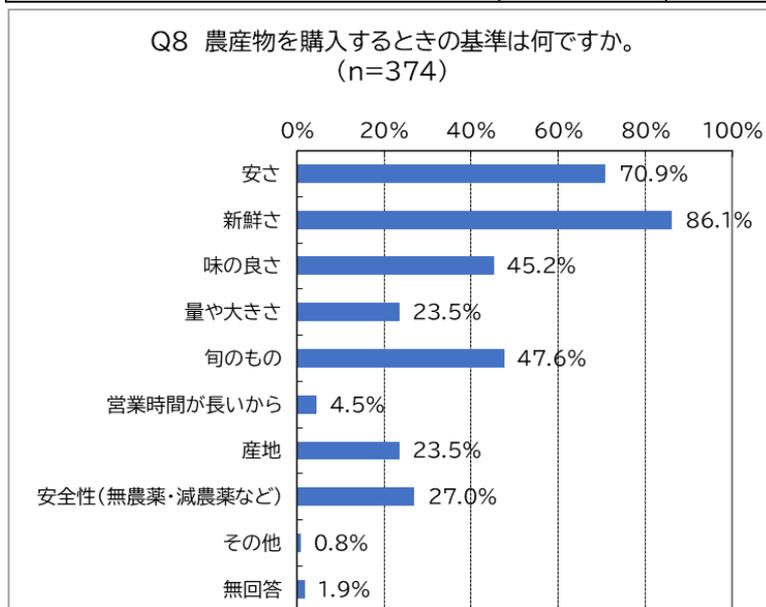


Q7×Q6 主な農産物の購入先とそこを利用する理由

	n	合計	距離が近いから	値段が安いから	品物がよい(新鮮、おいしい)	品揃えが豊富だから	生産者や産地がわかるから	購入先の営業時間	通勤・通学途中にあるから	家まで届けてくれる	その他	無回答
全体	1,000	3,213	743	605	578	641	289	95	80	148	34	0
		321.3%	74.3%	60.5%	57.8%	64.1%	28.9%	9.5%	8.0%	14.8%	3.4%	0.0%
食品中心のスーパーマーケット	333	1,008	254	193	178	201	79	29	27	37	10	0
		302.7%	76.3%	58.0%	53.5%	60.4%	23.7%	8.7%	8.1%	11.1%	3.0%	0.0%
大型スーパーマーケット	255	801	191	158	133	176	60	27	25	26	5	0
		314.1%	74.9%	62.0%	52.2%	69.0%	23.5%	10.6%	9.8%	10.2%	2.0%	0.0%
一般の小売店	56	204	42	39	39	40	24	9	6	4	1	0
		364.3%	75.0%	69.6%	69.6%	71.4%	42.9%	16.1%	10.7%	7.1%	1.8%	0.0%
農産物直売所	186	621	135	122	131	114	69	13	12	20	5	0
		333.9%	72.6%	65.6%	70.4%	61.3%	37.1%	7.0%	6.5%	10.8%	2.7%	0.0%
通信販売や宅配	58	200	40	27	32	34	21	5	2	38	1	0
		344.8%	69.0%	46.6%	55.2%	58.6%	36.2%	8.6%	3.4%	65.5%	1.7%	0.0%
自分で生産	45	146	29	26	29	30	19	4	1	5	3	0
		324.4%	64.4%	57.8%	64.4%	66.7%	42.2%	8.9%	2.2%	11.1%	6.7%	0.0%
コンビニ	51	183	40	33	29	38	13	7	6	14	3	0
		358.8%	78.4%	64.7%	56.9%	74.5%	25.5%	13.7%	11.8%	27.5%	5.9%	0.0%
その他	16	50	12	7	7	8	4	1	1	4	6	0
		312.5%	75.0%	43.8%	43.8%	50.0%	25.0%	6.3%	6.3%	25.0%	37.5%	0.0%

Q8 農産物を購入するときの基準は何ですか。

選択肢	回答数	比率
安さ	265	70.9%
新鮮さ	322	86.1%
味の良さ	169	45.2%
量や大きさ	88	23.5%
旬のもの	178	47.6%
営業時間が長いから	17	4.5%
産地	88	23.5%
安全性(無農薬・減農薬など)	101	27.0%
その他	3	0.8%
無回答	7	1.9%
合計	1238	-

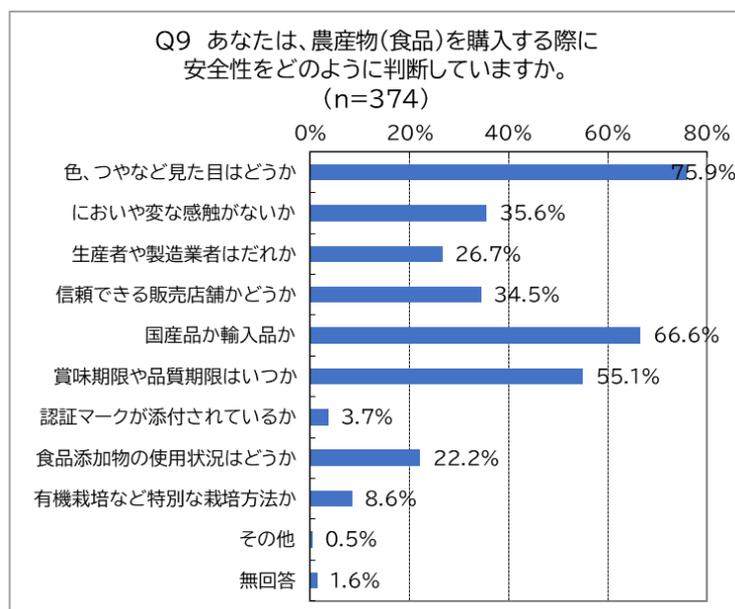


Q8×Q6 主な農産物の購入先と農産物を購入するときの基準

	n	合計	安さ	新鮮さ	味の良さ	量や大きさ	旬のもの	営業時間が長いから	産地	安全性(無農薬・減)	その他	無回答
全体	1,001	3,495	720	890	501	243	527	41	251	298	6	18
		349.2%	71.9%	88.9%	50.0%	24.3%	52.6%	4.1%	25.1%	29.8%	0.6%	1.8%
食品中心のスーパーマーケット	333	1,125	247	293	151	79	164	15	79	89	2	6
		337.8%	74.2%	88.0%	45.3%	23.7%	49.2%	4.5%	23.7%	26.7%	0.6%	1.8%
大型スーパーマーケット	255	872	189	230	117	68	125	10	64	65	1	3
		342.0%	74.1%	90.2%	45.9%	26.7%	49.0%	3.9%	25.1%	25.5%	0.4%	1.2%
一般の小売店	56	214	39	47	31	18	34	3	19	21	0	2
		382.1%	69.6%	83.9%	55.4%	32.1%	60.7%	5.4%	33.9%	37.5%	0.0%	3.6%
農産物直売所	186	660	126	168	100	41	107	2	48	63	1	4
		354.8%	67.7%	90.3%	53.8%	22.0%	57.5%	1.1%	25.8%	33.9%	0.5%	2.2%
通信販売や宅配	58	223	39	53	41	11	37	1	14	27	0	0
		384.5%	67.2%	91.4%	70.7%	19.0%	63.8%	1.7%	24.1%	46.6%	0.0%	0.0%
自分で生産	45	161	33	40	26	12	21	2	13	14	0	0
		357.8%	73.3%	88.9%	57.8%	26.7%	46.7%	4.4%	28.9%	31.1%	0.0%	0.0%
コンビニ	51	183	34	48	30	11	30	5	9	14	0	2
		358.8%	66.7%	94.1%	58.8%	21.6%	58.8%	9.8%	17.6%	27.5%	0.0%	3.9%
その他	16	56	13	11	4	3	9	3	5	5	2	1
		350.0%	81.3%	68.8%	25.0%	18.8%	56.3%	18.8%	31.3%	31.3%	12.5%	6.3%
無回答	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

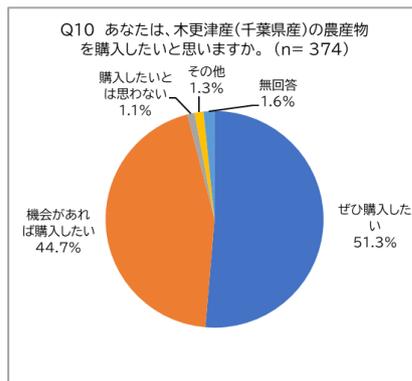
Q9 あなたは、農産物(食品)を購入する際に安全性をどのように判断していますか。

選択肢	回答数	比率
色、つやなど見た目はどうか	284	75.9%
においや変な感触がないか	133	35.6%
生産者や製造業者はだれか	100	26.7%
信頼できる販売店舗かどうか	129	34.5%
国産品か輸入品か	249	66.6%
賞味期限や品質期限はいつか	206	55.1%
認証マークが添付されているか	14	3.7%
食品添加物の使用状況はどうか	83	22.2%
有機栽培など特別な栽培方法か	32	8.6%
その他	2	0.5%
無回答	6	1.6%
合計	1238	-



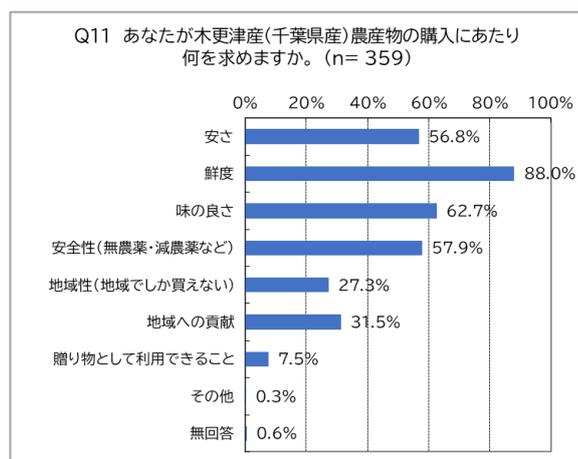
Q10 あなたは、木更津産(千葉県産)の農産物を購入したいと思いますか。

選択肢	回答数	比率
ぜひ購入したい	192	51.3%
機会があれば購入したい	167	44.7%
購入したいとは思わない	4	1.1%
その他	5	1.3%
無回答	6	1.6%
合計	374	100.0%



Q11 あなたが木更津産(千葉県産)農産物の購入にあたり何を求めますか。
(Q10 で「ぜひ購入したい」「機会があれば購入したい」と回答した方)

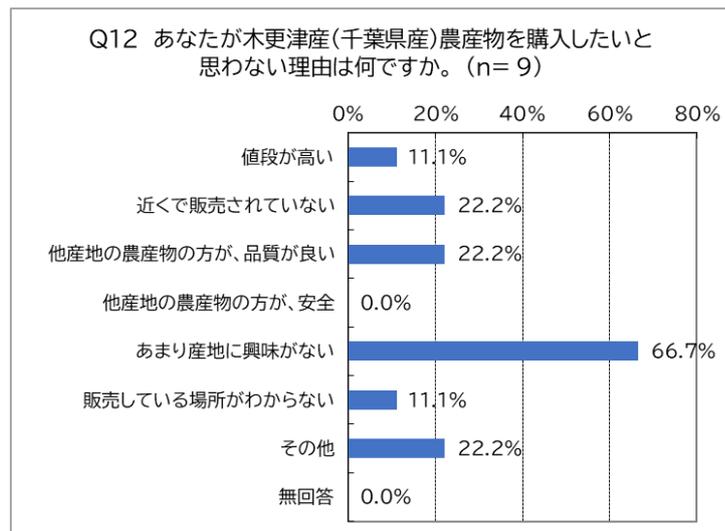
選択肢	回答数	比率
安さ	204	56.8%
鮮度	316	88.0%
味の良さ	225	62.7%
安全性(無農薬・減農薬など)	208	57.9%
地域性(地域でしか買えない)	98	27.3%
地域への貢献	113	31.5%
贈り物として利用できること	27	7.5%
その他	1	0.3%
無回答	2	0.6%
合計	1194	-



Q12 あなたが木更津産(千葉県産)農産物を購入したいと思わない理由は何ですか。
(Q10 で「購入したいと思わない」「その他」と回答した方)

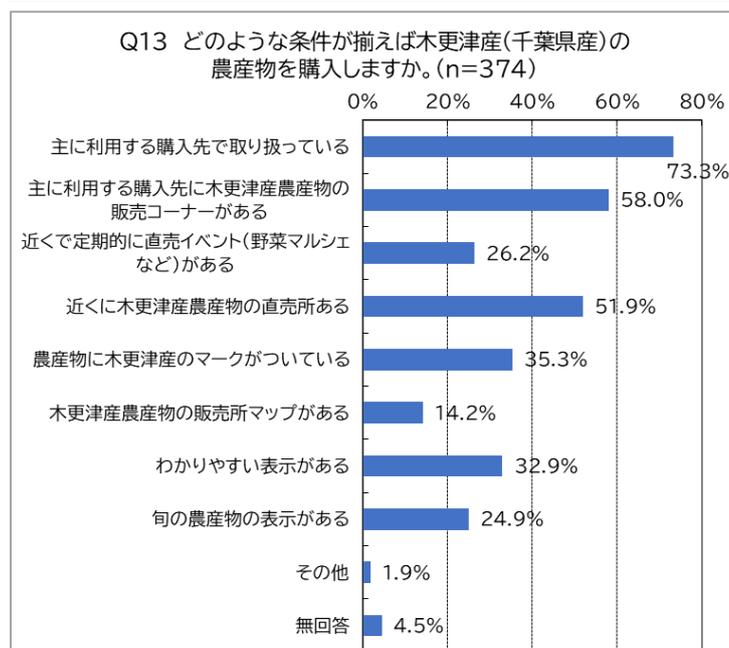
選択肢	回答数	比率
値段が高い	1	11.1%

近くで販売されていない	2	22.2%
他産地の農産物の方が、品質が良い	2	22.2%
他産地の農産物の方が、安全	0	0.0%
あまり産地に興味がない	6	66.7%
販売している場所がわからない	1	11.1%
その他	2	22.2%
無回答	0	0.0%
合計	14	-



Q13 どのような条件が揃えば木更津産(千葉県産)の農産物を購入しますか。

選択肢	回答数	比率
主に利用する購入先で取り扱っている	274	73.3%
主に利用する購入先に木更津産農産物の販売コーナーがある	217	58.0%
近くで定期的に直売イベント(野菜マルシェなど)がある	98	26.2%
近くに木更津産農産物の直売所ある	194	51.9%
農産物に木更津産のマークがついている	132	35.3%
木更津産農産物の販売所マップがある	53	14.2%
わかりやすい表示がある	123	32.9%
旬の農産物の表示がある	93	24.9%
その他	7	1.9%
無回答	17	4.5%
合計	1208	-

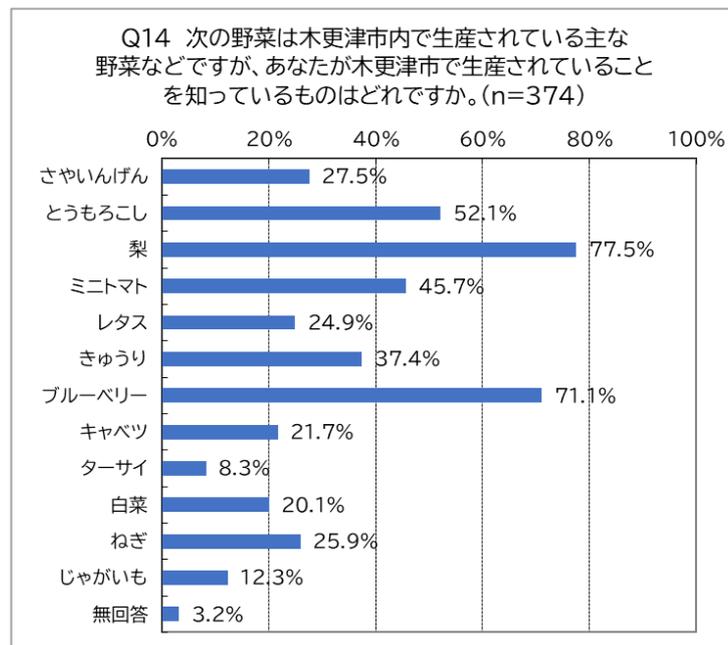


Q13×Q3 居住地区別の木更津産農産物の購入条件

	n	合計	主に利用する購入先で取り扱っている	主に利用する購入先に木更津産農産物の販売コーナーがある	近くで定期的に直売イベント（野菜マルシェなど）がある	近くに木更津産農産物の直売所がある	農産物に木更津産のマークがついている	木更津産農産物の販売所マップがある	わかりやすい表示がある	旬の農産物の表示がある	その他	無回答
全体	374	1,208	274	217	98	194	132	53	123	93	7	17
		323.0%	73.3%	58.0%	26.2%	51.9%	35.3%	14.2%	32.9%	24.9%	1.9%	4.5%
木更津地区	189	611	142	117	48	97	63	25	64	47	1	7
		323.3%	75.1%	61.9%	25.4%	51.3%	33.3%	13.2%	33.9%	24.9%	0.5%	3.7%
清川地区	40	154	31	27	14	28	21	6	13	11	2	1
		385.0%	77.5%	67.5%	35.0%	70.0%	52.5%	15.0%	32.5%	27.5%	5.0%	2.5%
波岡地区	58	192	44	28	20	27	18	11	24	16	0	4
		331.0%	75.9%	48.3%	34.5%	46.6%	31.0%	19.0%	41.4%	27.6%	0.0%	6.9%
岩根地区	40	104	23	23	9	17	12	1	6	10	2	1
		260.0%	57.5%	57.5%	22.5%	42.5%	30.0%	2.5%	15.0%	25.0%	5.0%	2.5%
鎌足地区	11	29	5	5	2	6	2	2	2	1	1	3
		263.6%	45.5%	45.5%	18.2%	54.5%	18.2%	18.2%	18.2%	9.1%	9.1%	27.3%
金田地区	11	31	8	6	2	4	2	1	4	3	0	1
		281.8%	72.7%	54.5%	18.2%	36.4%	18.2%	9.1%	36.4%	27.3%	0.0%	9.1%
中郷地区	8	22	8	2	0	3	3	1	3	1	1	0
		275.0%	100.0%	25.0%	0.0%	37.5%	37.5%	12.5%	37.5%	12.5%	12.5%	0.0%
富来田地区	15	56	11	8	3	10	9	5	6	4	0	0
		373.3%	73.3%	53.3%	20.0%	66.7%	60.0%	33.3%	40.0%	26.7%	0.0%	0.0%
無回答	2	9	2	1	0	2	2	1	1	0	0	0
		450.0%	100.0%	50.0%	0.0%	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%

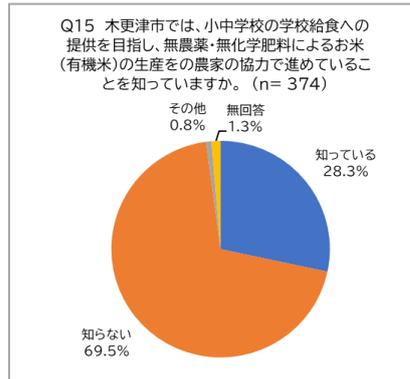
Q14 次の野菜は木更津市内で生産されている主な野菜などですが、あなたが木更津市で生産されていることを知っているものはどれですか。

選択肢	回答数	比率
さやいんげん	103	27.5%
とうもろこし	195	52.1%
梨	290	77.5%
ミニトマト	171	45.7%
レタス	93	24.9%
きゅうり	140	37.4%
ブルーベリー	266	71.1%
キャベツ	81	21.7%
ターサイ	31	8.3%
白菜	75	20.1%
ねぎ	97	25.9%
じゃがいも	46	12.3%
無回答	12	3.2%
合計	1600	-



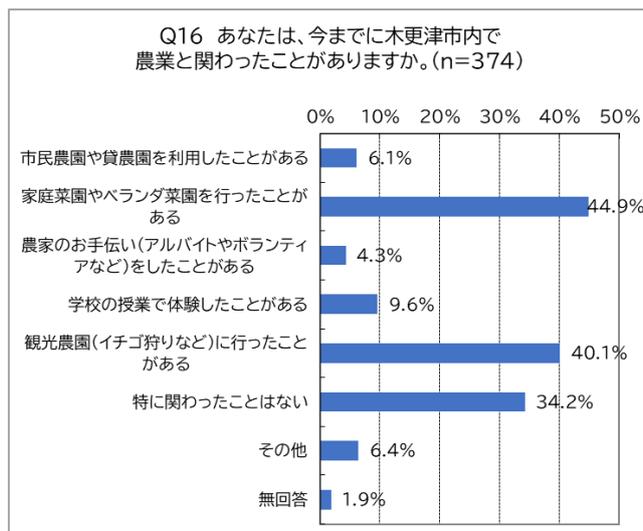
Q15 木更津市では、小中学校の学校給食への提供を目指し、無農薬・無化学肥料によるお米(有機米)の生産を農家の協力で進めていることを知っていますか。

選択肢	回答数	比率
知っている	106	28.3%
知らない	260	69.5%
その他	3	0.8%
無回答	5	1.3%
合計	374	100.0%



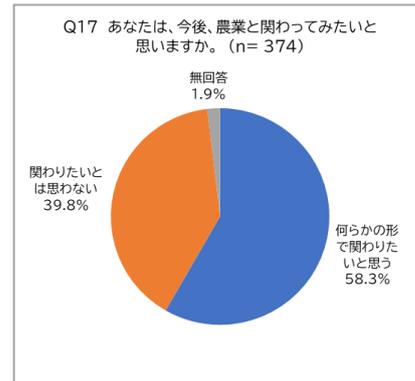
Q16 あなたは、今までに木更津市内で農業と関わったことがありますか。

選択肢	回答数	比率
市民農園や貸農園を利用したことがある	23	6.1%
家庭菜園やベランダ菜園を行ったことがある	168	44.9%
農家のお手伝い(アルバイトやボランティアなど)をしたことがある	16	4.3%
学校の授業で体験したことがある	36	9.6%
観光農園(イチゴ狩りなど)に行ったことがある	150	40.1%
特に関わったことはない	128	34.2%
その他	24	6.4%
無回答	7	1.9%
合計	552	-



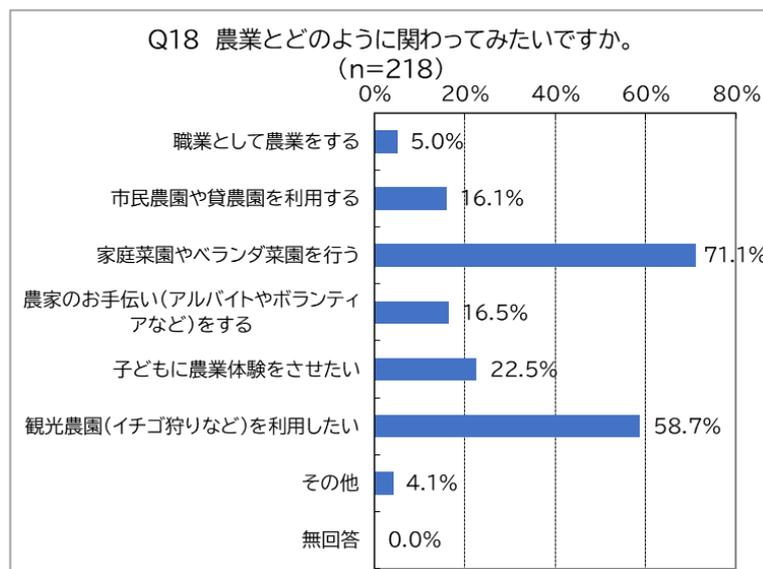
Q17 あなたは、今後、農業と関わってみたいと思いますか。

選択肢	回答数	比率
何らかの形で関わりたいと思う	218	58.3%
関わりたいとは思わない	149	39.8%
無回答	7	1.9%
合計	374	100.0%



Q18 農業とどのように関わってみたいですか。
(Q17 で「何らかの形で関わりたい」と回答した方)

選択肢	回答数	比率
職業として農業をする	11	5.0%
市民農園や貸農園を利用する	35	16.1%
家庭菜園やベランダ菜園を行う	155	71.1%
農家のお手伝い(アルバイトやボランティアなど)をする	36	16.5%
子どもに農業体験をさせたい	49	22.5%
観光農園(イチゴ狩りなど)を利用したい	128	58.7%
その他	9	4.1%
無回答	0	0.0%
合計	423	-

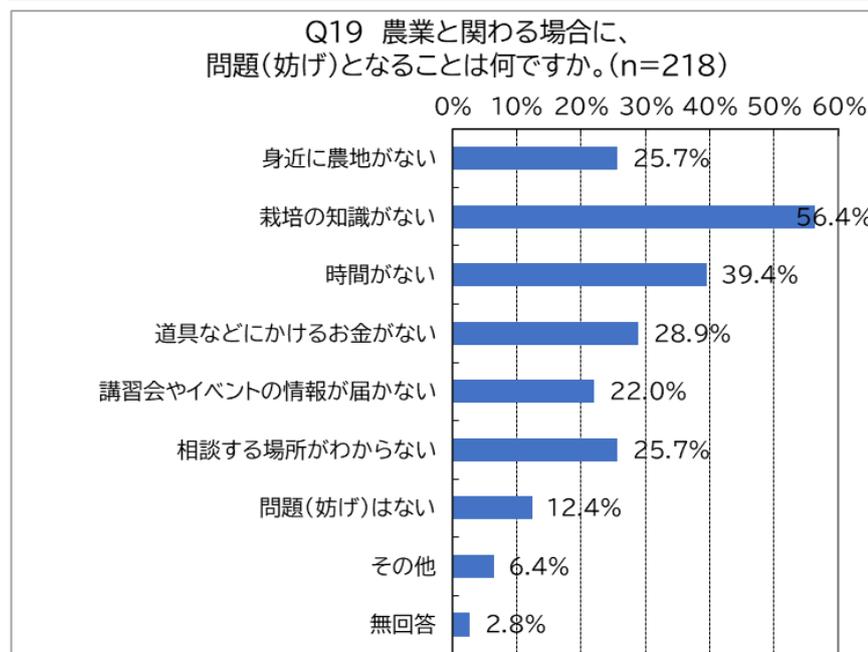


Q18×Q3 居住地区別の農業への関わりの意向

	n	合計	職業として農業をする	市民農園や貸農園を利用する	家庭菜園やバランダ菜園を行う	農家のお手伝い（アルバイトやボランティアなど）をする	子どもに農業体験をさせたい	観光農園（イチゴ狩りなど）を利用したい	その他	無回答
全体	218	423	11	35	155	36	49	128	9	0
		194.0%	5.0%	16.1%	71.1%	16.5%	22.5%	58.7%	4.1%	0.0%
木更津地区	108	215	5	21	74	17	23	68	7	0
		199.1%	4.6%	19.4%	68.5%	15.7%	21.3%	63.0%	6.5%	0.0%
清川地区	26	51	3	3	18	4	6	17	0	0
		196.2%	11.5%	11.5%	69.2%	15.4%	23.1%	65.4%	0.0%	0.0%
波岡地区	31	63	1	5	23	3	11	20	0	0
		203.2%	3.2%	16.1%	74.2%	9.7%	35.5%	64.5%	0.0%	0.0%
岩根地区	26	45	0	3	21	7	4	10	0	0
		173.1%	0.0%	11.5%	80.8%	26.9%	15.4%	38.5%	0.0%	0.0%
鎌足地区	8	10	2	0	6	0	1	1	0	0
		125.0%	25.0%	0.0%	75.0%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%
金田地区	7	13	0	1	6	2	0	3	1	0
		185.7%	0.0%	14.3%	85.7%	28.6%	0.0%	42.9%	14.3%	0.0%
中郷地区	4	6	0	0	2	0	1	2	1	0
		150.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%
富来田地区	7	19	0	2	5	3	3	6	0	0
		271.4%	0.0%	28.6%	71.4%	42.9%	42.9%	85.7%	0.0%	0.0%
無回答	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

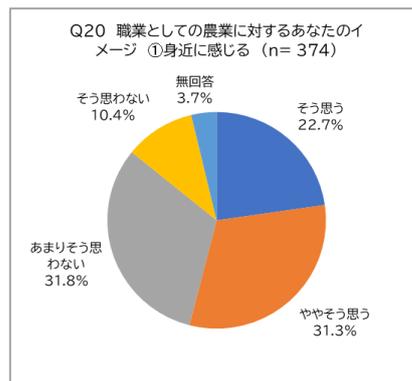
Q19 農業と関わる場合に、問題(妨げ)となることは何ですか。
 (Q17で「何らかの形で関わりたい」と回答した方)

選択肢	回答数	比率
身近に農地がない	56	25.7%
栽培の知識がない	123	56.4%
時間がない	86	39.4%
道具などにかかるお金がない	63	28.9%
講習会やイベントの情報が届かない	48	22.0%
相談する場所がわからない	56	25.7%
問題(妨げ)はない	27	12.4%
その他	14	6.4%
無回答	6	2.8%
合計	479	-



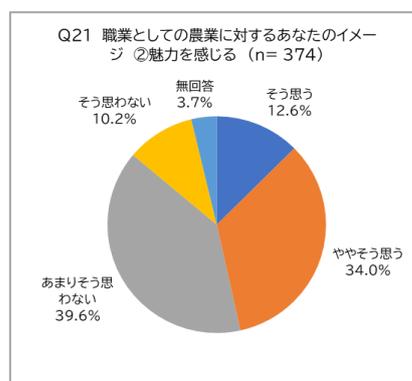
Q20 職業としての農業に対するあなたのイメージ ①身近に感じる

選択肢	回答数	比率
そう思う	85	22.7%
ややそう思う	117	31.3%
あまりそう思わない	119	31.8%
そう思わない	39	10.4%
無回答	14	3.7%
合計	374	100.0%



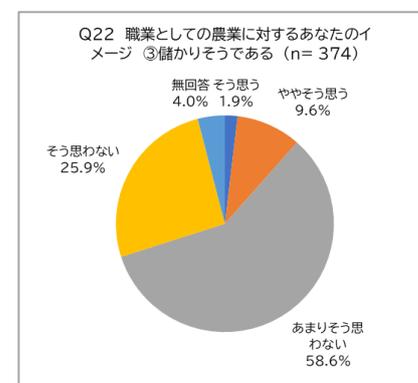
Q21 職業としての農業に対するあなたのイメージ ②魅力を感じる

選択肢	回答数	比率
そう思う	47	12.6%
ややそう思う	127	34.0%
あまりそう思わない	148	39.6%
そう思わない	38	10.2%
無回答	14	3.7%
合計	374	100.0%



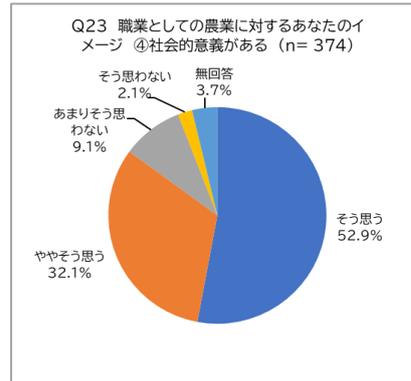
Q22 職業としての農業に対するあなたのイメージ ③儲かりそうである

選択肢	回答数	比率
そう思う	7	1.9%
ややそう思う	36	9.6%
あまりそう思わない	219	58.6%
そう思わない	97	25.9%
無回答	15	4.0%
合計	374	100.0%



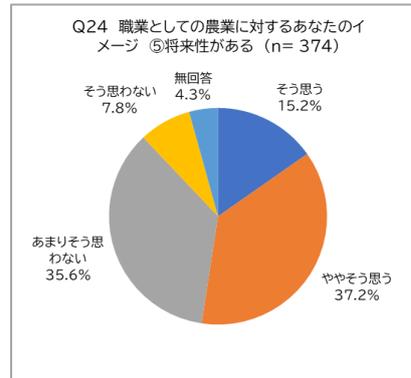
Q23 職業としての農業に対するあなたのイメージ ④社会的意義がある

選択肢	回答数	比率
そう思う	198	52.9%
ややそう思う	120	32.1%
あまりそう思わない	34	9.1%
そう思わない	8	2.1%
無回答	14	3.7%
合計	374	100.0%



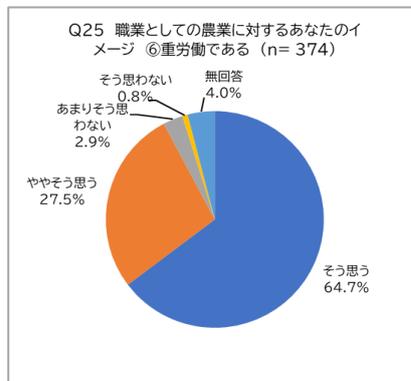
Q24 職業としての農業に対するあなたのイメージ ⑤将来性がある

選択肢	回答数	比率
そう思う	57	15.2%
ややそう思う	139	37.2%
あまりそう思わない	133	35.6%
そう思わない	29	7.8%
無回答	16	4.3%
合計	374	100.0%



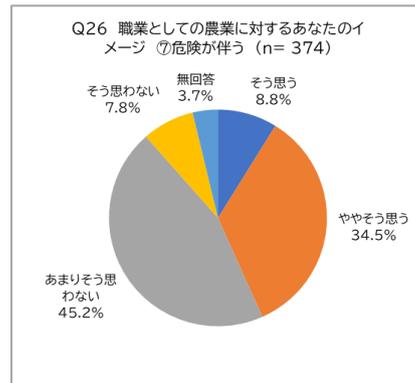
Q25 職業としての農業に対するあなたのイメージ ⑥重労働である

選択肢	回答数	比率
そう思う	242	64.7%
ややそう思う	103	27.5%
あまりそう思わない	11	2.9%
そう思わない	3	0.8%
無回答	15	4.0%
合計	374	100.0%



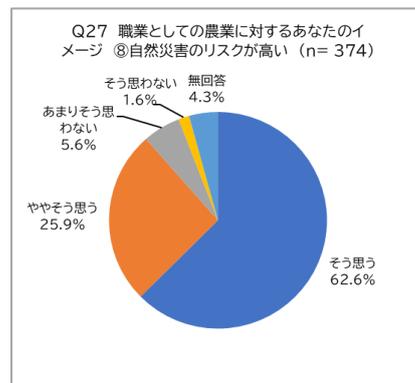
Q26 職業としての農業に対するあなたのイメージ ⑦危険が伴う

選択肢	回答数	比率
そう思う	33	8.8%
ややそう思う	129	34.5%
あまりそう思わない	169	45.2%
そう思わない	29	7.8%
無回答	14	3.7%
合計	374	100.0%



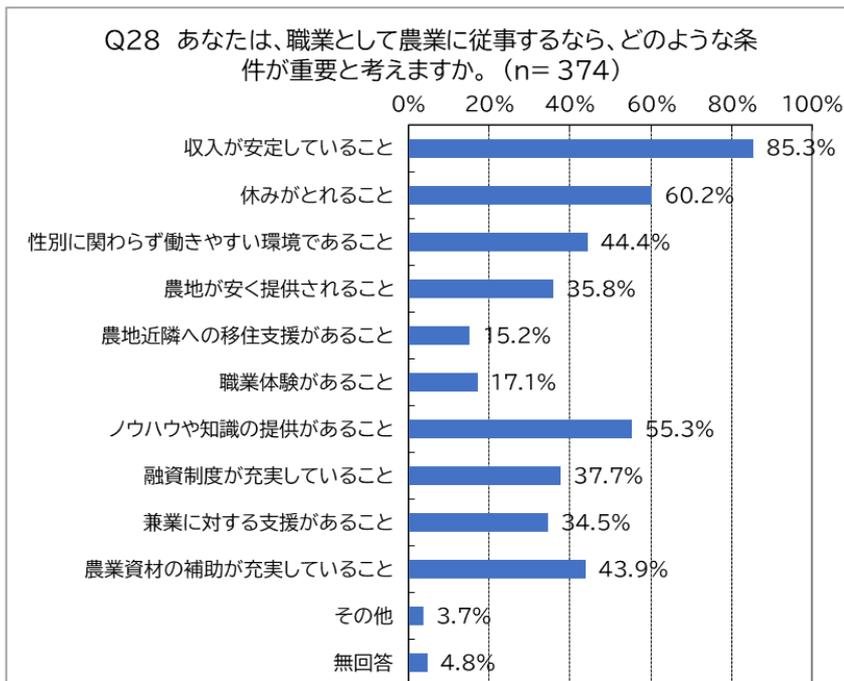
Q27 職業としての農業に対するあなたのイメージ ⑧自然災害のリスクが高い

選択肢	回答数	比率
そう思う	234	62.6%
ややそう思う	97	25.9%
あまりそう思わない	21	5.6%
そう思わない	6	1.6%
無回答	16	4.3%
合計	374	100.0%



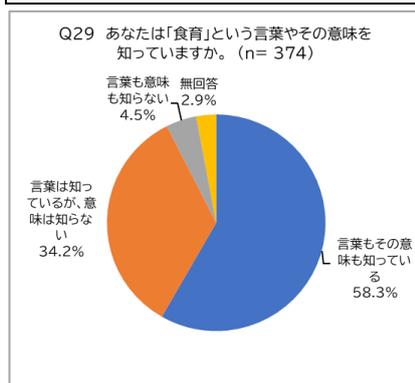
Q28 あなたは、職業として農業に従事するなら、どのような条件が重要と考えますか。

選択肢	回答数	比率
収入が安定していること	319	85.3%
休みがとれること	225	60.2%
性別に関わらず働きやすい環境であること	166	44.4%
農地が安く提供されること	134	35.8%
農地近隣への移住支援があること	57	15.2%
職業体験があること	64	17.1%
ノウハウや知識の提供があること	207	55.3%
融資制度が充実していること	141	37.7%
兼業に対する支援があること	129	34.5%
農業資材の補助が充実していること	164	43.9%
その他	14	3.7%
無回答	18	4.8%
合計	1638	-



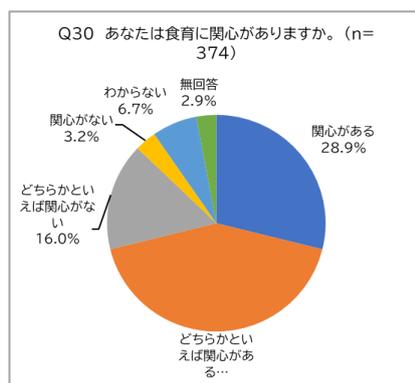
Q29 あなたは「食育」という言葉やその意味を知っていますか。

選択肢	回答数	比率
言葉もその意味も知っている	218	58.3%
言葉は知っているが、意味は知らない	128	34.2%
言葉も意味も知らない	17	4.5%
無回答	11	2.9%
合計	374	100.0%



Q30 あなたは食育に関心がありますか。

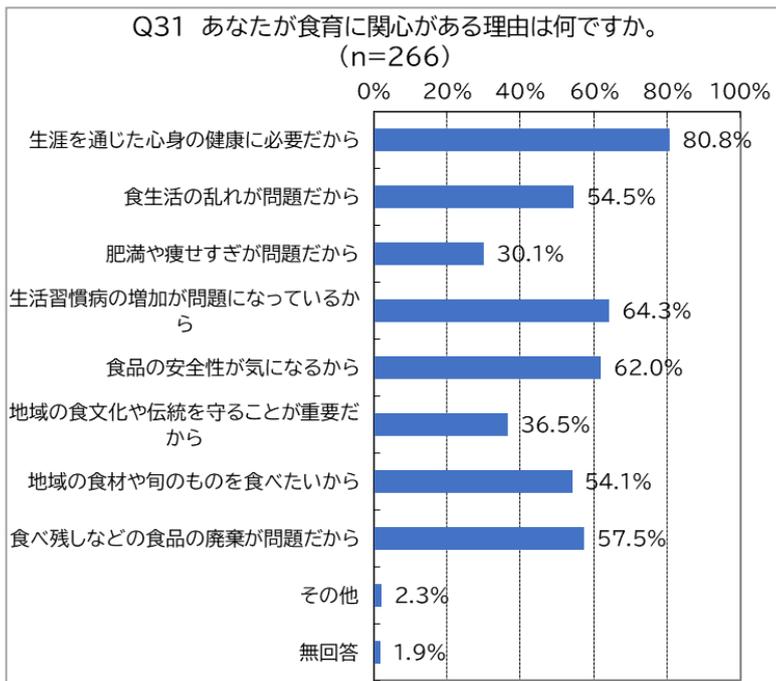
選択肢	回答数	比率
関心がある	108	28.9%
どちらかといえば関心がある	158	42.2%
どちらかといえば関心がない	60	16.0%
関心がない	12	3.2%
わからない	25	6.7%
無回答	11	2.9%
合計	374	100.0%



Q31 あなたが食育に関心がある理由は何ですか。
(Q30で「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した方)

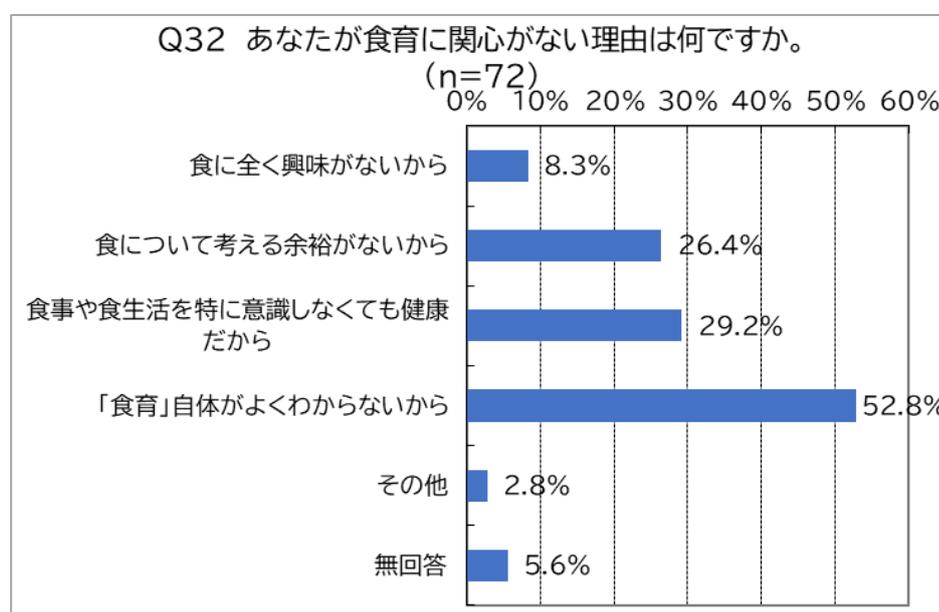
選択肢	回答数	比率
生涯を通じた心身の健康に必要なだから	215	80.8%
食生活の乱れが問題だから	145	54.5%
肥満や痩せすぎが問題だから	80	30.1%

生活習慣病の増加が問題になっているから	171	64.3%
食品の安全性が気になるから	165	62.0%
地域の食文化や伝統を守ることが重要だから	97	36.5%
地域の食材や旬のものを食べたいから	144	54.1%
食べ残しなどの食品の廃棄が問題だから	153	57.5%
その他	6	2.3%
無回答	5	1.9%
合計	1181	-



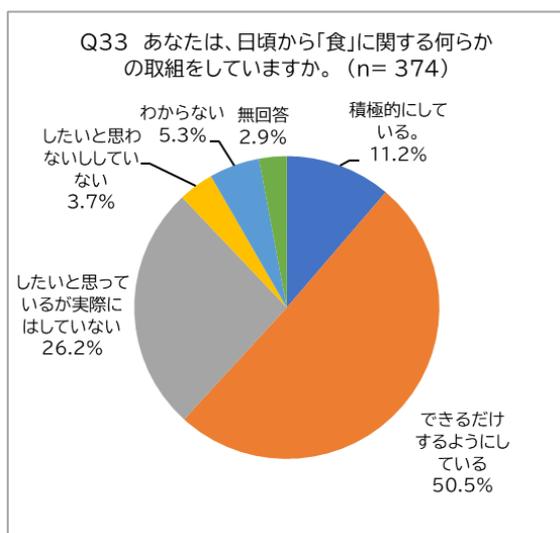
Q32 あなたが食育に関心がない理由は何ですか。
 (Q30で「関心がない」「どちらかといえば関心がない」と回答した方)

選択肢	回答数	比率
食に全く興味がないから	6	8.3%
食について考える余裕がないから	19	26.4%
食事や食生活を特に意識しなくても健康だから	21	29.2%
「食育」自体がよくわからないから	38	52.8%
その他	2	2.8%
無回答	4	5.6%
合計	90	-



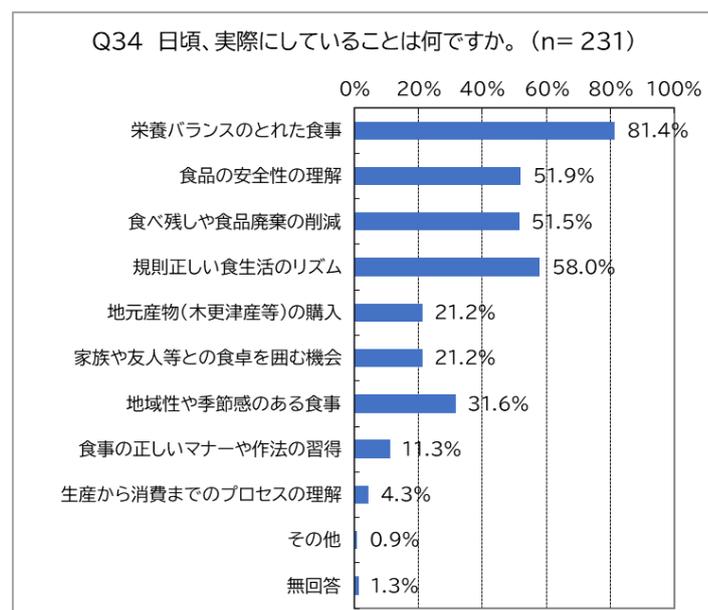
Q33 あなたは、日頃から「食」に関する何らかの取組をしていますか。

選択肢	回答数	比率
積極的にしている。	42	11.2%
できるだけするようにしている	189	50.5%
したいと思っているが実際にはしていない	98	26.2%
したいと思わないししていない	14	3.7%
わからない	20	5.3%
無回答	11	2.9%
合計	374	100.0%



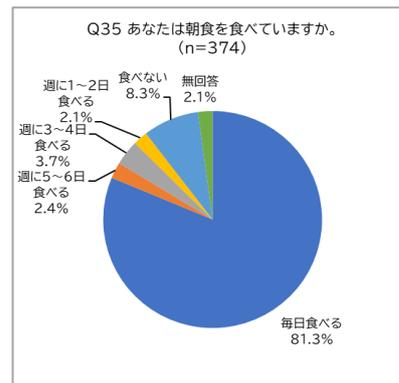
Q34 日頃、実際にしていることは何ですか。
 (Q33 で「積極的にしている」「できるだけするようにしている」と答えた方)

選択肢	回答数	比率
栄養バランスのとれた食事	188	81.4%
食品の安全性の理解	120	51.9%
食べ残しや食品廃棄の削減	119	51.5%
規則正しい食生活のリズム	134	58.0%
地元産物(木更津産等)の購入	49	21.2%
家族や友人等との食卓を囲む機会	49	21.2%
地域性や季節感のある食事	73	31.6%
食事の正しいマナーや作法の習得	26	11.3%
生産から消費までのプロセスの理解	10	4.3%
その他	2	0.9%
無回答	3	1.3%
合計	773	-



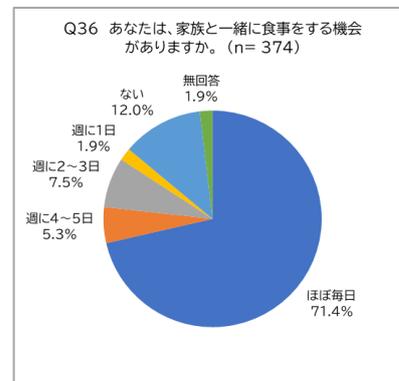
Q35 あなたは朝食を食べていますか。

選択肢	回答数	比率
毎日食べる	304	81.3%
週に5~6日食べる	9	2.4%
週に3~4日食べる	14	3.7%
週に1~2日食べる	8	2.1%
食べない	31	8.3%
無回答	8	2.1%
合計	374	100.0%



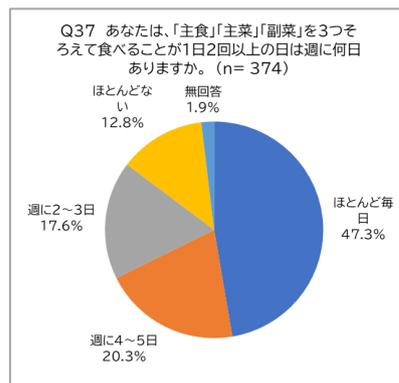
Q36 あなたは、家族と一緒に食事をする機会がありますか。

選択肢	回答数	比率
ほぼ毎日	267	71.4%
週に4~5日	20	5.3%
週に2~3日	28	7.5%
週に1日	7	1.9%
ない	45	12.0%
無回答	7	1.9%
合計	374	100.0%



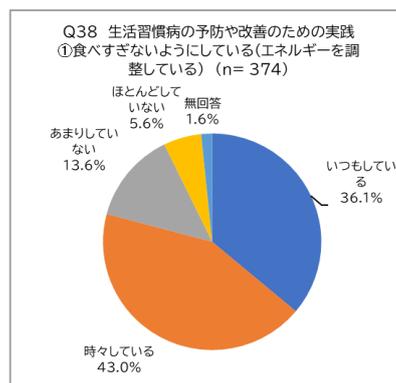
Q37 あなたは、「主食」「主菜」「副菜」を3つそろえて食べることが1日2回以上の日は週に何日ありますか。

選択肢	回答数	比率
ほとんど毎日	177	47.3%
週に4~5日	76	20.3%
週に2~3日	66	17.6%
ほとんどない	48	12.8%
無回答	7	1.9%
合計	374	100.0%



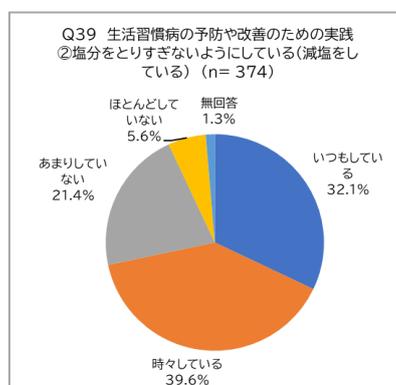
Q38 生活習慣病の予防や改善のための実践 ①食べすぎないようにしている(エネルギーを調整している)

選択肢	回答数	比率
いつもしている	135	36.1%
時々している	161	43.0%
あまりしていない	51	13.6%
ほとんどしていない	21	5.6%
無回答	6	1.6%
合計	374	100.0%



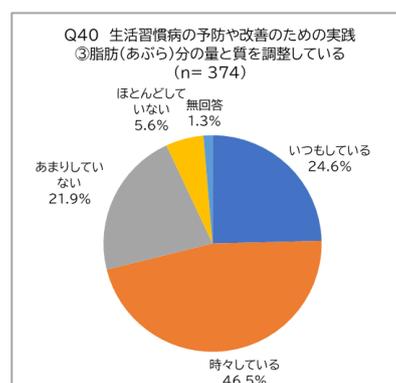
Q39 生活習慣病の予防や改善のための実践 ②塩分をとりすぎないようにしている(減塩をしている)

選択肢	回答数	比率
いつもしている	120	32.1%
時々している	148	39.6%
あまりしていない	80	21.4%
ほとんどしていない	21	5.6%
無回答	5	1.3%
合計	374	100.0%



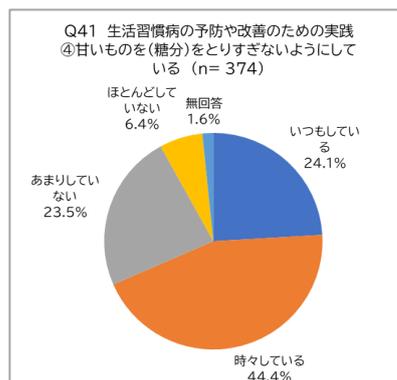
Q40 生活習慣病の予防や改善のための実践 ③脂肪(あぶら)分の量と質を調整している

選択肢	回答数	比率
いつもしている	92	24.6%
時々している	174	46.5%
あまりしていない	82	21.9%
ほとんどしていない	21	5.6%
無回答	5	1.3%
合計	374	100.0%



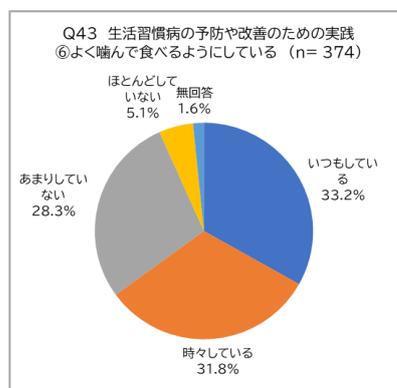
Q41 生活習慣病の予防や改善のための実践 ④甘いものを(糖分)をとりすぎないようにしている

選択肢	回答数	比率
いつもしている	90	24.1%
時々している	166	44.4%
あまりしていない	88	23.5%
ほとんどしていない	24	6.4%
無回答	6	1.6%
合計	374	100.0%



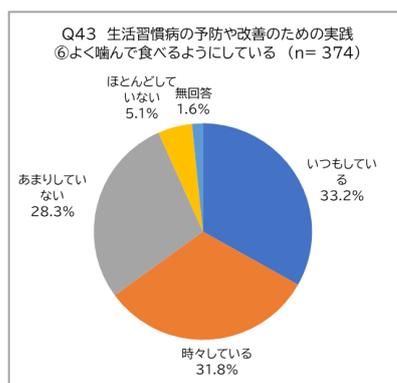
Q42 生活習慣病の予防や改善のための実践 ⑤野菜をたくさん食べるようにしている

選択肢	回答数	比率
いつもしている	183	48.9%
時々している	136	36.4%
あまりしていない	39	10.4%
ほとんどしていない	11	2.9%
無回答	5	1.3%
合計	374	100.0%



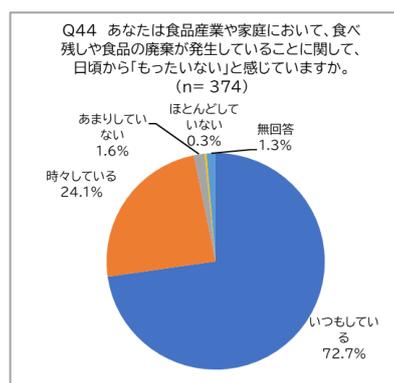
Q43 生活習慣病の予防や改善のための実践 ⑥よく噛んで食べるようにしている

選択肢	回答数	比率
いつもしている	124	33.2%
時々している	119	31.8%
あまりしていない	106	28.3%
ほとんどしていない	19	5.1%
無回答	6	1.6%
合計	374	100.0%



Q44 あなたは食品産業や家庭において、食べ残しや食品の廃棄が発生していることに関して、日頃から「もったいない」と感じていますか。

選択肢	回答数	比率
いつもしている	272	72.7%
時々している	90	24.1%
あまりしていない	6	1.6%
ほとんどしていない	1	0.3%
無回答	5	1.3%
合計	374	100.0%



Q45 今後、木更津市が農業振興を推進するにあたって、ご意見やご要望がありましたら、ご記入ください。

(※一部抜粋させていただいております)

➤ 生産に関するご意見

有機栽培や無農薬化を徹底して推進して欲しい。そのような安全な作物を学校給食(幼稚園や病院、老人ホームなどを含め)で活用して欲しい。その上でまだ消費しきれなければ、市場などを作って販売して欲しい。酪農についても、ホルモン剤不使用、にわたりの平飼い、グラフフェッドビーフなどの方向性を目指して欲しい。
以前(2年前)農地を、かりて畑をしていました。1年かけて、そだてた、作物が、一日にして、イノシシにやられ、それが、2年続いたので、やめました。鉄製のフェスもだめでした。イノシシは、多すぎると思います。なんとかしないと、農業をする人がいなくなると思います。
ミニトマトが流行った時に、融資を受けすぎ農家の方々の中で、廃業又は返済できず苦悩されている地域の事を伺いました。 大国は、農業に力を注いでいる国もあります。木更津市は、従属的な農業しか無理の様に思うので、細々と地道に達成感のある農業にしてゆくの、農業を押し進める上に大切かと思えます。
農機具が高く買えない。農機具のリースがあるとよい。
農業廃棄物が、周辺に戸建が多くなったため。・焼却できなくなった。・処理方法の検討を求む
水田や畑などでの野焼きを見かけるがルールに則って行われているのかわからずモヤモヤすることがある。

➤ 担い手に関するご意見

若い人が農業に興味を持って、働いてもらいたいと思っています。
若い農業従事者が希望の持てる公的な援助が必要と思う。作物、農地資材など
企業の農業参入に積極的に取り組んでください。
農業は大変な仕事ですね。若い方が楽しく体験できる機会があればいいですね。
家の周りには休耕地がたくさんあります。若い人たちの働き手が増えるよう、市政の働きかけをお願いします
より農業を始めやすい環境があればいつかやってみたいと思っている。
若い人たちが安心して農業に従事できる環境を整えて支援を充実してほしい。
農業に関してのイメージが朝が早いし台風や大雨などがあると前もってやらなきゃいけない事が多く大変な感じがするので、 農業の1日の流れとかこんな時はこうゆう風に工夫してるとかのチラシか木更津のホームページに載せるとかしたらいいのでは、

➤ 農地に関するご意見

田畑が放置されて、農作物を生育せずに荒れ地が多くなっているのが心配しています。
木更津市内を車で移動している時に田や畑が少なくなっている事にとっても心を痛めております。後継者不足なのだと思いますが、せつかく先人達が努力してきた耕作地がもったいないです。その土地をなんとか他人に貸したり出来るシステムを作って欲しいと、ずっと考えていました。農業をした事のない方の中にも、やりたいと思っている方はいると思います。行政で、つないでいく様にしてもらえれば、荒廃していく土地が減っていくのではないのでしょうか？ 難しいとは思いますが皆様の知恵と努力で実現して頂きたいです。この様な考えを伝える事が出来て嬉しく思います。 市役所の皆様、たいへんでしょうが頑張ってください。

荒れた土地を見ると どなたか貸したり借りたりする人がいないのか？
不耕作地を解消し米以外の作物(麦、大豆など)を作付できるような対策をお願いしたい。
木更津市も田畑が減り、宅地が増えているが、農業振興政策で地産地消の農作物が増えると良い。
農地を荒地にする事なく米以外の作物を作り利用できる様な仕組みが出来たら、輸入に頼りすぎない持続可能な農業になると思うのですが・・・ 安心安全な食事がしたいです。
Q28 の条件に加え農地を大きな機械が入れるように広く整地してはどうでしょうか？
耕作放棄地の活用

➤ 収益性に関するご意見

農業をやってくれる方々にもっと支援をしないと無理です。あとは収入ですが、大規模に行えばそれに見合った収入は得られますが少しばかりでは家庭菜園と同じことです。
農は人生の基本です。ITよりも重要と考えています。どうしたら農業で生計が立てられるか、木更津市のみではなく国として考えなければならないと思います。地産地消、食料自給率アップは国の仕事ですが、…。基本中の基本と考えます。
農業をするにあたって、お金がかかりすぎる。高額な資材や機械、天上しらずの肥料の価格！その割に安価で取引させられている現実。チャレンジしたくても出来ないじゃないですか？
副業で出来る農業を考えてください
農業で生計が成り立つような社会であることが望ましいと思います。
農地の規模的に成り立つなら良いと思いますが、鎌足などはどうかと思います(広い土地が限られてるため)

➤ 販売・PRに関するご意見

直売店を増やしてほしい 学校の授業や公民館などでも農業について充実させてほしい
①駅近くに農産物直売所の設置 ②大規模農業の推進 ③規格外品も安価で積極販売 ④休業農地への加税拡大
農家の人の顔がみえるようにする。形のわるいものなどすてずに安く売る。農家の人の個人経営でなく会社経営のようにまとめて利益がでるようにする。新しい商品の紹介をみちの駅などでやる
スーパーに「木更津産」のコーナーがあり、それを利用しているので、これからも続けていただきたい。 ひとつの量が多過ぎる時があるので少量で売っていただけると、買いやすいです。例：ターサイ、ケール、ロメインレタスなど。毎年、楽しみに買うのは、ブルーベリー、銀杏、いちじく、きくらげ、プチトマトなどです。
近所にある大型スーパーの1角に地元農家さんの野菜コーナーがあり、新鮮さにひかれて、購入するのですが、品物によって皮が固かったり(トマト)家庭菜園並の品質の品もあり、プロの農家さんの野菜なのかと疑問もあります。万人に美味しいと言われる野菜を作るのは本当に大変な努力が必要と感じます。それにプラス木更津産と誇れる農産物を作るのは、大変と思いますが、期待しています。
木更津産の食品等も、もっとアピールして、広めて下さい。「アクアライン」「アウトレット」「COSTCO」と、木更津産の・・・もっとPRして、移住者の増加につなげよう！！

<p>イオンモールと、せんだう、がメインの店舗です。ここに、木更津生産コーナーがあれば、そこで購入します。</p> <p>私は鴨川市生まれの農家育ちです。(68才)農家の苦勞も分かっています。応援しています。</p>
<p>我が家は食べ残しや食品の廃棄などロスはほとんどありません。普通の家庭でも同じではと思っている。</p> <p>地域のスーパーにも木更津産野菜が並ぶとすぐ手が出ます。出回ることを望みます。</p>
<p>地元の野菜がスーパーにもっと並んでほしいと思う。農薬の点でも安心だから。</p>
<p>長ネギの一本売りが少ない。三〜四本売りが多いのでねぎは買いません。一人者なので三〜四本はいりません。</p>
<p>幅広いメッセージを送って欲しいです。新聞の折込みや回覧板などにどこでこんな商品を販売しているとか、参加できるようなイベントを計画してもらえたら理解が深まると思います。</p>
<p>主人が家庭菜園を少ししているのですが、新鮮なものはおいしいので、産地が近くて、品質の良いものなら積極的に買おうと日頃思っているものでぜひ、もっと木更津産が増えることを期待しています。</p>
<p>もっと、「木更津産」を前面に出して行くことを、してください。商品シールだけでは、気づきづらいこともあります。</p> <p>よろしくお願いします。</p>
<p>・廃棄される農産物などどこかで安く買えるようになると嬉しいです。木更津産だから買うとゆうことはありませんが、安くて新鮮であれば自然に手が伸びます。流通にかかるお金が他府県産の物よりかからないでしょうし木更津産物が安価で手に入ることを希望します</p>
<p>西口に住んでます。スーパーが1件もなく野菜の購入に苦勞してます。西口駅前に野菜の直売所を作ってください。</p>
<p>身近なスーパーで木更津のおいしいブルーベリーとトウモロコシが買いたい。</p>
<p>規格外野菜を中心として地元食材の販売を具体的に実施する事をより強くアピールすべき。梨、栗等名産も多くあります</p>
<p>①畑沢地区の特に2丁目は食物の買い出しには坂道なので年を取ると特に買い物に不便さを感じています。その点何か市のほうで対応してほしい。②年を取ると何かと病院の回数が多くなります。市民病院への足としてバスを多く出して下さい(節に願う)</p>
<p>千葉は安くて美味しい海苔が有ります。もっと宣伝してほしいです。！落花生も、有るが販売店が少ない様に思います。</p> <p>値段が少し高いかな。広報が目に見えない気がします。</p>
<p>君津「未来団」へは良く行きます。スーパーの野菜より新鮮で日持ちが良く美味。木更津にも同様の店が欲しい。</p> <p>道の駅「うまくたの里」は交通手段がない。高齢者でも気軽に行ける場所を考慮してほしい。</p>
<p>生産者や作り手の見える売店があったらありがたいです。毎週ゆりの里に行ってるのですが、特別な品物が売ってる訳ではないですが手ごろで買いやすいです。</p>
<p>各スーパーに木更津産地のコーナーを作ってもらおう。</p>
<p>野菜を販売する所におすすめレシピ(小さい紙)があると作ってみようかなってなります。あまり買わない野菜でも買ってみようかなと思うのていいかもしれません。</p>
<p>君津味楽団のように大型直売所があると良い。</p>
<p>木更津産の野菜や果物の種類を増やして行って欲しいです。<名物と言われる野菜と果物をたくさん>ブルーベリーやいちご、梨は子供たちに食べさせています。</p>

木更津市民なら「木更津産」と書かれるより「矢那産」とか「金田産」とか絞った地域の方が購入したいと思います。
生産者と消費者とのつながりが無い。・君津農協販売店(ミワル)等で時々搬入者と会話する事又木更津スーパー(オドヤ)で生産者の写真、考え方等表示したコーナーがあり非常に親しみを感じる。但し接触する場所が少ない。特に自動車返納した老人達が便利に会話できる店が多くなることを期待します。
木更津市がオーガニック農業に取組推進されている事は、素晴らしいことだと思っています。休眠中の農とも活用して安全でおいしい農産物を生産す。観光客にもPRし購買を盛んにしそれらを元目指す農業の発展につなげていく。
木更津市をもっと前面に出してほしい
新鮮野菜のマルシェや移動販売をたくさん行ってほしい。
各スーパーの売り場に木更津産の野菜コーナーを設けたらPRになると思います。又、市内で行事などがった場合会場内で野菜を販売したりするのも良いかと思います。

➤ 食育に関するご意見

学校給食において、お米だけではなく、野菜等提供の拡充。実施においての、広報きさらづ等で、報告紹介をする。
ファミレスの、冷凍野菜の味には無い、おいしい味を体験させてあげて下さい。
食の安心、安全は人類が生存していく上で、極めて重要なことであり、農業に従事する人口が減少し、跡継問題等もあり、環境的には大変厳しい状況にあると認識しています。色々の分野の人達が知恵を出し合って、子供達にも体験学習等を通じての教育が重要であると考えます。
知り合いが食生活がバラバラで、毎日外食のため、体調が悪く、糖の数知が悪くなり、大変なことになりました。
自分は祖食ですが体調は全々良いです。地元の生産品を食べると、良いと思います。
毎日の健康を考えて感謝して、食べています。
子どもたちが学校の授業で農業にふれる機会を増やしてほしい。木更津市産の農作物を購入できる場所をつくってほしい。 (現在もあるのかもしれないが、よく知らないので購入できない。)
子供と参加できる農業体験がふえて、一緒に参加できると良い。
食育イベント等を多くやって下さい。
野菜についている虫→異物...ではなく 安全な野菜と皆が認識出来るようになればと思います。
形の悪い物でも味には変わらないと思うので安く提供する。食べ残さない為には多く作り過ぎない。我が家では、食べる分だけで残らない。
・食品ロスへの取り組みが必要だと思う ・野菜のマルシェにはとても行きたい ・どちらかと言えば肉より野菜はです。 (特にキャベツ大好きです!)今後もお世話になります
農業体験が増えると嬉しいです。子供たちは体験をすることで食べ物の大切さ、作る大変さを知ること食育を学びより農家の方々へと感謝の気持ちが生まれると思います。
鎌足小学校の自高校給食を今後も継続してほしい。
無農薬野菜を増やしてほしいですね! 見た目悪く虫食いの葉を見たらだれでも嫌だと思えます。しかしながら体に良いのです。 コーナーがあったらきつときつと売れます。そして老後の健康にもつながります。将来病院に行く回数が減ること期待します。

食料自給率の低い国なのに輸入が多い国なのに食べ残しや廃棄が大量にあることについて懸念を感じています。農家の方々が丹精込めて作った農作物をそのような事にもったいないと怒りのような感情があります
給食を、地産地消にして朝ごはんも学校で取れるようにする

➤ その他のご意見

木更津産の野菜、果物、海産物 etc 安心、安全、おいしい物が、食べられる事は、生活していく上で、本当に必要で助かると思います。もっと、もっと木更津の農(海)産物が、発展していく事を望みます。今まで生きてきて、食事が健康にとって一番大切だと、最近、しみじみ感じています。
食べ残しは、庭の畑に捨てています。コンポストを安く購入したい。
申し訳ありませんが、農業振興総合計画の意味が良く理解出来ていません。
Q44 の食品の廃棄は発展途上国に対して何とか支援できないものかと若い頃から思っていた。日本は高齢社会だがアフリカやインド東南アジアなど、若い人の多い国に豊かな食文化を提供したいものだと思っています。
地域難題の多い中、整備計画にあたっては感謝しています。農業経営者のご苦勞も、労働力を確保し、設備投資、その割に収入が安定しない、お辛いと思います。お米1粒に感謝を子供達にも教えてまいりましたが、これからも、皆様の努力に、感謝して生活します。
食糧危機が考えられる今日この頃、木更津市の住民として、農業、畜産業、漁業にたずさわっている方々を応援したいし、又、市政としても力を入れてもらいたい。
6才で国民学校から小学校、中学校、高等専門学校と学んできましたが、今は大変幸せな時代と思う、しかし今の時代は時代として又大変な時と思います。皆が幸せに過ごせたら幸いと存じます幸せは個人が感じる事です…物資の無い時代を感じますと幸いと思います。人それぞれの考えと存じます。
家庭菜園を少ししています。農作物の育成の大変な事を感じて、作る側の気持が良く理解できます。買入時に高い値段で迷うけど、美味しく食べて健康を助けて頂く食品です。残さずに大切に食する事を毎日思い感謝です。農家の方が後継者不足で少なくなると美味しい野菜が食べられなくなる事を感じます。是非に手助けをする事をお願いしたいです。
小中学校の給食に、無農薬・無化学肥料によるお米の提供を目指していることを初めて知りました。 私もそのようなお米の普及に携わっていますので、もしご興味あれば連絡ください。

➤ 農業との繋がりに関するご意見

祖父母が使っていた畑が敷地内にありますが、どう手をつけたら、土づくりからわからず、困っています。
畑作りを一から教えていただける講座とかあったらうれしいです。
若い農家さんが増えたり、家庭菜園が気軽できるような支援をしてください。今、君津まで畑をやりに行ってます。遠いので作りたいものが限られてます…。いろいろ情報ほしいです。
木更津産の農産物を材料とした料理教室などあったら参加したいと思います。スイーツやパンなどだったら親子で参加したいです。
近くに、安く貸し農園があればよいと思います。栽培の仕方が気楽に学べるようになればいいと思います。
JAと協賛しての催しを、市民を巻きこんでアピール開催して欲しい。

休耕田、空き地(アカデミパーク内)を県から借りる。市内外の希望者に農園として貸し出す。

・市内での青空市場、直売所の所在地開催日等を知りたい。・市内の生産物の生産地(名)や一般人も気軽に今以上に訪れられる地区があれば知りたい又、訪問もしてみたいと感じています。

農産物によってはオーナー制度を取り入れてもいいか思います。枝豆の鴨川七里を利用しています。木更津の在来種があれば PR

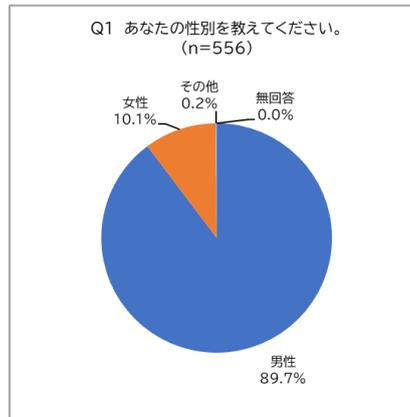
家庭菜園というか、ハーブ等比較的育てやすいものや短期で楽しめるものを育てるので、簡単に出来るってことを取っ掛かりにしてみたら興味を持つ人が増えるのではないかと思う

② 農業者(生産者)アンケート調査

実施期間 令和4年12月10日～令和5年1月10日
 実施方法 認定農業者、10a以上の耕作者1,190人に郵送
 郵送もしくはインターネットで回答
 回答者 556名(回答率 46.7%)

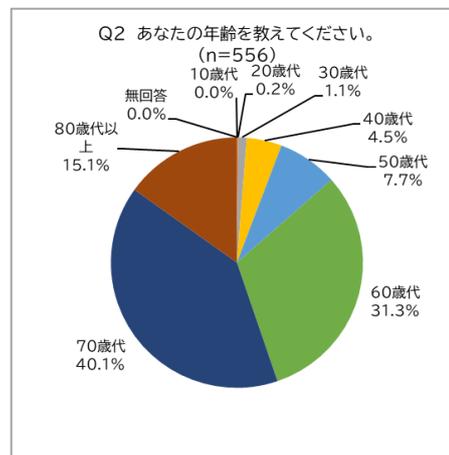
Q1 あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	比率
男性	499	89.7%
女性	56	10.1%
その他	1	0.2%
無回答	0	0.0%
合計	556	100.0%



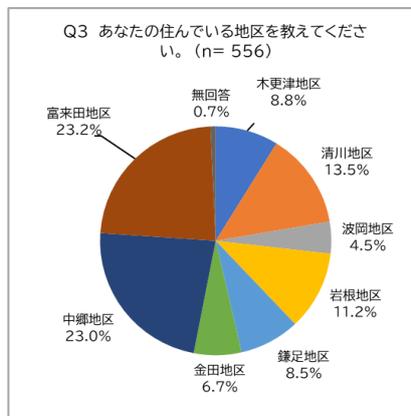
Q2 あなたの年齢を教えてください。

選択肢	回答数	比率
10歳代	0	0.0%
20歳代	1	0.2%
30歳代	6	1.1%
40歳代	25	4.5%
50歳代	43	7.7%
60歳代	174	31.3%
70歳代	223	40.1%
80歳代以上	84	15.1%
無回答	0	0.0%
合計	556	100.0%



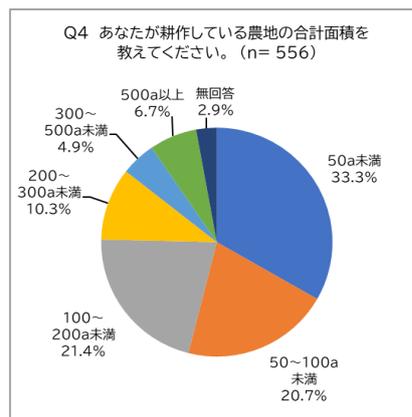
Q3 あなたの住んでいる地区を教えてください。

選択肢	回答数	比率
木更津地区	49	8.8%
清川地区	75	13.5%
波岡地区	25	4.5%
岩根地区	62	11.2%
鎌足地区	47	8.5%
金田地区	37	6.7%
中郷地区	128	23.0%
富来田地区	129	23.2%
無回答	4	0.7%
合計	556	100.0%



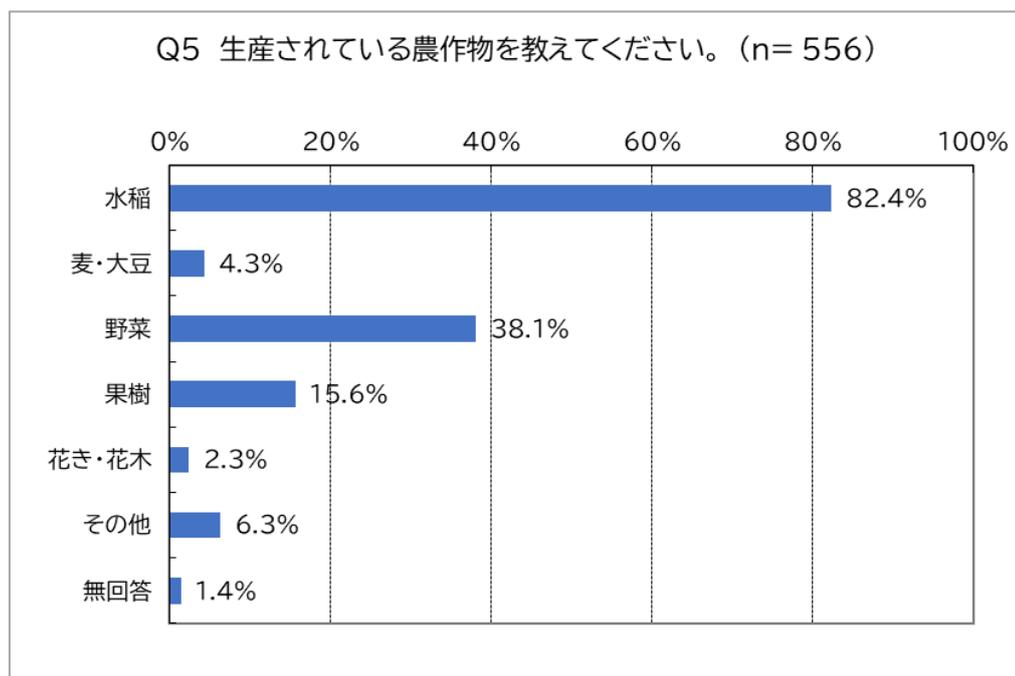
Q4 あなたが耕作している農地の合計面積を教えてください。

選択肢	回答数	比率
50a 未満	185	33.3%
50~100a 未満	115	20.7%
100~200a 未満	119	21.4%
200~300a 未満	57	10.3%
300~500a 未満	27	4.9%
500a 以上	37	6.7%
無回答	16	2.9%
合計	556	100.0%



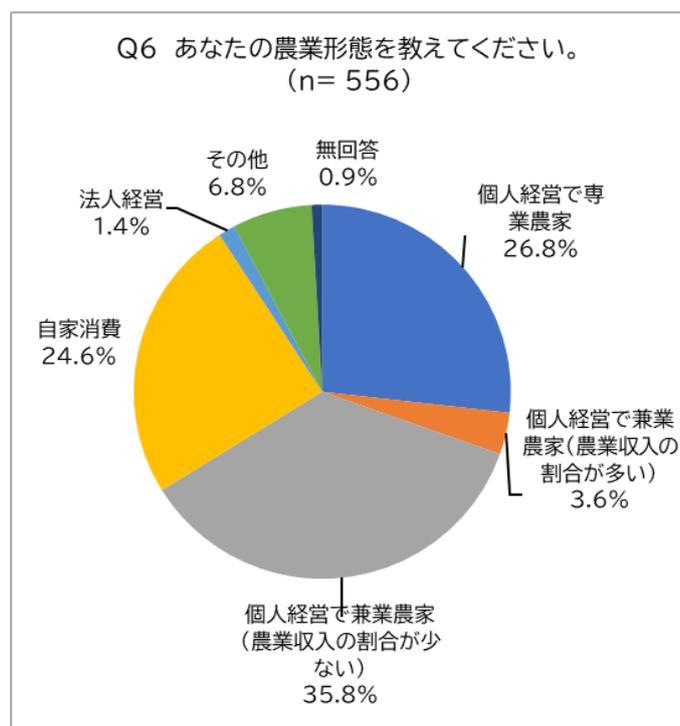
Q5 生産されている農作物を教えてください。

選択肢	回答数	比率
水稲	458	82.4%
麦・大豆	24	4.3%
野菜	212	38.1%
果樹	87	15.6%
花き・花木	13	2.3%
その他	35	6.3%
無回答	8	1.4%
合計	837	-

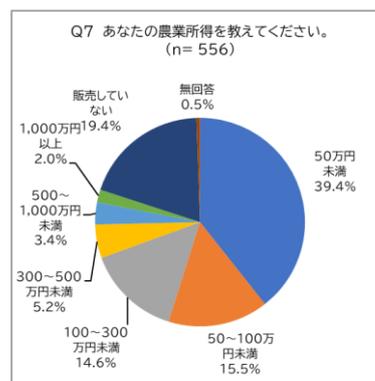


Q6 あなたの農業形態を教えてください。

選択肢	回答数	比率
個人経営で専業農家	149	26.8%
個人経営で兼業農家(農業収入の割合が多い)	20	3.6%
個人経営で兼業農家(農業収入の割合が少ない)	199	35.8%
自家消費	137	24.6%
法人経営	8	1.4%
その他	38	6.8%
無回答	5	0.9%
合計	556	100.0%



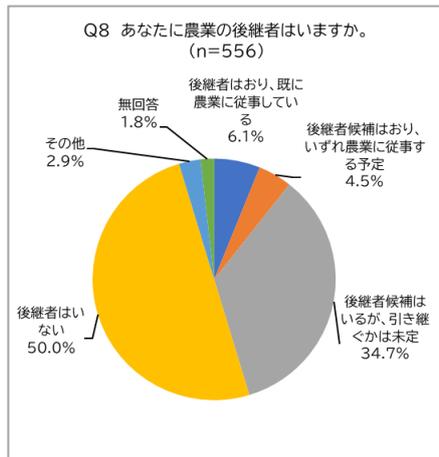
Q7 あなたの農業所得を教えてください。



選択肢	回答数	比率
50万円未満	219	39.4%
50~100万円未満	86	15.5%
100~300万円未満	81	14.6%
300~500万円未満	29	5.2%
500~1,000万円未満	19	3.4%
1,000万円以上	11	2.0%
販売していない	108	19.4%
無回答	3	0.5%
合計	556	100.0%

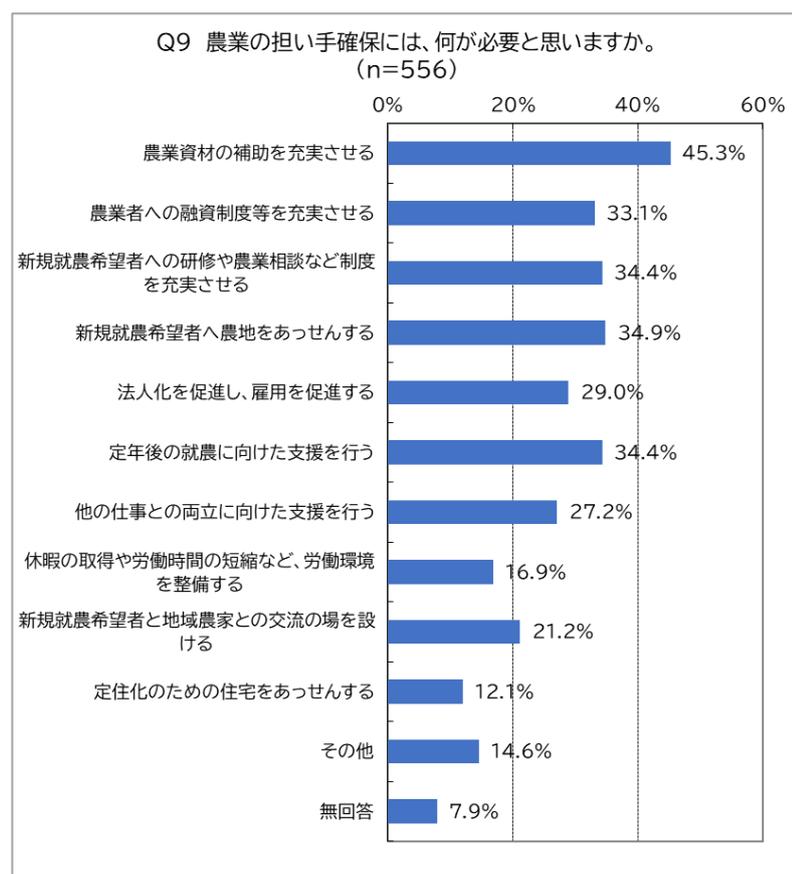
Q8 あなたに農業の後継者はいますか。

選択肢	回答数	比率
後継者はおり、既に農業に従事している	34	6.1%
後継者候補はおり、いずれ農業に従事する予定	25	4.5%
後継者候補はいるが、引き継ぐかは未定	193	34.7%
後継者はいない	278	50.0%
その他	16	2.9%
無回答	10	1.8%
合計	556	100.0%



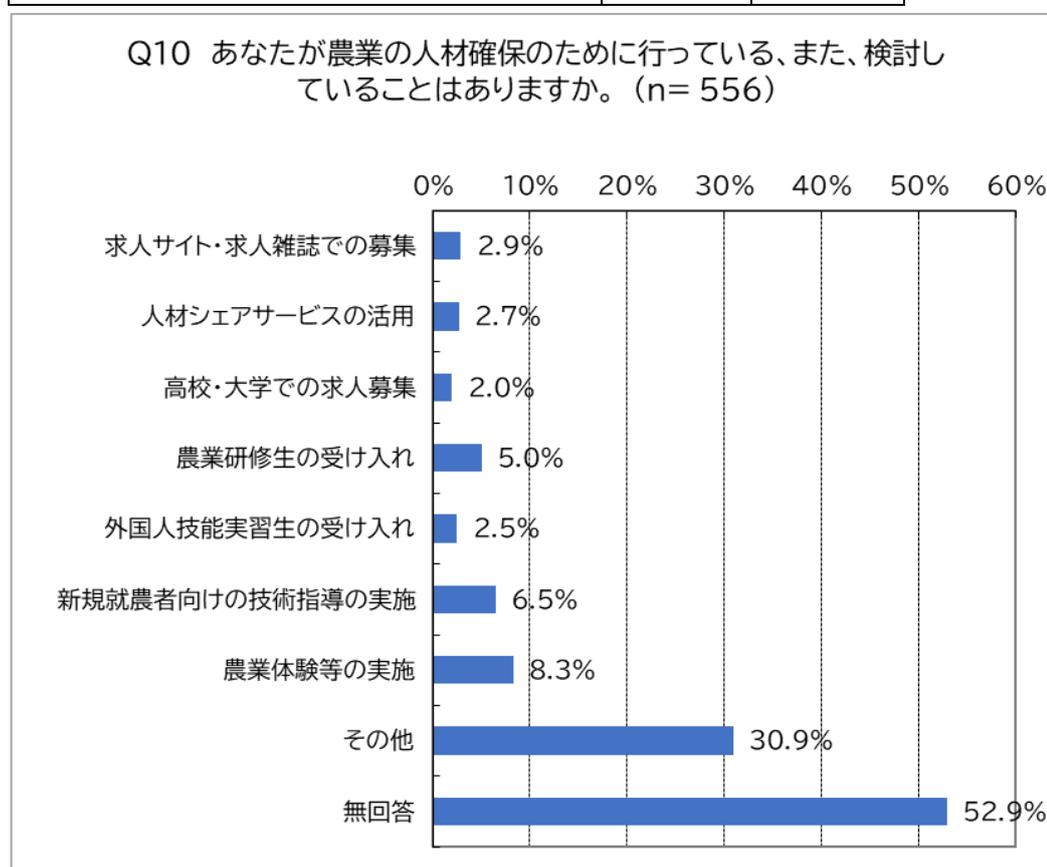
Q9 農業の担い手確保には、何が必要と思いますか。

選択肢	回答数	比率
農業資材の補助を充実させる	252	45.3%
農業者への融資制度等を充実させる	184	33.1%
新規就農希望者への研修や農業相談など制度を充実させる	191	34.4%
新規就農希望者へ農地をあっせんする	194	34.9%
法人化を促進し、雇用を促進する	161	29.0%
定年後の就農に向けた支援を行う	191	34.4%
他の仕事との両立に向けた支援を行う	151	27.2%
休暇の取得や労働時間の短縮など、労働環境を整備する	94	16.9%
新規就農希望者と地域農家との交流の場を設ける	118	21.2%
定住化のための住宅をあっせんする	67	12.1%
その他	81	14.6%
無回答	44	7.9%
合計	1728	-



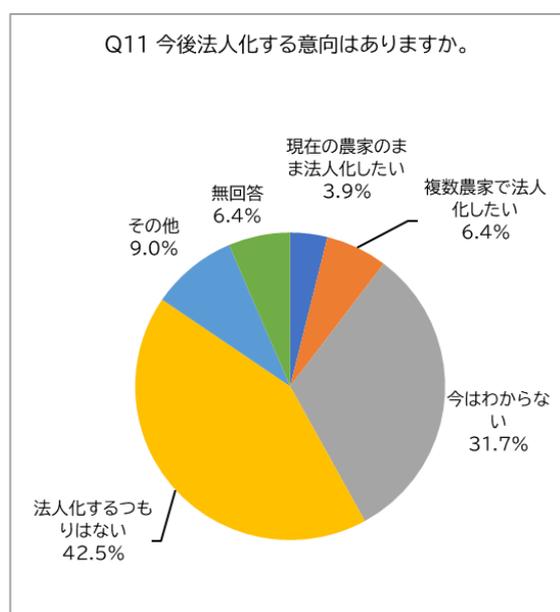
Q10 あなたが農業の人材確保のために行っている、また、検討していることはありますか。

選択肢	回答数	比率
求人サイト・求人雑誌での募集	16	2.9%
人材シェアサービスの活用	15	2.7%
高校・大学での求人募集	11	2.0%
農業研修生の受け入れ	28	5.0%
外国人技能実習生の受け入れ	14	2.5%
新規就農者向けの技術指導の実施	36	6.5%
農業体験等の実施	46	8.3%
その他	172	30.9%
無回答	294	52.9%
合計	632	-



Q11 今後法人化する意向はありますか。
 (法人化していない方(Q6 で 5 と無回答以外の方))

選択肢	回答数	比率
現在の農家のまま法人化したい	21	3.9%
複数農家で法人化したい	35	6.4%
今はわからない	172	31.7%
法人化するつもりはない	231	42.5%
その他	49	9.0%
無回答	35	6.4%
合計	543	100.0%



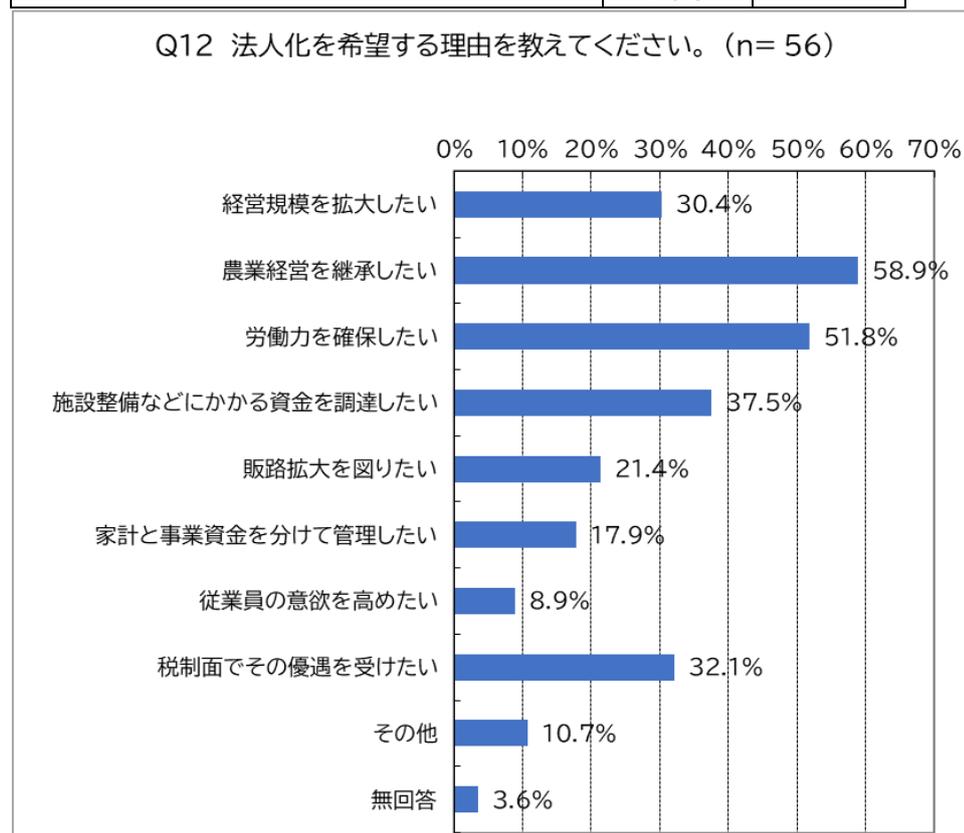
Q11×Q3 居住地区別の法人化の意向

	n	合計	現在の農家のまま法人化したいたい	複数農家で法人化した	今はわからない	法人化するつもりはない	その他	無回答
全体	543	543	21	35	172	231	49	35
		100.0%	3.9%	6.4%	31.7%	42.5%	9.0%	6.4%
木更津地区	47	47	4	1	8	27	6	1
		100.0%	8.5%	2.1%	17.0%	57.4%	12.8%	2.1%
清川地区	75	75	3	3	28	28	6	7
		100.0%	4.0%	4.0%	37.3%	37.3%	8.0%	9.3%
波岡地区	25	25	0	0	11	13	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	44.0%	52.0%	0.0%	4.0%
岩根地区	61	61	5	2	14	31	4	5
		100.0%	8.2%	3.3%	23.0%	50.8%	6.6%	8.2%
鎌足地区	43	43	0	2	13	22	3	3
		100.0%	0.0%	4.7%	30.2%	51.2%	7.0%	7.0%
金田地区	37	37	0	3	16	14	3	1
		100.0%	0.0%	8.1%	43.2%	37.8%	8.1%	2.7%
中郷地区	125	125	5	14	42	41	15	8
		100.0%	4.0%	11.2%	33.6%	32.8%	12.0%	6.4%
富来田地区	127	127	4	10	40	53	12	8
		100.0%	3.1%	7.9%	31.5%	41.7%	9.4%	6.3%
無回答	3	3	0	0	0	2	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%

Q12 法人化を希望する理由を教えてください。

(法人化していない方(Q6 で 5 と無回答以外の方))で、Q11 で「現在の農家のまま法人化したい」「複数農家で法人化したい」と回答した方)

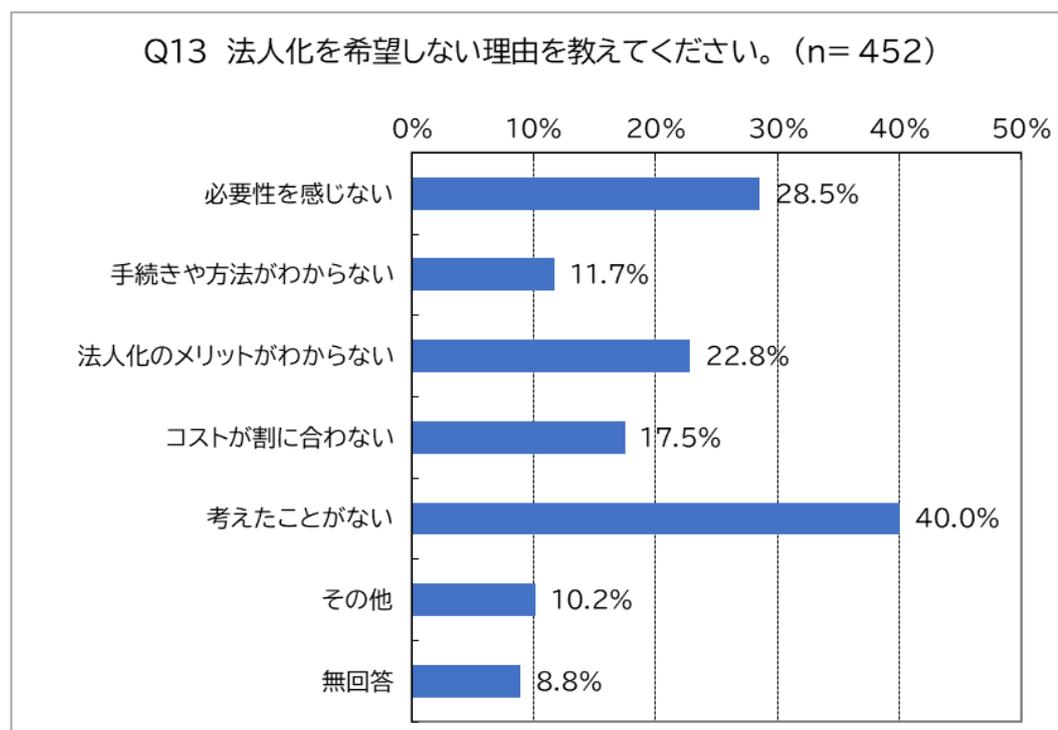
選択肢	回答数	比率
経営規模を拡大したい	17	30.4%
農業経営を継承したい	33	58.9%
労働力を確保したい	29	51.8%
施設整備などにかかる資金を調達したい	21	37.5%
販路拡大を図りたい	12	21.4%
家計と事業資金を分けて管理したい	10	17.9%
従業員の意欲を高めたい	5	8.9%
税制面でその優遇を受けたい	18	32.1%
その他	6	10.7%
無回答	2	3.6%
合計	153	-



Q13 法人化を希望しない理由を教えてください。

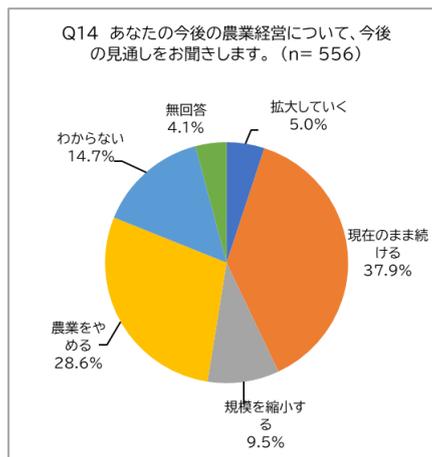
(法人化していない方(Q6 で 5 と無回答以外の方)で、Q11 で「今はわからない」「その他」「法人化するつもりはない」と回答した方)

選択肢	回答数	比率
必要性を感じない	129	28.5%
手続きや方法がわからない	53	11.7%
法人化のメリットがわからない	103	22.8%
コストが割に合わない	79	17.5%
考えたことがない	181	40.0%
その他	46	10.2%
無回答	40	8.8%
合計	631	-



Q14 あなたの今後の農業経営について、今後の見通しをお聞きます。

選択肢	回答数	比率
拡大していく	28	5.0%
現在のまま続ける	211	37.9%
規模を縮小する	53	9.5%
農業をやめる	159	28.6%
わからない	82	14.7%
無回答	23	4.1%
合計	556	100.0%

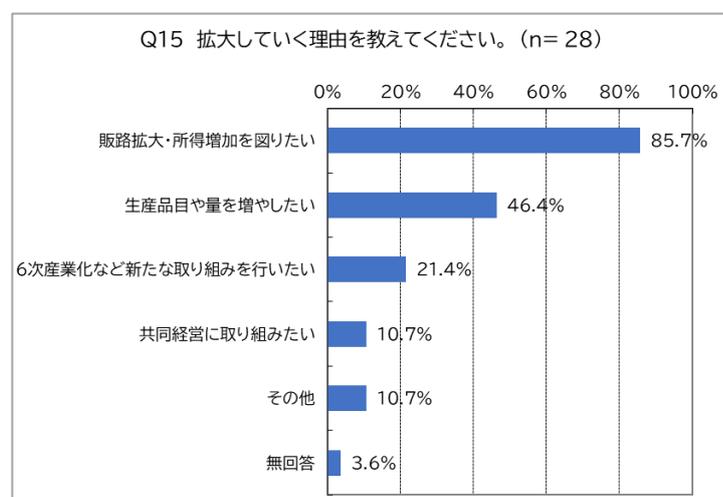


Q14×Q3 居住地区別の経営意向

	n	合計	拡大していく	現在のまま続ける	規模を縮小する	農業をやめる	わからない	無回答
全体	556	556	28	211	53	159	82	23
		100.0%	5.0%	37.9%	9.5%	28.6%	14.7%	4.1%
木更津地区	49	49	4	11	3	22	8	1
		100.0%	8.2%	22.4%	6.1%	44.9%	16.3%	2.0%
清川地区	75	75	2	28	13	19	10	3
		100.0%	2.7%	37.3%	17.3%	25.3%	13.3%	4.0%
波岡地区	25	25	0	13	4	3	5	0
		100.0%	0.0%	52.0%	16.0%	12.0%	20.0%	0.0%
岩根地区	62	62	5	22	1	21	9	4
		100.0%	8.1%	35.5%	1.6%	33.9%	14.5%	6.5%
鎌足地区	47	47	2	13	9	13	8	2
		100.0%	4.3%	27.7%	19.1%	27.7%	17.0%	4.3%
金田地区	37	37	1	9	3	16	6	2
		100.0%	2.7%	24.3%	8.1%	43.2%	16.2%	5.4%
中郷地区	128	128	7	61	8	31	18	3
		100.0%	5.5%	47.7%	6.3%	24.2%	14.1%	2.3%
富来田地区	129	129	7	54	12	34	15	7
		100.0%	5.4%	41.9%	9.3%	26.4%	11.6%	5.4%
無回答	4	4	0	0	0	0	3	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	25.0%

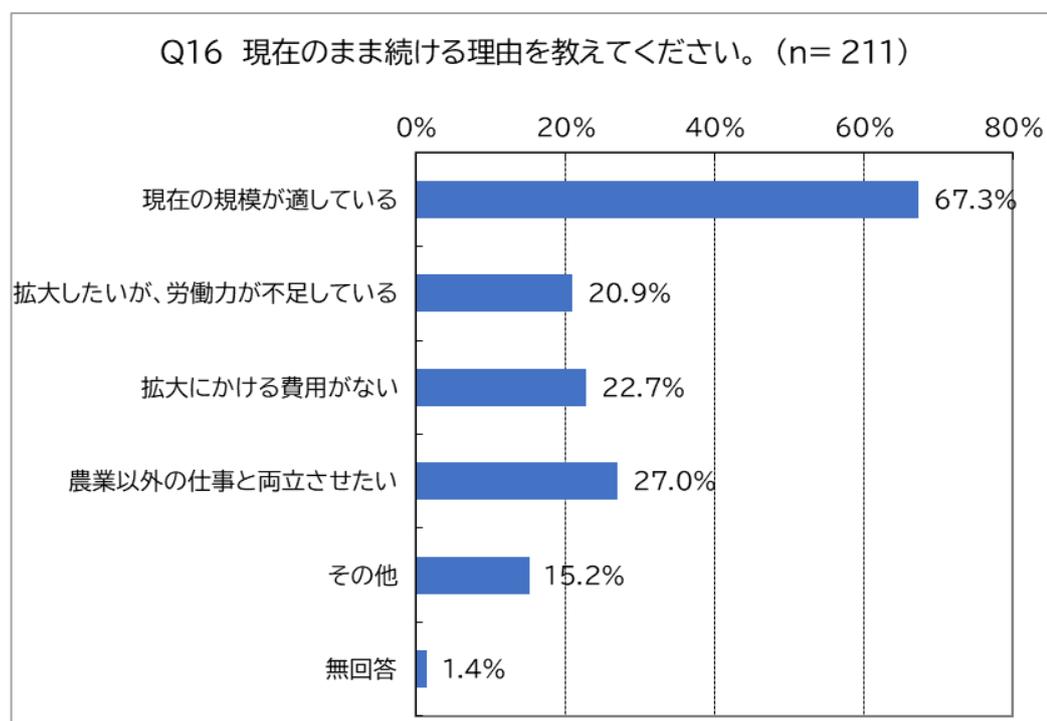
Q15 拡大していく理由を教えてください。
 (Q14 で「拡大していく」と回答した方)

選択肢	回答数	比率
販路拡大・所得増加を図りたい	24	85.7%
生產品目や量を増やしたい	13	46.4%
6次産業化など新たな取り組みを行いたい	6	21.4%
共同経営に取り組みたい	3	10.7%
その他	3	10.7%
無回答	1	3.6%
合計	50	-



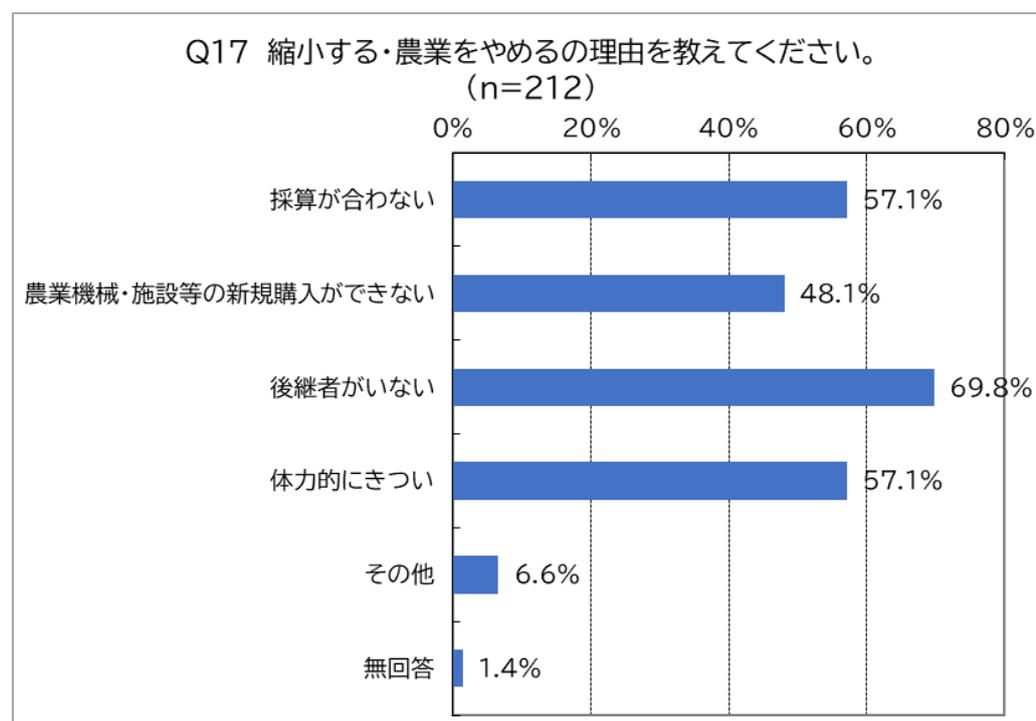
Q16 現在のまま続ける理由を教えてください。
 (Q14 で「現在のまま続ける」と回答した方)

選択肢	回答数	比率
現在の規模が適している	142	67.3%
拡大したいが、労働力が不足している	44	20.9%
拡大にかかる費用がない	48	22.7%
農業以外の仕事と両立させたい	57	27.0%
その他	32	15.2%
無回答	3	1.4%
合計	326	-



Q17 縮小する・農業をやめるの理由を教えてください。
 (Q14 で「規模を縮小する」「農業をやめる」と回答した方)

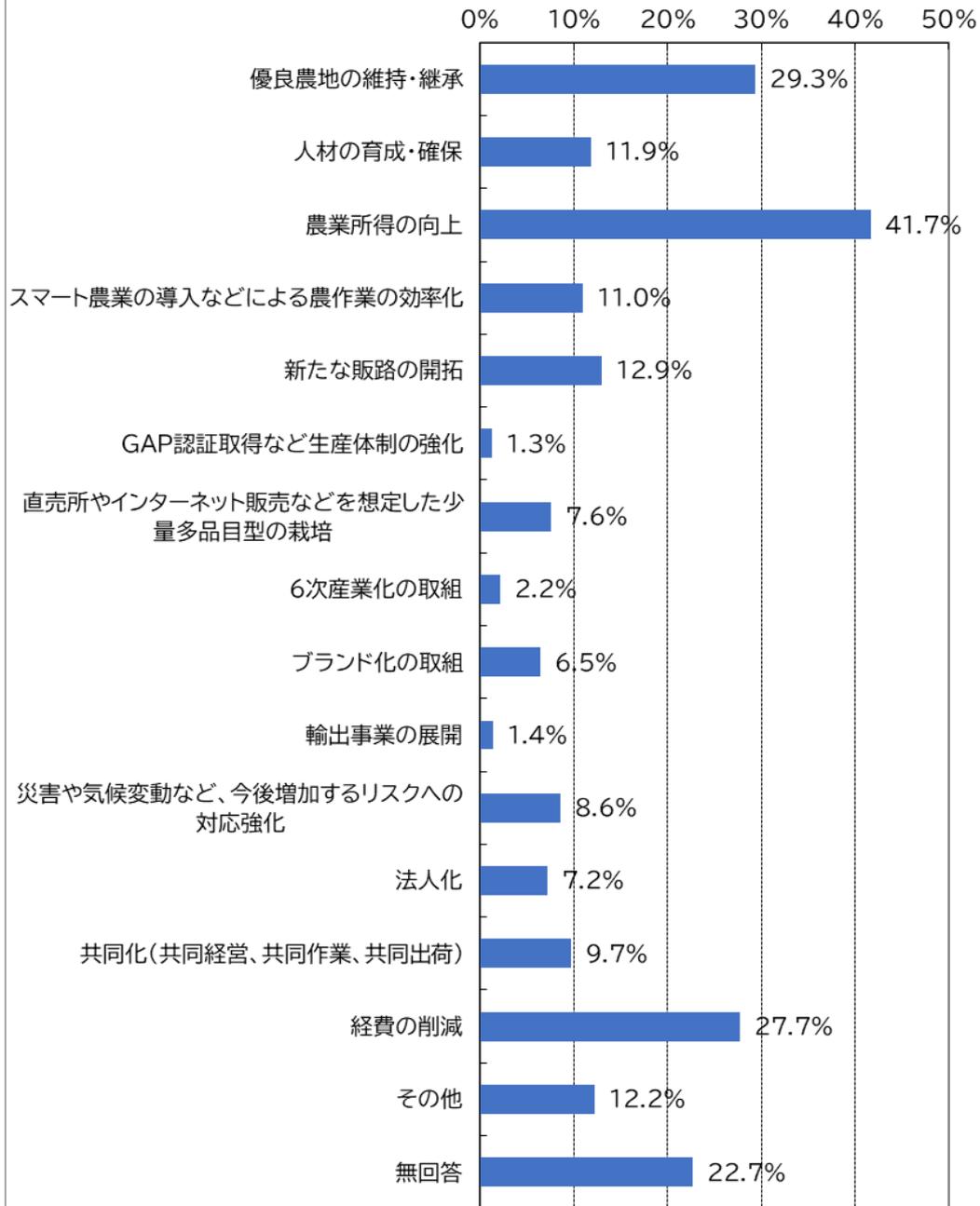
選択肢	回答数	比率
採算が合わない	121	57.1%
農業機械・施設等の新規購入ができない	102	48.1%
後継者がいない	148	69.8%
体力的にきつい	121	57.1%
その他	14	6.6%
無回答	3	1.4%
合計	509	-



Q18 あなたは、農業経営にあたり重視している、または今後重視したいことは何ですか。

選択肢	回答数	比率
優良農地の維持・継承	163	29.3%
人材の育成・確保	66	11.9%
農業所得の向上	232	41.7%
スマート農業の導入などによる農作業の効率化	61	11.0%
新たな販路の開拓	72	12.9%
GAP 認証取得など生産体制の強化	7	1.3%
直売所やインターネット販売などを想定した少量多品目型の栽培	42	7.6%
6次産業化の取組	12	2.2%
ブランド化の取組	36	6.5%
輸出事業の展開	8	1.4%
災害や気候変動など、今後増加するリスクへの対応強化	48	8.6%
法人化	40	7.2%
共同化(共同経営、共同作業、共同出荷)	54	9.7%
経費の削減	154	27.7%
その他	68	12.2%
無回答	126	22.7%
合計	1189	-

Q18 あなたは、農業経営にあたり重視している、または今後重視したいことは何ですか。(n= 556)

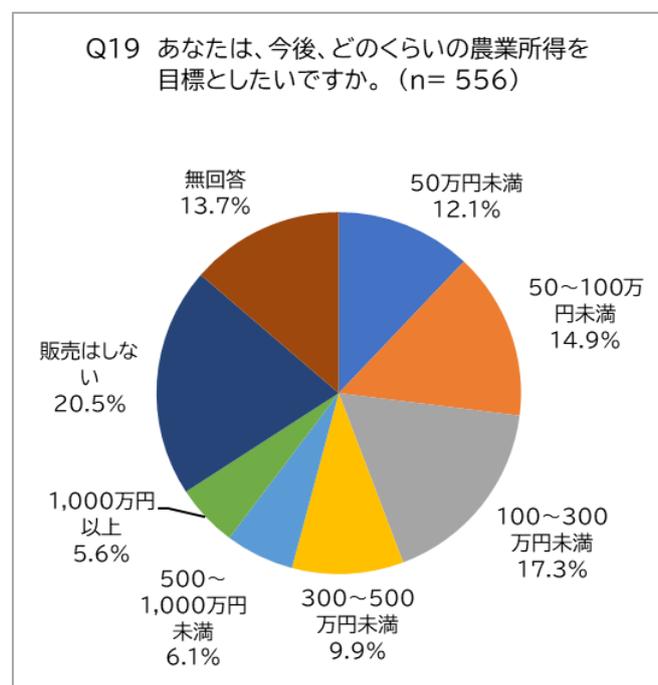


Q18×Q3 居住地区別の今後重視したいこと

	n	合計	優良農地の維持・継承	人材の育成・確保	農業所得の向上	スマート農業の導入などによる農作業の効率化	新たな販路の開拓	GAP 認証取得など生産体制の強化	培地を想定した少量多品目型の販売	6次産業化の取組	ブランド化の取組	輸出事業の展開	災害や気候変動など、今後増加するリスクへの対応強化	法人化	共同化（共同経営、共同出荷）	経費の削減	その他	無回答
全体	556	1,189	163	66	232	61	72	7	42	12	36	8	48	40	54	154	68	126
		213.8%	29.3%	11.9%	41.7%	11.0%	12.9%	1.3%	7.6%	2.2%	6.5%	1.4%	8.6%	7.2%	9.7%	27.7%	12.2%	22.7%
木更津地区	49	89	10	5	18	5	8	0	4	1	1	0	4	4	3	5	10	11
		181.6%	20.4%	10.2%	36.7%	10.2%	16.3%	0.0%	8.2%	2.0%	2.0%	0.0%	8.2%	8.2%	6.1%	10.2%	20.4%	22.4%
清川地区	75	149	22	5	38	5	10	0	4	2	2	0	4	3	6	22	9	17
		198.7%	29.3%	6.7%	50.7%	6.7%	13.3%	0.0%	5.3%	2.7%	2.7%	0.0%	5.3%	4.0%	8.0%	29.3%	12.0%	22.7%
波岡地区	25	41	6	2	8	2	0	0	3	0	0	0	2	0	1	6	3	8
		164.0%	24.0%	8.0%	32.0%	8.0%	0.0%	0.0%	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.0%	0.0%	4.0%	24.0%	12.0%	32.0%
岩根地区	62	132	19	8	20	7	7	1	5	1	6	0	7	4	3	20	6	18
		212.9%	30.6%	12.9%	32.3%	11.3%	11.3%	1.6%	8.1%	1.6%	9.7%	0.0%	11.3%	6.5%	4.8%	32.3%	9.7%	29.0%
鎌足地区	47	99	16	10	13	7	6	0	5	1	4	0	2	3	0	14	5	13
		210.6%	34.0%	21.3%	27.7%	14.9%	12.8%	0.0%	10.6%	2.1%	8.5%	0.0%	4.3%	6.4%	0.0%	29.8%	10.6%	27.7%
金田地区	37	72	6	4	13	4	5	1	1	1	2	0	3	1	4	11	4	12
		194.6%	16.2%	10.8%	35.1%	10.8%	13.5%	2.7%	2.7%	2.7%	5.4%	0.0%	8.1%	2.7%	10.8%	29.7%	10.8%	32.4%
中郷地区	128	318	45	17	64	12	20	3	7	1	12	4	15	12	28	44	15	19
		248.4%	35.2%	13.3%	50.0%	9.4%	15.6%	2.3%	5.5%	0.8%	9.4%	3.1%	11.7%	9.4%	21.9%	34.4%	11.7%	14.8%
富来田地区	129	285	39	15	58	19	16	2	13	5	9	4	11	13	9	32	15	25
		220.9%	30.2%	11.6%	45.0%	14.7%	12.4%	1.6%	10.1%	3.9%	7.0%	3.1%	8.5%	10.1%	7.0%	24.8%	11.6%	19.4%
無回答	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%

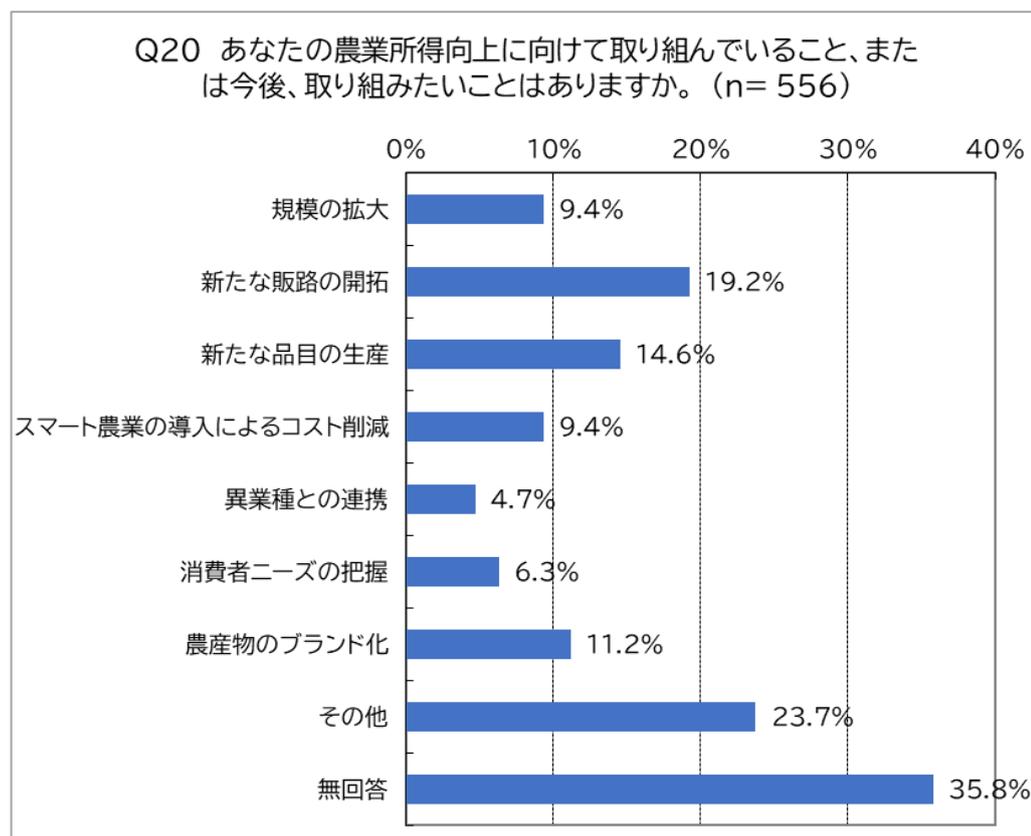
Q19 あなたは、今後、どのくらいの農業所得を目標としたいですか。

選択肢	回答数	比率
50万円未満	67	12.1%
50～100万円未満	83	14.9%
100～300万円未満	96	17.3%
300～500万円未満	55	9.9%
500～1,000万円未満	34	6.1%
1,000万円以上	31	5.6%
販売はしない	114	20.5%
無回答	76	13.7%
合計	556	100.0%



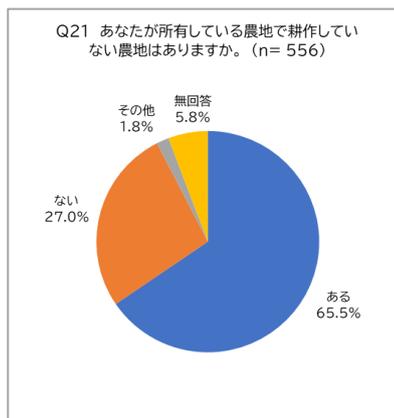
Q20 あなたの農業所得向上に向けて取り組んでいること、または今後、取り組みたいことはありますか。

選択肢	回答数	比率
規模の拡大	52	9.4%
新たな販路の開拓	107	19.2%
新たな品目の生産	81	14.6%
スマート農業の導入によるコスト削減	52	9.4%
異業種との連携	26	4.7%
消費者ニーズの把握	35	6.3%
農産物のブランド化	62	11.2%
その他	132	23.7%
無回答	199	35.8%
合計	746	-



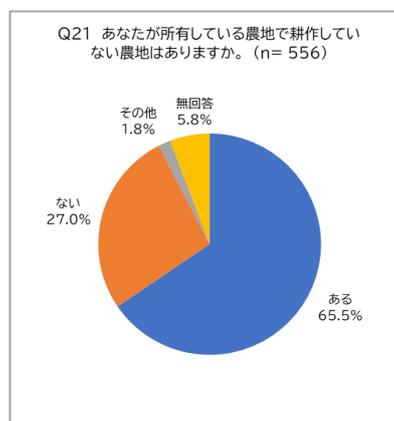
Q21 あなたが所有している農地で耕作していない農地はありますか。

選択肢	回答数	比率
ある	364	65.5%
ない	150	27.0%
その他	10	1.8%
無回答	32	5.8%
合計	556	100.0%



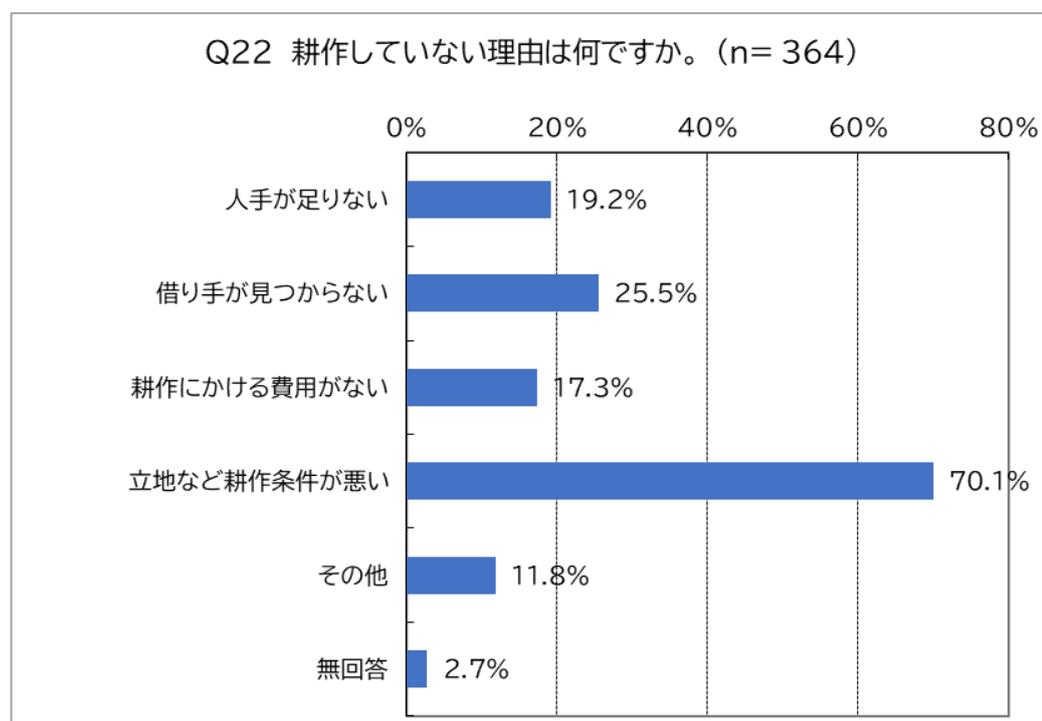
Q22 耕作していない理由は何ですか。
(Q21 で「ある」と回答した方)

選択肢	回答数	比率
人手が足りない	70	19.2%
借り手が見つからない	93	25.5%
耕作にかかる費用がない	63	17.3%
立地など耕作条件が悪い	255	70.1%
その他	43	11.8%
無回答	10	2.7%
合計	534	-



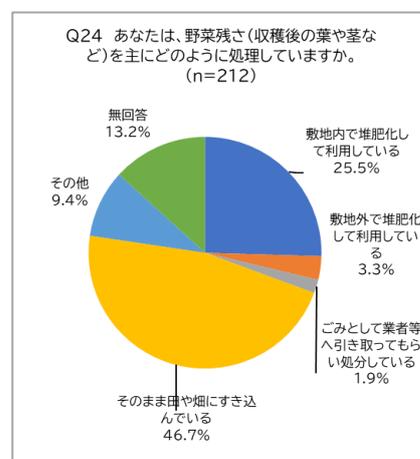
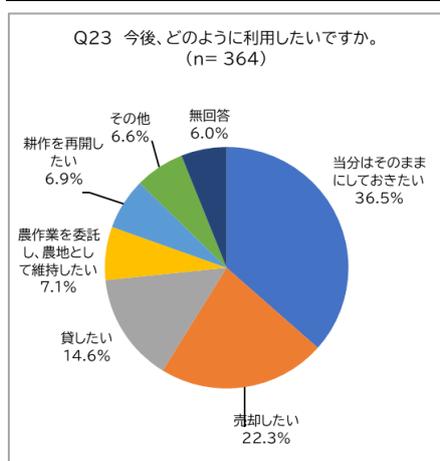
Q22 耕作していない理由は何ですか。
 (Q21で「ある」と回答した方)

選択肢	回答数	比率
人手が足りない	70	19.2%
借り手が見つからない	93	25.5%
耕作にかかる費用がない	63	17.3%
立地など耕作条件が悪い	255	70.1%
その他	43	11.8%
無回答	10	2.7%
合計	534	-



Q23 今後、どのように利用したいですか。
(Q21で「ある」と回答した方)

選択肢	回答数	比率
当分はそのままにしておきたい	133	36.5%
売却したい	81	22.3%
貸したい	53	14.6%
農作業を委託し、農地として維持したい	26	7.1%
耕作を再開したい	25	6.9%
その他	24	6.6%
無回答	22	6.0%
合計	364	100.0%

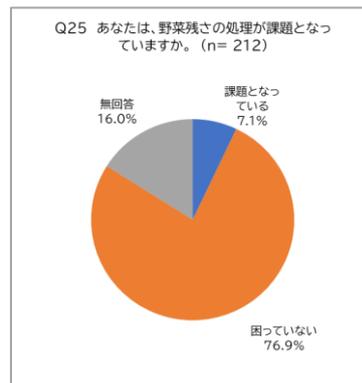


Q24 あなたは、野菜残さ(収穫後の葉や茎など)を主にどのように処理していますか。
(野菜を生産されている方にお聞きします。問5で3と回答)

選択肢	回答数	比率
敷地内で堆肥化して利用している	54	25.5%
敷地外で堆肥化して利用している	7	3.3%
ごみとして業者等へ引き取ってもらい処分している	4	1.9%
そのまま田や畑にすき込んでいる	99	46.7%
その他	20	9.4%
無回答	28	13.2%
合計	212	100.0%

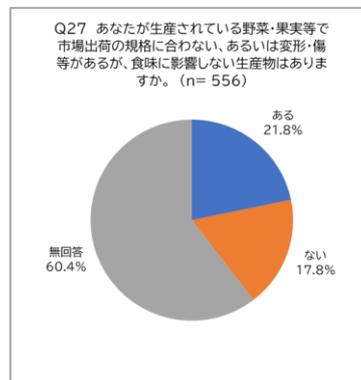
Q25 あなたは、野菜残さの処理が課題となっていますか。
 (野菜を生産されている方にお聞きします。問 5 で 3 と回答)

選択肢	回答数	比率
課題となっている	15	7.1%
困っていない	163	76.9%
無回答	34	16.0%
合計	212	100.0%



Q27 あなたが生産されている野菜・果実等で市場出荷の規格に合わない、あるいは変形・傷等があるが、食味に影響しない生産物がありますか。

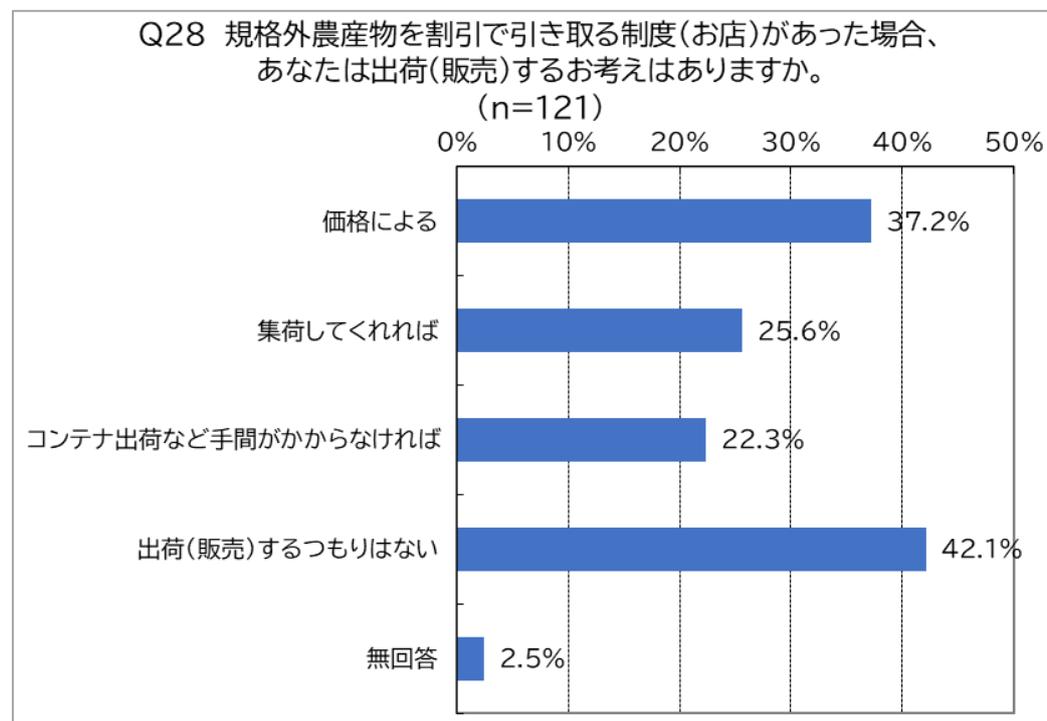
選択肢	回答数	比率
ある	121	21.8%
ない	99	17.8%
無回答	336	60.4%
合計	556	100.0%



Q28 規格外農産物を割引で引き取る制度(お店)があった場合、あなたは出荷(販売)するお考えはありますか。

(Q27で規格外農産物があると回答した方)

選択肢	回答数	比率
価格による	45	37.2%
集荷してくれれば	31	25.6%
コンテナ出荷など手間がかからなければ	27	22.3%
出荷(販売)するつもりはない	51	42.1%
無回答	3	2.5%
合計	157	-

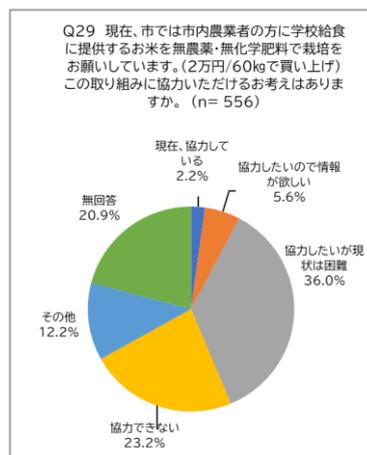


Q28×Q3 居住地区別の規格外農産物出荷意向

	n	合計	価格による	集荷してくれれば	コンテナ出荷など手間がかからなければ	出荷（販売）するつもりはない	無回答
全体	121	157	45	31	27	51	3
		129.8%	37.2%	25.6%	22.3%	42.1%	2.5%
木更津地区	7	7	2	0	1	3	1
		100.0%	28.6%	0.0%	14.3%	42.9%	14.3%
清川地区	14	21	6	5	3	6	1
		150.0%	42.9%	35.7%	21.4%	42.9%	7.1%
波岡地区	4	4	2	0	0	2	0
		100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
岩根地区	14	18	4	3	4	6	1
		128.6%	28.6%	21.4%	28.6%	42.9%	7.1%
鎌足地区	14	21	4	5	4	8	0
		150.0%	28.6%	35.7%	28.6%	57.1%	0.0%
金田地区	4	4	1	1	1	1	0
		100.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%
中郷地区	33	43	17	6	7	13	0
		130.3%	51.5%	18.2%	21.2%	39.4%	0.0%
富来田地区	30	38	9	11	7	11	0
		126.7%	30.0%	36.7%	23.3%	36.7%	0.0%
無回答	1	1	0	0	0	1	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

Q29 現在、市では市内農業者の方に学校給食に提供するお米を無農薬・無化学肥料で栽培をお願いします。(2万円/60kgで買い上げ)この取り組みに協力いただけるお考えはありますか。

選択肢	回答数	比率
現在、協力している	12	2.2%
協力したいので情報が欲しい	31	5.6%
協力したいが現状は困難	200	36.0%
協力できない	129	23.2%
その他	68	12.2%
無回答	116	20.9%
合計	556	100.0%

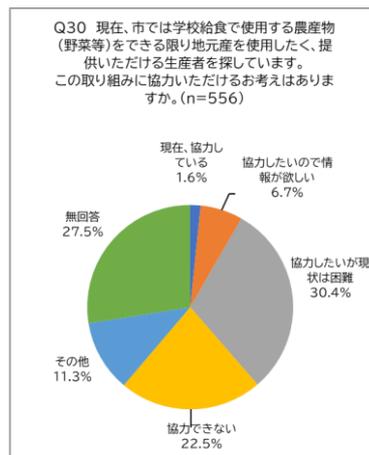


Q29×Q3 居住地区別の学校給食向け生産への協力意向

	n	合計	現在、 協力している	が協力したい ので情報	困難 協力したいが現状は	協力できない	その他	無回答
全体	556	556	12	31	200	129	68	116
		100.0%	2.2%	5.6%	36.0%	23.2%	12.2%	20.9%
木更津地区	49	49	1	3	13	11	9	12
		100.0%	2.0%	6.1%	26.5%	22.4%	18.4%	24.5%
清川地区	75	75	1	3	32	19	5	15
		100.0%	1.3%	4.0%	42.7%	25.3%	6.7%	20.0%
波岡地区	25	25	0	0	12	10	0	3
		100.0%	0.0%	0.0%	48.0%	40.0%	0.0%	12.0%
岩根地区	62	62	3	1	22	10	8	18
		100.0%	4.8%	1.6%	35.5%	16.1%	12.9%	29.0%
鎌足地区	47	47	1	1	16	13	6	10
		100.0%	2.1%	2.1%	34.0%	27.7%	12.8%	21.3%
金田地区	37	37	0	2	12	6	6	11
		100.0%	0.0%	5.4%	32.4%	16.2%	16.2%	29.7%
中郷地区	128	128	2	16	42	26	15	27
		100.0%	1.6%	12.5%	32.8%	20.3%	11.7%	21.1%
富来田地区	129	129	4	5	51	32	18	19
		100.0%	3.1%	3.9%	39.5%	24.8%	14.0%	14.7%
無回答	4	4	0	0	0	2	1	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%

Q30 現在、市では学校給食で使用する農産物(野菜等)をできる限り地元産を使用したく、提供いただける生産者を探しています。この取り組みに協力いただけるお考えはありますか。

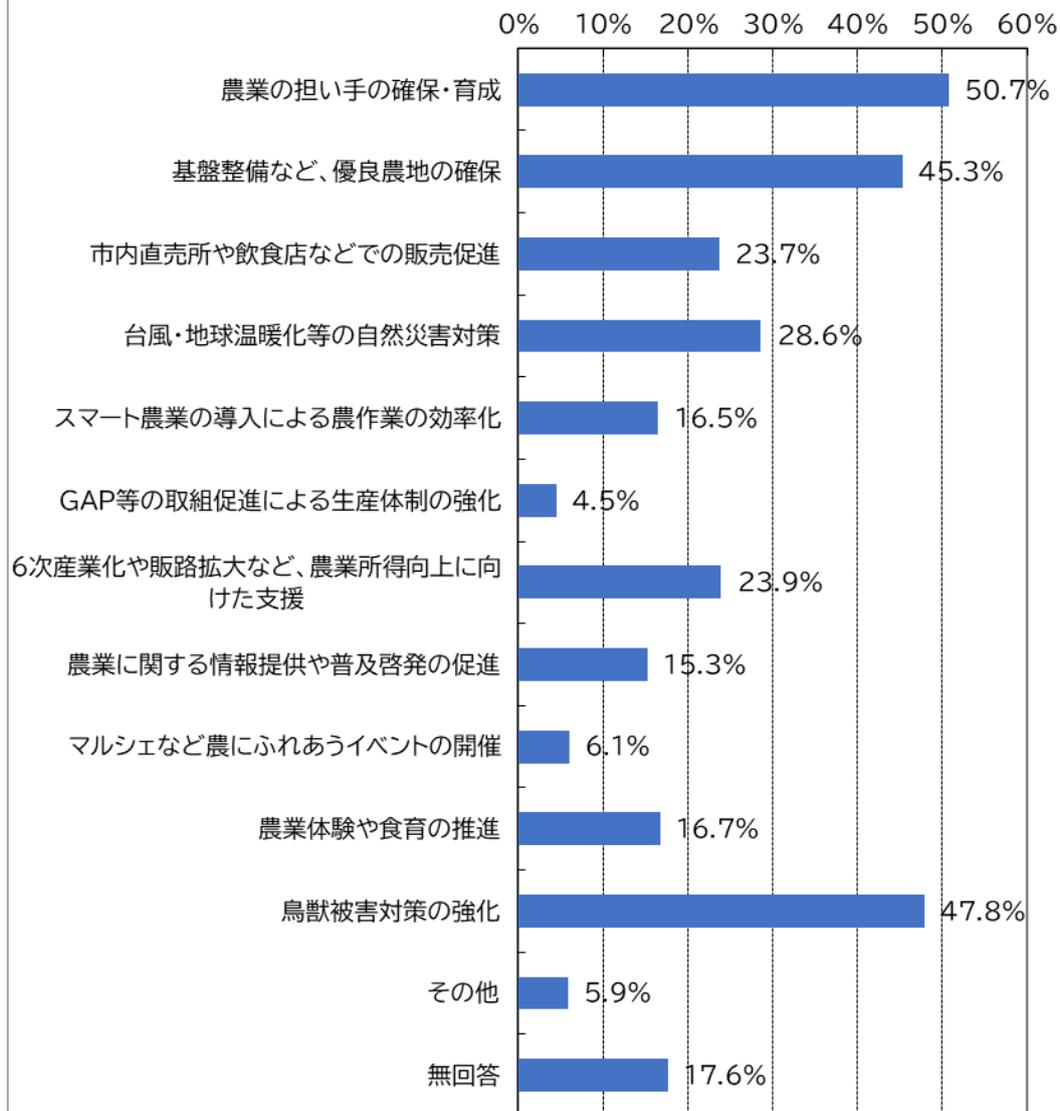
選択肢	回答数	比率
現在、協力している	9	1.6%
協力したいので情報が欲しい	37	6.7%
協力したいが現状は困難	169	30.4%
協力できない	125	22.5%
その他	63	11.3%
無回答	153	27.5%
合計	556	100.0%



Q33 あなたは、木更津市の農業振興のために、どのような取り組みに力をいれるべきと思いますか。

選択肢	回答数	比率
農業の担い手の確保・育成	282	50.7%
基盤整備など、優良農地の確保	252	45.3%
市内直売所や飲食店などでの販売促進	132	23.7%
台風・地球温暖化等の自然災害対策	159	28.6%
スマート農業の導入による農作業の効率化	92	16.5%
GAP 等の取組促進による生産体制の強化	25	4.5%
6次産業化や販路拡大など、農業所得向上に向けた支援	133	23.9%
農業に関する情報提供や普及啓発の促進	85	15.3%
マルシェなど農にふれあうイベントの開催	34	6.1%
農業体験や食育の推進	93	16.7%
鳥獣被害対策の強化	266	47.8%
その他	33	5.9%
無回答	98	17.6%
合計	1684	-

Q33 あなたは、木更津市の農業振興のために、どのような取り組みに力をいれるべきと思いますか。(n= 556)



2.木更津市農業振興推進委員会名簿

(敬称略)

所 属	氏 名
千葉県農業会議(次長)	立崎 政男
公募市民	橋口 京子
公募市民	榎本 かおり
木更津市農業協同組合(代表理事組合長)	石渡 肇
木更津市農業委員会(農業委員)	石渡 和美
木更津市農業委員会(農地利用最適化推進委員)	宮崎 孝行
木更津市園芸振興協議会(会長)	林 正巳
木更津市農協富来田きゅうり部会(部会長)	金子 一夫
高倉農産物直売センター(代表)	岡本 勇
大一木更津青果(株)(代表取締役)	碓井 宏
道の駅木更津うまくたの里(副駅長)	川崎 修吾
イオンリテール木更津店(店長)	高菱 秀一
千葉県君津農業事務所(所長)	荒井 仁

3.木更津市農業振興推進委員会部会名簿

(敬称略)

所 属	氏 名
農業者(水稻)	竹内 和義
農業者(果樹)	関口 育男
農業者(野菜)	太田 陽介
木更津市農業委員会(事務局長)	小高 幸男
木更津市農業協同組合 (営農部長)	石渡 善則
木更津市農業協同組合 (営農課長)	藤浪 徹
君津農業事務所(改良普及課)	宇賀神 七夕子
君津農業事務所(企画振興課)	鈴木 奈緒

4.用語説明

ア行	
エコファーマー	<p>持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律(略称:持続農業法※)に基づき、土づくり、化学肥料・化学合成農薬の使用低減に一体的に取り組む計画(目標達成年度を原則として5年後とする)について、県知事の認定を受けた農業者</p> <p>※持続農業法は、環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律(略称:みどりの食料システム法)附則第2条に基づき、同法の施行(令和4年7月1日)と同時に廃止された。当面の間、持続農業法第4条の規定により同条第1項に規定する持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画(導入計画)の認定を受けている農業者等の地位を保全するため、みどりの食料システム法附則第3条及び第4条において、経過措置が設けられている。</p>
オーガニックビレッジ	オーガニックビレッジとは、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取組を進める市町村のこと。
オーナー制度	消費者が生産者に事前に出資し、生産物を受け取る仕組み(農産物などの場合、出資者が農作業を体験できるものもある)
カ行	
外国人技能実習生	「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」に基づき、外国の実習生が日本において企業や個人事業主等の実習実施者と雇用関係を結び、出身国において修得が困難な技能等の修得・習熟を図るもの
カーボンニュートラル	二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの人為的な「排出量」から植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて合計を実質的にゼロにすること
家族経営協定	家族農業経営に携わる各世帯員が、意欲とやりがいをもって経営に参画できる魅力的な農業経営を目指し、経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いに基づき取り決めるもの
観光農園	農産物の収穫体験ができる農園
グリーン・ツーリズム	緑豊かな農村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ、滞在型の余暇活動のこと
経営耕地面積	農林業経営体が経営する耕地で、自家で所有し耕作している耕地(自作地)と借りて耕作している耕地(借入耕地)の合計面積
経営所得安定対策	諸外国との生産条件の格差から生ずる不利を補正する交付金(ゲタ対策)と、農業者の抛出を前提とした農業経営のセーフティネット対策(ナラシ対策)からなる所得安定のための交付金制度
耕作放棄地	農林業センサスにおいて、「以前耕作していた土地で、過去1年以上作物を作付け(栽培)せず、この数年の間に再び作付け(栽培)する考えのない土地」とされ、農家等の意思に基づき調査把握したもの(統計上の用語)
サ行	
自給的農家	経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家
市民農園	農地を持たない都市の住民のレクリエーションや高齢者の生きがいづくり、生徒・児童の体験学習などの多様な目的で、小さな面積の農地を利用して自家用の野菜や花を栽培する農園
食育	食に関する知識と食を選択する力を取得し、健全な食習慣を身に付けること
スマート農業	ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業

タ行	
多面的機能	国土の保全、水源の涵養(かんよう)、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能
地域計画(人・農地プラン)	地域や集落の話し合いに基づき、地域内の農業において中心的な役割を果たすことが見込まれる農業者(中心経営体)、当該地域における農業の将来の在り方などを明確化すること
地産地消	その地域で生産された農林水産物を、その地域で消費することを通じて、消費者と生産者が互いの距離を縮めようとする取組
地産地消推進店	市が認定した地域(木更津市内)で生産された農林水産物等を積極的に取り扱う小売店・飲食店のこと ※認定したお店には、認定証とのぼり旗・ステッカーを交付
ちばエコ農産物	環境保全と食の安心・安全に配慮した千葉県独自の農産物認証制度「ちばエコ農産物認証制度」で認証された農産物
地理的表示保護制度	その地域ならではの品質、社会的評価等の特性を有する商品の名称を、地域の知的財産として保護する制度
デジタルトランスフォーメーション(DX)	情報通信技術の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること
都市農業	市街地及びその周辺の地域において行われる農業。消費地に近いという利点を生かした新鮮な農産物の供給や農業体験の場の提供、災害に備えたオープンスペースの確保、やすらぎや潤いといった緑地空間の提供など、多様な役割を果たしている。
ナ行	
認定新規就農者	農業経営基盤強化促進法に基づいて、自主的に青年等就農計画を作成し、市町村等から認定を受けた農業者のことで、地域農業の担い手として、農地利用・資金・税制面などの支援を受けることができる
認定農業者	農業経営基盤強化促進法に基づいて、自主的に農業経営改善計画を作成し、市町村等から認定を受けた農業者のことで、地域農業の担い手として、農地利用・資金・税制面などの支援を受けることができる
日本型直接支払制度	農業・農村が持つ国土保全や水源かん養などの多面的機能の維持・発揮のために行う地域の共同活動や営農活動を支援する施策
農業従事者	15歳以上の世帯員で年間1日以上自営農業に従事した者
農業振興地域	総合的に農業の振興を図ることが必要であると認められる地域として、農業振興地域の整備に関する法律により、都道府県知事が指定する地域
農地中間管理機構	農地の借受・貸付を仲介し担い手への農地の集積・集約化を推進する組織
農泊	農山漁村地域に宿泊し、滞在中に豊かな地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ農山漁村滞在型旅行
農福連携	障がい者等が農業分野での活躍を通じ、自信や生きがいをもって社会参画を実現していく取組で、障がい者等の就労や生きがい等の場の創出となるだけでなく、農業就業人口の減少や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながるもの
農林業センサス	日本の農林業の生産構造や就業構造、農山村地域における土地資源など農林業・農山村の基本構造の実態とその変化を明らかにし、農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料となる統計を作成し、提供することを目的に、5年ごとに行う調査
ハ行	

半農半X	農業と他の仕事を組み合わせた働き方で、農業を営みながら、自分のやりたいこと、やりがいのある仕事に携わるライフスタイルのこと
販売農家	経営耕地面積 30a 以上又は農産物販売金額が年間 50 万円以上の農家
人・農地プラン(地域計画)	地域や集落の話し合いに基づき、地域内の農業において中心的な役割を果たすことが見込まれる農業者(中心経営体)、当該地域における農業の将来の在り方などを明確化すること
マ行	
みどりの食料システム戦略	食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を実現させるための政策方針で、農林水産業に伴う温室効果ガスの放出や、化石燃料由来の肥料の使用量を減らすといった環境負荷の低減策が中心となる
ヤ行	
有機農業	化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業
遊休農地	農地法において、「1.現に耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地」、「2.その農業上の利用の程度がその周辺の地域における農地の利用の程度に比し著しく劣っていると認められる農地(1.の農地を除く)」と定義され、農地の有効利用に向けて、遊休農地に関する措置を講ずべき農地(法律上の用語)
ラ行	
6次産業化(六次産業化)	農林漁業者が、農畜産物・水産物の生産などの 1 次産業だけでなく、食品加工や流通・販売などの 2 次産業や 3 次産業にも取り組み、それによって農林水産業を活性化させ、農山漁村の経済を豊かにしていこうとする取組のことであり、「六次産業」という言葉の 6(六)は、「1 次産業の 1」×「2 次産業の 2」×「3 次産業の 3」のかけ算の 6(六)を意味する
英数字・記号等	
GAP	Good Agricultural Practices(農業生産工程管理)の略称で、農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に即して定められる点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動のこと
GAP認証	GAP の取組が正しく実施されていることを第三者機関の審査により、確認・証明してもらうこと
ICT	Information and Communication Technology(情報通信技術)の略称であり、インターネット等の情報・通信技術を利用したサービス等の総称
SDGs	2001 年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標